

 東京医科大学病院
TOKYO MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL

診療連携のご案内

2021 - 2022



| 病院の理念 |

人間愛に基づいて、患者さんとともに歩む良質な医療を実践します。

| 基本方針 |

本学の校是である"正義・友愛・奉仕"を実践します。

1. 患者さんと信頼関係を築き、安心で開かれた医療を提供します。
2. 地域医療機関と連携して良質で高度な医療を提供します。
3. 人間性豊かで人類の福祉と幸せの実現に貢献できる医療人を育成します。

| 患者さんの権利 |

私たちは患者さんの権利を尊重します。

1. 安全で適切な医療を受ける権利があります。
患者さんはそれを実現するため、治療にご協力ください。
2. 患者さんの人権とプライバシーは保護・尊重されます。
3. 診療に関する説明を受ける権利、医療行為を選択する権利があります。
患者さんはご自身の情報を正確にご提供ください。
ご不明な点は理解が得られるまでご質問ください。



病院長
山本 謙吾
YAMAMOTO Kengo

あたらしい強固な医療連携の構築へ

2021年9月1日付で病院長に就任いたしました。先生方には平素より大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

東京医科大学が開校し105年、そして東京医科大学病院が開院し90年を迎えました。2019年には新大学病院が開院し、これまで以上に安心・安全で高度な医療を提供できる病院になりました。我々は医療人として、常に社会ならびに患者さんに対して大きな責務を伴います。特定機能病院として高度医療を提供し続け、且つ日本の医療を支えていくことが社会的使命であると認識しております。患者さんに快適な療養環境を提供できるよう、「安心・安堵」を感じてもらえる病院を目指し、「わかりやすい医療」の提供を心掛け、「患者さんにご満足いただける病院」を目指してまいります。

新型コロナウイルス感染症との闘いが続いている。しかし、当院はこの難局に対処し、乗り越えていく必要があります。地域の先生方との医療連携の推進はいつも増して重要であると認識しています。あたらしい在り方を模索し、より強固な医療連携を構築してまいります。

先生方からご紹介いただいた患者さん一人ひとりを大切に診療し、ご紹介いただいた先生方にもご安心いただき、頼られる病院を目指します。今後とも倍旧のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

MESSAGE ご挨拶

医療連携のニューノーマル構築を目指して

この度、2021年9月1日付にて総合相談・支援センター長を拝命いたしました。

平素より当院との医療連携にご支援いただき、心より感謝申し上げます。

2019年7月に新大学病院がオープンし早2年が経ちました。西新宿というアクセスの良い立地の下、特定機能病院として最新の高度医療と快適な療養環境を提供しています。

総合相談・支援センターの任務は、外来通院から入院治療、退院支援まで、患者さんに寄り添いシームレスな連携を行うことです。しかし、昨年より猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症のために、地域の医療機関の先生方との連携も儘ならぬ状況で、ご迷惑をお掛けしていることと存じます。当センターでは、このような時だからこそ医療連携の役割はさらに重要であると認識して活動しています。

本年も『診療連携のご案内』を作成致しましたので、当院への患者さんご紹介の参考としていただければ幸いに存じます。

医療連携登録医の先生方をはじめ地域の先生方におかれましては、より一層のご指導、ご鞭撻をいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。



病院長特別補佐／総合相談・支援センター長
石川 孝
ISHIKAWA Takashi

TOKYO MEDICAL UNIVERSITY HOSPITAL



CONTENTS

ご挨拶	3
患者紹介用紙(FAX専用)	6
患者さんの紹介について	7
高難度医療技術	8
先進医療	12
診療科のご案内	
総合診療科	14
血液内科	15
呼吸器内科	16
循環器内科	17
糖尿病・代謝・内分泌内科	18
リウマチ・膠原病内科	19
脳神経内科	20
消化器内科	21
腎臓内科/人工透析センター	22
感染症科	23
高齢診療科	24
臨床検査医学科	25
メンタルヘルス科	26
小児科・思春期科	27
呼吸器外科・甲状腺外科	28
心臓血管外科	29
消化器外科・小児外科	30
乳腺科	31
眼科	32
脳神経外科	33
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	34
整形外科	35
形成外科	36
麻酔科(ペインセンター)	37
皮膚科	38
歯科口腔外科・矯正歯科	39
産科・婦人科	40
泌尿器科	41
放射線科/臨床腫瘍科	42
緩和医療部/国際診療部	43
健診予防医学センター/内視鏡センター	44
リハビリテーションセンター/地域周産期母子医療センター	45
救命救急センター	46
聴覚・人工内耳センター/心臓リハビリテーションセンター	47
渡航者医療センター/脳卒中センター	48
細胞・再生医療センター/ロボット手術支援センター	49
口唇口蓋裂センター/認知症疾患医療センター	50
遺伝子診療センター/漢方医学センター	51
不整脈センター/脳神経腫瘍・頭蓋底腫瘍センター	52
人工関節センター	53
炎症性腸疾患(IBD)・良性腸疾患センター/脾臓・胆道疾患センター	54
組織図	55
総合相談・支援センター	56
病院案内	57
東京都災害拠点病院/地域がん診療連携拠点病院	59
診療実績(2020年1月~2020年12月実績)	60
医療連携医登録制度(メディカルパートナーズ)	62
セカンドオピニオン/患者申出療養制度	63
学校法人東京医科大学	64
アクセス	
裏表紙	



患者紹介用紙(FAX専用)

東京医科大学病院

総合相談・支援センター 医療連携担当 行

■ 予約受診日時 月 日() 時 分

■ 紹介先診療科 科 医師

■ 紹介元医療機関情報入力欄

医療機関名			
紹介医師名			
所在地	〒		
電話		FAX	

■ 患者基本情報入力欄

フリガナ			性別	生年月日		
氏名			男 ・ 女	年	月	日生 (歳)
電話						
住所	〒					
当院受診歴	無・有 (当院診察券ID番号: - - -)					

<患者紹介時の注意事項>

- 電話にて予約取得後、この用紙を速やかにFAXしてください。
FAX到着後に登録を行い、患者さんにお渡しいただく予約票をFAXで返送いたします。
- 診療情報提供書(紹介状)をFAXにてお送りください。(任意)
- 夜間・休日の救急外来診療のFAXは受け付けておりません。

TEL 03-5339-3808 (総合相談・支援センター
医療連携担当直通)

患者さんの紹介について

直接来院される場合

患者さんに紹介状をお渡しいただき、
診療受付時間内に1F初診受付に持参するようお伝えください

〔 診療受付時間 〕

平 日 午前診 8:00～11:00

午後診 各診療科にお問い合わせください

土曜日 午前診 8:00～11:00
(第1・3・5)

〔 休診日 〕

- 第2・4土曜日、日曜日、祝祭日
- 年末年始(12月29日～1月3日)
- 4月第3土曜日(創立記念日代替日)

予約来院される場合

予約日・時間をその場でご回答いたします

① 貴院よりお電話をし、予約をお取りください

TEL 03-5339-3808 (総合相談・支援センター 医療連携担当直通)

(平日 8:30～16:40 / 第1・3・5土曜日 8:30～11:40)

※診療科と医師名をご指定ください

※診療科によっては予約が取りできない場合がございますあらかじめご了承ください

※検査のみの予約は原則お取りしていませんので、まずは外来診療からお願ひいたします

② 患者紹介用紙(FAX専用)をお送りください

FAX 03-3342-6203

※6ページに「患者紹介用紙(FAX専用)」がございます
また、ホームページからもダウンロードできます

③ 受診予約票をFAXにて送信いたします

④ 患者さんに受診予約票および紹介状(診療情報提供書)をお渡しいただき、
受診予約日に1F初診受付に持参するようお伝えください

患者さんが受診予約日にお持ちいただくもの

- | | |
|-----------------------------|---|
| ● 受診予約票 | ● 保険証(公費医療証をお持ちの方は医療証、ただしお取扱いできない公費もあります) |
| ● 紹介状(診療情報提供書、検査データや画像データ等) | ● 診察券(東京医科大学病院の診察券をお持ちの方) |
| ● お薬手帳(お持ちの方) | |

※紹介状をお持ちでない場合、患者さんより選定療養費をお支払いいただきます

⑤ 診療情報提供書(紹介状)をFAXにてお送りください(任意)

FAX 03-3342-6203

※診療情報提供書の事前提供にご協力ください

高難度医療技術

高度な医療を担う特定機能病院として、次の高難度医療技術を用いた医療の提供を実施しております。

消化器内科

技術名	担当医	適応症	技術内容
不可逆電気穿孔法 (IRE: ナノナイフ)	糸井 隆夫 杉本 勝俊	肝がん	ラジオ波焼灼療法(RFA)と同様に、画像ガイド下に電極針と呼ばれる針を腫瘍内に挿入し、腫瘍を壊死させるがん局所療法の一種です。RFAでは熱の力でがん組織を凝固壊死させて治療しますが、IREでは電気の力でがん細胞に微小な穴を開け、がん細胞をアボートシスに導きます。 そのため、がんが血管・胆管・神経などの熱に脆弱な組織に接している場合でも、安全かつ効果的に治療することが可能です。(先進医療日承認済)
食道アカラシアに対する 経口内視鏡下筋層切開術 (POEM: ポエム)	糸井 隆夫 福澤 誠克 河野 真	食道アカラシア びまん性食道拡張 ジャックハンマー食道 など	食道アカラシアやその類縁疾患に対する新規治療です。従来、外科的に食道筋層を切開するHeller-Dorが行われていましたが、POEMは内視鏡下に筋層切開を行うことで、低侵襲かつ優れた治療効果をもたらします。また、高解像度食道内圧検査(High-Resolution Manometry)も導入しており、診断から治療まで一貫して行うことが可能です。
超音波内視鏡下胃空腸吻合 バイパス術	糸井 隆夫 土屋 貴愛	胃十二指腸狭窄	脾がんや胃がんなどの終末期に生じ得る悪性胃十二指腸狭窄の治療として、内視鏡的に胃空腸吻合術を行う「ダブルバルーンチューブを利用した超音波内視鏡下胃空腸吻合術」を世界に先駆けて開発しました。侵襲が小さく、非常に有用な方法であり、良好な治療成績を得ています。(特定臨床研究承認済)
切除不能脾がんに対する 強力集束超音波(HIFU)治療	祖父尼 淳	切除不能脾がん	HIFU治療は、治療装置に取り付けられた多数の超音波発信源から多数の超音波をがんの目的部位の1点に集束させ、体外からがんの焼灼を行う治療法です。放射線被曝がなく、針や麻酔なども必要としない低侵襲治療です。切除不能の脾がんに対して抗腫瘍効果や症状緩和効果が認められております。当院では、2008年12月より2019年3月まで当院の医学倫理審査委員会の承認のもと、臨床研究として行っておりましたが、現在は医学倫理審査委員会承認のもと自費診療で行っております。 https://hospiinfo.tokyo-med.ac.jp/shinryo/syoukakinaika/hifu.html

小児科・思春期科

技術名	担当医	適応症	技術内容
次世代シークエンサーによる遺伝子解析	沼部 博直 鈴木 慎二 河島 尚志	原因不明の代謝性疾患 (ミトコンドリア病を含む) QT延長症候群 結合織病(Marfan)など	次世代シークエンサーを用いて、エクソームの塩基配列を並列して大量かつ高速に解析することにより、さまざまな遺伝子配列を同時に解析することが可能となりました。この技術を用いて、種々の遺伝子疾患の解析を行います。
高密度脳波によるてんかんの発作焦点解析	小穴 信吾 森地 振一郎	てんかん	全国に先駆けて高密度脳波計(以下dEEG)を小児発作性疾患の研究に導入しています。従来の脳波計は19チャネルですが、dEEGは128チャネルでの波形記録が可能です。空間分解能に優れ、より正確な信号源推定を行うことができます。
起立負荷ポリグラフ検査	吳 宗憲	起立性調節障害 体位性頻脈症候群 起立性低血圧 血管迷走神経性失神	近赤外線分光装置(NIRS)および非観血的連続血圧測定器(Finapres)を用いて体位変換における脳循環・体循環をダイナミックに評価します。カテコラミン値測定およびホルター心電図によるHRV(心拍周波数解析)を併用することで自律神経反応を多面的に解析します。
近赤外線分光装置を用いた組織酸素代謝の測定	石井 宏樹 奈良 昇乃助	超早産児 超低出生体重児 重症新生児仮死児	近赤外分光装置を用いた各組織での酸素代謝を計測することで、超早産児や超低出生体重児においては循環管理の向上による予後の改善を図り、重症新生児仮死児においては予後予測に役立てる取り組みを行っています。
小腸カプセル内視鏡 大腸カプセル内視鏡	西亦 繁雄 堤 範音	原因不明の消化管出血 小腸バルーン内視鏡施行困難例など	小腸カプセル内視鏡は、原因不明の消化管出血や小腸バルーン内視鏡施行困難例に施行しています。小腸多発潰瘍、クローゼ病や紫斑病などの患者さんが多いです。大腸カプセル内視鏡は、大腸内視鏡困難例や病状の安定している大腸病変のある患者さんのフォローアップに施行しています。
呼吸機能検査による 炭酸ガス換気応答試験 (VRCO2)	菅波 佑介	中枢性肺胞低換気症候群 (CCHS)	呼吸中枢の反応性を評価する検査で、血中二酸化炭素濃度上昇に対して換気量を増加させる生理学的反応を利用しています。呼吸機能検査装置を用いる非侵襲的な検査であり、CCHS の鑑別診断において重要な検査となります。

心臓血管外科

技術名	担当医	適応症	技術内容
自己弁温存手術	荻野 均	大動脈基部の拡張した 大動脈弁閉鎖不全症など	大動脈基部の病気に対して、自己の大動脈弁を温存、つまり大動脈弁を取り替えない手術方法です。一般的にはDavid手術などと呼ばれ、特殊な技術が必要です。ワーファリンなどの抗凝固薬から解放され、若年の患者さんにとって、とても意義があります。
肺動脈血栓内膜摘除術 (PEA)	荻野 均	慢性血栓塞栓性 肺高血圧症	人工心肺下を使用して低体温循環停止下に、両側肺動脈内の肥厚した血栓塞栓物と共に肺動脈内膜より削ぎ落としていく手術で、高い技術が必要になります。日本国内では数少ない実施施設です。

技術名	担当医	適応症	技術内容
低侵襲心臓手術(MICS) ポートアクセス手術	荻野 均	僧帽弁・大動脈弁疾患	できるだけ小さな開創から特殊な器械を用いて手術を行います。胸腔鏡を使用していますが、当院では3Dハイビジョンカメラを用いて手術を行っています。
分枝を伴うステントグラフト内挿術(TEVAR・EVAR)	西部 俊哉	胸部・腹部・胸腹部大動脈瘤 (頸部・腹部分枝にかかる場合)	各臓器への血流確保のため、頸部や腹部の分枝にバイパスを作成、もしくはステントやステントグラフトを留置して、事前に計測し作成されたステントグラフトを留置します。
血管新生療法	福田 尚司	閉塞性動脈硬化症 バージャー病	自己骨髄培養間葉系幹細胞移植による血管新生療法です。患者さんの腰・骨盤の骨などより自己の骨髄細胞を採取し、その中から血管新生を促す間葉系幹細胞を実験室で抽出、培養、増殖させます。十分に増殖したその細胞を、患者さんの下腿を中心にして注入することにより、血管新生を促進させます。

消化器外科・小児外科

技術名	担当医	適応症	技術内容
脾頭部腫瘍に対する 内視鏡下手術	土田 明彦 永川 裕一	脾頭部腫瘍	脾頭部にある腫瘍に対して行われる腹腔鏡下脾頭十二指腸切除術は、体に優しい手術として期待されていますが、高度な技術を必要とするため一部の施設のみ施行が認められています。経験豊富な脾臓手術および内視鏡手術のエキスパートで構成された手術チームで、本手術が施行されています。
食道がん ロボット支援下手術 (ダヴィンチ)	逢坂 由昭 太田 喜洋	食道がん	胸部食道がんに対する胸腔鏡下食道切除術を、ロボット支援下(ダヴィンチ)に施行しています。ロボット手術の特徴である自由度の高い関節付き鉗子による手術操作や手ぶれ防止機能、ハイビジョン3Dモニターによる拡大視効果によって、通常手術より精度の高い回返神経周囲リンパ節郭清や、出血量の減少が可能となり、より低侵襲な手術が施行されます。
大腸がん ロボット支援下手術 (ダヴィンチ)	勝又 健次 石崎 哲央 榎本 正統	大腸がん	ロボットによる精緻なリンパ節郭清によりがんを完全切除すると同時に、拡大効果と3D映像により神経温存することで、根治性と機能温存を両立します。また、患者さん目線で低侵襲かつ体にやさしい手術を心がけています。

眼科

技術名	担当医	適応症	技術内容
眼表面の悪性腫瘍に対する 局所化学療法	後藤 浩 白井 嘉彦 馬詰 和比古	眼表面の悪性腫瘍	マイトイマシンCおよびインターフェロン点眼を扁平上皮がんや結膜悪性黒色腫の術前・術後の後療法に用いています。
前房水を用いたぶどう膜炎の 診断および眼内悪性リンパ腫	後藤 浩 毛塚 剛司 白井 嘉彦	ぶどう膜炎 眼内悪性リンパ腫	約50μlの前房水のインターロイキン(IL)6、IL-10の濃度を測定し、眼内の悪性リンパ腫の診断に活用しています。
前眼部三次元画像解析を用いた コンタクトレンズ処方	森 秀樹	コンタクトレンズ	前眼部三次元画像解析を用いて角膜表面の詳細な解析をすることによって、コンタクトレンズのオーダーメイド作成を実行しています。

脳神経外科

技術名	担当医	適応症	技術内容
頭蓋底腫瘍手術	河野 道宏 伊澤 仁之 中島 伸幸 深見 真二郎 松島 健 坂本 広喜	小脳橋角部腫瘍 (聴神経腫瘍、髓膜腫など)	当科で最も症例数の多い手術でありアプローチの選択、摘出時の持続神経モニタリングを利用して安全に摘出率をあげています。術前に栄養血管塞栓術を利用することを検討し施行しています。
神経内視鏡手術	中島 伸幸 深見 真二郎 坂本 広喜 一耕 倫生	水頭症 脳室内腫瘍 下垂体腫瘍 脳出血・脳室内出血など	硬性内視鏡・軟性内視鏡を駆使して脳室内のみならず、各部位で観察から腫瘍摘出術、血腫除去術、開窓術などあらゆる手技を行えるようになりました。低侵襲手術として近年、症例数を増やしています。
フローダイバータ ステント留置術	橋本 孝朗 新井 佑輔 坂本 広喜 菊野 宗明	大型動脈瘤	Flow diverterとは、従来の動脈瘤治療用ステントよりもさらに目が細くなった円筒状のデバイスです。動脈瘤の中に入りする血流の速度を低減することで動脈瘤内の血栓化を促進し、経時に動脈瘤の縮退・根治を狙える全く新しいコンセプトの治療です。当院では2019年に治療導入しており、10mm以上の大型動脈瘤に対して良好な成績を収めています。
光線力学療法	秋元 治朗 深見 真二郎 永井 健太	悪性脳腫瘍	悪性脳腫瘍に対するレーザー光を用いた新しい治療法です。患者さんに光感受性物質を投与し、手術中にレーザー光を照射し、抗腫瘍効果を得るもので、これは光感受性物質が腫瘍に集積し、レーザー光で光化学反応を介して活性酸素を発生することで効果を発揮します。保険適応となる以前からこの治療に取り組んでおり、経験症例数が豊富です。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

技術名	担当医	適応症	技術内容
経口的ロボット支援手術 (ダヴィンチ)	塚原 清彰 清水 顕	中咽頭がん 下咽頭がん 声門上がん	中咽頭がん・下咽頭がん・喉頭がんを口から摘出する手術です。手術支援ロボット(ダヴィンチ)を使用することにより、より確実な切除が行えます。Tis,T1,T2症例を対象とし、特に舌根部がんの切除に有効です。
進行頭頸部がん拡大切除・遊離皮弁再建	塚原 清彰 岡本 伊作	局所進行頭頸部がん (下咽頭がん・中咽頭がん・上頸洞がん・口腔がん・唾液腺がんなど)	進行頭頸部がんに対し、切除(がんを摘出する)と再建(食事・呼吸・発声などの機能障害を最小限にする)を同時にいます。皮弁を採取して欠損部に移植し、頸部の血管と吻合します。手術で残した正常組織を最大限生かし、機能障害を軽減するために様々な工夫を行います。
広範囲頭蓋底	塚原 清彰 岡本 伊作	副鼻腔がん 嗅神經芽細胞腫 外耳道がん 中耳がんなど	頭蓋底とは顔面・頭部の最深部位に位置し、生命維持に欠かせない神経や血管が密集している領域です。脳神経外科医と連携し、頭部側と頸部側の両方から腫瘍にアプローチを行います。機能障害を最小限にとどめ、安全な切除が可能です。
拡大副鼻腔手術 (内視鏡手術V型)	矢富 正徳	前頭洞炎 副鼻腔炎	前頭洞炎に対する前頭洞単洞化手術、また副鼻腔炎が頭蓋底および眼窩内に波及した場合に鼻副鼻腔経由にアプローチする手術方法です。

形成外科

技術名	担当医	適応症	技術内容
培養表皮移植を用いた熱傷治療	松村 一	広範囲熱傷 先天性巨大母斑	患者さんより採取した小皮膚片より、表皮細胞を採取し培養することで、約1000倍の面積の培養表皮シートを作成し、皮膚欠損部位に移植する治療法です。
はちみつを用いた難治性潰瘍治療	松村 一	難治性皮膚潰瘍	はちみつの持つ抗菌作用・創傷治癒促進効果を用いて、難治性の潰瘍や瘻孔の治癒を目指す方法です。ニュージーランドやヨーロッパなどでは取り入れられています。

麻酔科

技術名	担当医	適応症	技術内容
硬膜外脊髄電気刺激療法 (SCS : Spinal Cord Stimulation)	内野 博之 大瀬戸 清茂 福井 秀公	①末梢血管障害 (peripheralvascular disease: PVD) ②脊椎術後症候群 (multipleoperation back: MOB, failed back surgery syndrome: FBSS) ③慢性難治性疼痛症 ④複合性局所疲痙攣症候群 (complexregional pain syndrome: CRPS)	硬膜外腔より脊髄に電気刺激を与える治療法です。本治療の目的は、疼痛緩和であり、脊髄刺激にて半分から1/3になったものを有効と判断します。疼痛部位を支配する脊髄に合わせて刺激電極を硬膜外腔に挿入し、留置。刺激確認を行った後、刺激装置の植え込み術を行います。状況に応じて、試験刺激期間を設定し、鎮痛効果を確認後、刺激装置の植え込み術を行うこともあります。

産科・婦人科

技術名	担当医	適応症	技術内容
骨盤臓器脱に対するロボット支援腹腔鏡下手術 (ダヴィンチ)	西 洋孝 佐々木 徹	骨盤臓器脱 (子宮脱・膀胱瘤・直腸瘤)	骨盤臓器脱に対するロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術を行います。仙骨腔固定術とは、子宮を亜全摘し残った子宮頸部と岬角の前縦韌帯をポリプロピレンメッシュにより架橋する術式のことです。
進行または再発卵巣がんに対する根治的手術	西 洋 孝 佐々木 徹 山本 阿紀子 大村 涼子	腹腔内臓器に転移をきたした進行・再発卵巣がん	進行・再発例であっても手術により完全切除が行われれば、予後は著明に改善します。通常では取り扱わない腹腔内転移臓器(横隔膜・脾臓・膵臓・消化管など)を積極的に切除・再建することにより、良好な生存率をあげています。
早期子宮悪性腫瘍に対するロボット支援腹腔鏡下子宮悪性手術	西 洋孝	子宮頸がん I A2~II B期 子宮体がん I A期	子宮悪性腫瘍手術は難易度が高く、術中出血量の多さが特徴です。また術後合併症として排尿障害など患者さんのQOLを下げる可能性があります。しかし、ロボットを用いると出血量の軽減だけでなく排尿障害も軽減します。何よりも開腹手術に比べ、腹腔鏡と同様小さい創で手術ができるので、患者さんの満足度も高いと思われます。全国に先駆けてロボット手術を導入しており、子宮悪性腫瘍に対しても豊富な症例経験を有しています。
子宮動脈塞栓術(UAE)	伊東 宏絵	挙児希望のない子宮筋腫	現在子宮筋腫に対する治療法は多岐にわたり、内科的治療と外科的治療があります。子宮動脈塞栓術(UAE)は有症状で内服による治療の副作用があり、さらに手術を希望しない患者さんに最適な治療法です。当院では、経験豊富な放射線科医師が手技を行います。
体外受精・胚移植	久慈 直昭	不妊症	本邦での体外受精による出生児数は4%を超え、増加傾向にあります。しかし、まだ専門病院への受診となると、躊躇してしまう不妊で悩むカップルは多いかと思われます。当院のリプロダクションセンターでは総合的に不妊の精査を行い、適応や希望に応じて体外受精のアドバイスを行っております。

放射線科

技術名	担当医	適応症	技術内容
高度な血管内治療	齋藤 和博 佐口 徹	血管塞栓術 ドレナージ 生検	肝細胞がんに対する経カテーテル的化学塞栓術をはじめとし、緊急を要する動脈性出血に対する緊急止血術、内臓動脈瘤など幅広く血管内治療を行っています。肺動静脈瘻、副腎静脈採血など静脈系の対応も可能です。CTあるいはエコーガイド下ドレナージ、生検など非血管系治療にも対応しています。子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術(UAE)を行っております。
強度変調放射線治療	三上 隆二	肺がん 前立腺がん 脾がん 脳腫瘍など	腫瘍に対して照射すべき線量を設定し、重要臓器に対して照射される線量に制限を設けて、両者を満たす照射方法をコンピュータに計算させることによって理想的な照射方法を実現する方法です。個別化医療の一つといえます。

内視鏡センター

技術名	担当医	適応症	技術内容
経鼻内視鏡による内視鏡診断	河合 隆 柳澤 京介 杉本 光繁 永田 尚義 岩田 英里	食道がん 胃がん	がんスクリーニングの際に、経鼻内視鏡のNBI近接観察を用いて、病変と周囲正常粘膜との境界線(Demarcation Line、以下DL)の有無、DL内部領域での粘膜構造の有無やバターンといった所見を総合的に判断し、病変の良悪性鑑別を行っています。このNBI近接観察による粘膜構造の所見に基づいた良悪性鑑別は、白色光観察と比較して、感度・特異度共に高いことを報告しております。

渡航者医療センター

技術名	担当医	適応症	技術内容
黄熱ワクチンの接種	濱田 篤郎 福島 �慎二 栗田 直	黄熱ワクチン	黄熱はアフリカや南米で流行している感染症で、入国時に接種証明書の提示を要求する国もあります。従来、黄熱ワクチンは厚生労働省検疫所でのみ接種が行われていましたが、当センターでも接種が受けられます。
輸入ワクチンの接種	濱田 篤郎 福島 �慎二 栗田 直 多田 有希 松永 優子	腸チフスワクチン ダニ媒介脳炎ワクチン コレラワクチン Tdap(破傷風・ジフテリア・百日咳混合)ワクチン MMR(麻疹・ムンプス・風疹混合)ワクチン	海外渡航者向けワクチンの中には日本で未承認のワクチンが数多くあります。未承認ワクチンの中でも渡航者に需要の高い左記ワクチンを輸入し、希望者に接種しています。なお、未承認ワクチンについては、副作用発生時の医薬品副作用被害救済制度の対象にはなりません。
高山病の予防対策	増山 茂 栗田 直	高山病	ヒマラヤやキリマンジャロなど海外の高地に滞在する方々を対象に高山病の予防指導を行っています。日本登山医学会登山者健診ネットワーク事業に準拠した健康診断を行った上で指導をいたします。
海外勤務者のメンタルヘルス対策	松永 優子	海外でのメンタル疾患	海外駐在員の中には、滞在先でメンタル面の不調をおこすことがあります。精神科専門医が海外勤務を予定している方に面談を行い、海外でのメンタル疾患の予防対策を指導いたします。

脳卒中センター

技術名	担当医	適応症	技術内容
超急性期脳主幹動脈再開通療法	橋本 孝朗 坂本 広喜 菊野 宗明 新井 佑輔	超急性期脳主幹動脈閉塞による脳梗塞	脳を栄養する主幹動脈が閉塞した場合、意識障害、麻痺などの強い症状が出現し、時間経過とともに不可逆的な変化となり、脳梗塞に至ってしまいます。閉塞部位を早期に再開通することで脳梗塞を最小限にとどめることができます。具体的には、閉塞部の血栓をステントあるいは吸引カテーテルを用いて回収したり、狭窄病変があれば、バルーンカテーテルで拡張をします。当センターでは本技術を積極的に導入し、良好な治療成績を得ています。

先進医療

先進医療とは、国民の安全性を確保し、患者負担の増大を防止するといった観点も踏まえつつ、国民の選択肢を拡げ、利便性を向上するという観点から、保険診療との併用を認めることとしたものです。

[先進医療A]

眼科

技術名	適応症	治療方法	承認年月日
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	感染性ぶどう膜炎(ヘルペス性虹彩毛様体炎、急性網膜壊死、サイトメガロウイルス網膜炎)	涙液、前房水、硝子体などの眼局所からえられる検体を用いて、病原微生物(ウイルス)の感染の有無を調べます。	2017年9月1日

泌尿器科

技術名	適応症	治療方法	承認年月日
MRI撮影および超音波検査融合画像に基づく前立腺生検法	血清PSA値が4.0～20ng/mlかつ前立腺MRI検査にてがんの存在が疑われる所を見有する方	腰椎麻酔下で肛門から超音波プローブを挿入し、超音波検査画像と事前に撮影したMRIを融合します。がんが疑われる個所を明確にし、そこに生検を行います。生検後は、採取した組織を顕微鏡で観察し、病理組織診断を行います。	2019年1月1日

[先進医療B]

消化器内科

技術名	適応症	治療方法	承認年月日
切除およびラジオ波治療困難な難治性肝細胞癌に対する不可逆電気穿孔法治療(Irreversible Electroporation, IRE)	肝細胞がん(肝内における長径3センチメートル以下の腫瘍が3個以下又は長径5センチメートル以下の腫瘍が1個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が9点以下のものに限る。)	画像(超音波、CT等)を参照しながら、がんの周囲に複数の電極針を挿入します。その後、電極針間に電気パルスを放射することにより、がん細胞を破壊します。治療は全身麻酔下で行いますので、痛みは感じません。	2019年8月1日
不可逆電気穿孔法	肝細胞がん(肝内における長径3センチメートル以下の腫瘍が3個以下又は長径5センチメートル以下の腫瘍が1個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が9点以下のものに限る。)	肝細胞がんの治療として肝切除術やRFAは有効な治療法であり、本邦において広く行われています。しかし、肝機能が悪い症例や高齢者では肝切除の適応にならないことが多いです。またRFAも胆囊、胆管、消化管等の熱に脆弱な組織が腫瘍の近傍にある場合には適応となりません。それらの症例には肝動脈塞栓療法(TACE)が広く行われていますが、その治療効果は肝切除やRFAと比べ低いのが現状です。そのためTACEは繰り返し行う必要があります。IREはRFAと異なり、治療により熱がほとんど発生しないため、それらの熱に脆弱な組織の近傍にある肝細胞がんに対しても実施が可能です。肝切除およびRFAが困難で、標準治療としてはTACEが適応となる難治性肝細胞がんを対象とし、IREの有効性を過去のTACEの治療成績と比較することで評価します。	2019年8月1日

消化器外科・小児外科

技術名	適応症	治療方法	承認年月日
術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	盲腸から上部直腸(Raまで)の腺がんと診断され、治癒切除し得た病理学的Stage Ⅲの大腸がんが対象 ただし、20～80歳でPSO-1、抗血小板薬や抗凝固薬・NSAIDsを内服していない術後8週間以内の方	外来にて、アスピリンを1日1回1錠(100mg)を連日内服します。内服期間は3年です。 同時に、pStage Ⅲ A/Ⅲ Bではカペンシタビン療法6か月、pStage Ⅲ Cではオキサリプラチン併用療法(mFOLFOX6療法、またはCAPOX療法)を6か月行う事を原則とします。	2020年4月1日

呼吸器外科・甲状腺外科

技術名	適応症	治療方法	承認年月日
周術期デュルバルマブ静脈内投与療法	肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	肺尖部胸壁浸潤がん(superior sulcus tumor:SST)に対する術前化学放射線療法後の術前後デュルバルマブ療法および手術不能例のデュルバルマブ維持療法の集学的治療の安全性と有効性を検証します。現在の標準治療では、SSTの半数以上の患者さんにおいて増悪が認められます。しかし、SSTが稀少な疾患であるため、積極的な治療開発が行われてきませんでした。この先進医療では、術前後にデュルバルマブを追加することにより、治療成績の向上を期待するものであります。	2021年6月1日

総合診療科



科長 平山 陽示
HIRAYAMA Yoji



診療案内

- 成人初診患者さんで、受診科が明確でない方(原則15歳以上75歳未満)を担当します。他院通院中の患者さんは診療情報提供書を持参し、来院ください。
- 必要に応じて専門各科に相談(コンサルテーション)します。
- 軽症の場合は、患者さんや専門各科と相談して、かかりつけ医にご紹介します。
- 軽症で、短期治療ですむ場合には、当科で治療を完結することもあります。
- 「診断がついていない」「いろいろな病気が絡み合っているようだ」「症状があるのに異常が見つからない」という場合にもご相談ください。

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
大滝 純司	兼任教授	総合診療、プライマリ・ケア、内科一般、家庭医療	金 AM
平山 陽示	臨床教授	総合診療、プライマリ・ケア、禁煙外来、循環器内科	水 AM 金 AM 水 PM (禁煙外来)
及川 哲郎	教 授	漢方診療、総合診療、消化器内科	火 PM (漢方外来) 水 PM (漢方外来) 金 PM (漢方外来)
原田 芳巳	准 教授	総合診療、禁煙外来、内科一般	火 AM 木 PM (禁煙外来)
川上 浩平	講 師	総合診療、消化管疾患	火 AM 木 AM
宮島 豪	助 教	総合診療	水 AM PM
畠中 志郎	助 教	総合診療	木 AM 金 PM
安彦壮一郎	助 教	総合診療	月 AM 木 PM

取り扱っている主な疾患

原因のわからない発熱、倦怠感、体重減少、疲労感、健康相談、急性で軽症の内科系疾患

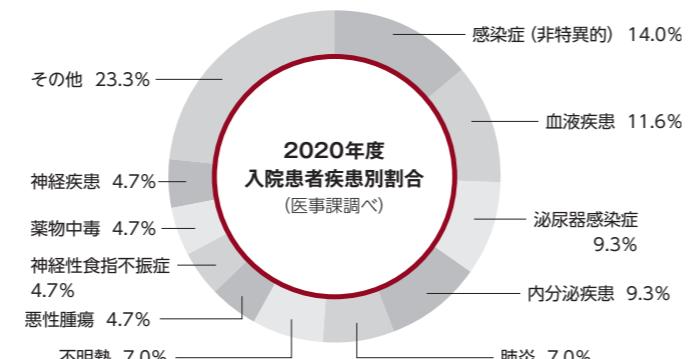
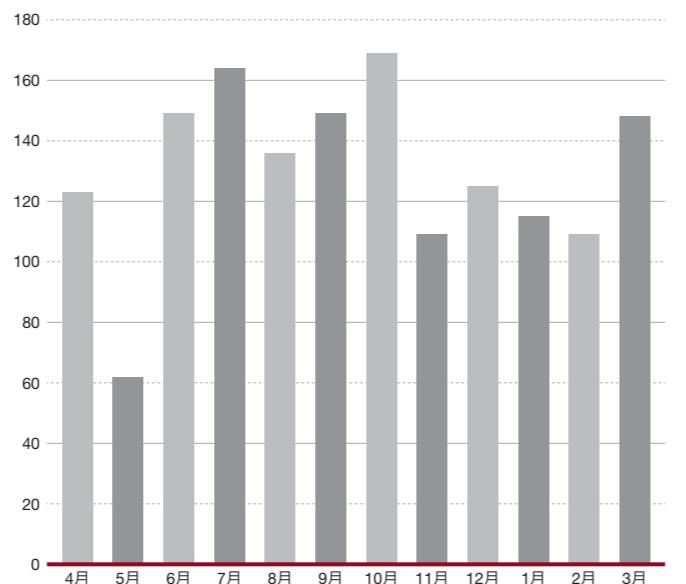
地域連携案内

緊急入院が必要な場合は、外来までお電話をいただけたら幸いです。
ご紹介いただいた患者さんは地域の先生や医師会の先生方と相談していきます。

当科の特徴

原因不明の発熱患者さんなど、他科とも連携しながら、迅速な診断を心がけています。
体重減少、全身倦怠感などでお困りの患者さんがいればご紹介ください。
漢方医学センターを設置し、漢方外来を強化いたしました。

2020年度初診患者数 (医事課調べ)



血液内科



科長 後藤 明彦
GOTO Akihiko



診療案内

- 白血病や骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫や骨髄腫、再生不良性貧血を含む貧血症例を対象
- 白血病には治療を目指す化学療法を立案し実施
- 種々の造血幹細胞移植にも積極的な取り組み
- 日本成人白血病研究グループ(JALSG)に参加
- 貧血症例に対しても標準的治療法の検証や新規治療法の開発への取り組み
- 血液疾患に経験豊富な専門医を中心に、エビデンスに基づく最善の治療法の提供

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
後藤 明彦	主任教授	血液内科一般、骨髄不全、骨髄増殖性腫瘍	火 AM 金 AM
伊藤 良和	教 授	血液内科一般、難治性造血障害	木 AM
後藤 守孝	准 教 授	血液内科一般、造血幹細胞移植	金 AM PM
古屋奈穂子	講 師	血液内科一般、ドナー外来	木 PM
岡部 聖一	講 師	血液内科一般	水 AM 土(第1・3・5) AM
田中 裕子	講 師	血液内科一般	火 AM 水 AM
赤羽 大悟	講 師	血液内科一般、造血幹細胞移植	月 AM 木 AM
藤本 博昭	助 教	血液内科一般	月 AM PM
吉澤成一郎	助 教	血液内科一般	月 PM
片桐誠一朗	助 教	血液内科一般	土(第1・3・5) AM
浅野 倫代	病院助教	血液内科一般	火 PM
竹山 邦彦	兼任教授	血液がん、がん化学療法、がんサバイバー外来	火 PM

取り扱っている主な疾患

血液疾患: 白血病、骨髄異形成症候群(MDS)、骨髄増殖性腫瘍(真性多血症、血小板症、原発性骨髄線維症)、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫に代表される血液悪性疾患、再生不良性貧血、発作性夜間ヘモグロビン尿症、溶血性貧血、多血症、血小板減少による出血性疾患など

免疫疾患: 特発性血小板減少性紫斑病(ITP)、後天性自己免疫溶血性貧血(AIHA)などの自己免疫性疾患、高ガンマグロブリン血症などの蛋白異常症

がんサバイバー外来(火 PM 要予約): 様々ながんで抗がん剤治療を受けた患者さん(がんサバイバー)が治療前と同様の生活や仕事ができる体調を取り戻すために、医師が診察を行いサポートする「がんサバイバー外来」を開設しました。症状や心配なことがあればご相談ください。

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	説 明
骨髄機能検査	骨髄穿刺、骨髓生検により骨髄における造血器病変を検索します。
染色体・遺伝子解析および細胞表面マーカー	造血器腫瘍において末梢血、骨髓穿刺液、リンパ節などを用いて染色体分析(施設内に独自の検査室あり)、DNA解析を実施し、白血病やMDSの予後の評価を治療選択に役立てています。白血病細胞やリンパ球表面に発現する多様な抗原や細胞内機能タンパクをフローサイトメータを用いて詳細に検討します。これにより正確な病型分類、微小残存病変の高感度検出が可能となり、各疾患における的確な治療法の選択決定が可能になりました。
無菌室	骨髓移植、末梢血造血幹細胞移植などで使用されるクリーン度の極めて高い個室仕様の無菌室を擁する無菌病棟を備えています。造血器腫瘍や移植の際の強力な化学療法ならびに移植後の免疫不全状態では、患者さんはこの無菌室内でケアされます。これにより日と日が感染が予防され、治療成績が飛躍的に向上しているだけでなく、無菌病棟内は廊下もクリーンな空気が循環しているので、化学療法をうけていてもリハビリを行うことが可能で身体的・精神的に自由度の高い療養生活が送れます。

地域連携案内

高齢化社会の到来により、造血器腫瘍をはじめとした、血液疾患の発症は増加傾向にあります。とりわけ、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群が顕著であり、患者数の増加につながり、血液内科のニーズが高まっています。当院は、「がん診療連携拠点病院」に指定されており、当科でも地域の診療所や病院との連携を密にして、造血器腫瘍をはじめとした、患者さんの治療の継続性を担保し、また地域医療の発展に対しても取り組んでいます。

当科の特徴

血液疾患に経験豊富な専門医を中心に、エビデンスに基づいた最善の体に優しい治療法を提供いたします。また患者さんが無理なく治療が続けられるよう、QOLを考慮した外来化学療法への移行も順調に行われております。当科では、白血病などの難治性疾患を扱う機会が多いため、十分に情報を提供した上で適切な検査法や治療法を提案しています。特に骨髄移植についてはドナー提供から実施まで幅広く相談に応じています。



無菌室

呼吸器内科



科長 阿部 信二
ABE Shinji



診療案内

- 呼吸器疾患全般に対する呼吸機能検査、画像検査、内視鏡検査、超音波検査などの実施
- 原発性肺がんに対する診断、薬物療法、放射線療法を用いた集学的治療
- 間質性肺炎に代表されるびまん性肺疾患や全身性疾患に合併した肺疾患に対する診断・治療
- COPDや気管支喘息をはじめとする気道系の疾患に対する診断・治療
- 市中肺炎、院内肺炎、抗酸菌感染症など呼吸器感染症全般に対する診断・治療
- 肺高血圧症などの肺循環障害に対する診断・治療
- 肺胞蛋白症(PAP)、遺伝性間質性肺炎、肺リンパ脈管筋腫症(LAM)、肺ランゲルハンス組織球症(LCH)等の稀少肺疾患の診断・治療
- 慢性呼吸不全の診断・治療—非侵襲的陽圧換気療法を用いた治療など

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
阿部 信二	主任教授	呼吸器一般、 びまん性肺疾患	月 AM [PM] 金 AM
河野 雄太	准教授	呼吸器一般、気管支疾患	水 AM [PM] 土(第1・3・5) AM
長手 聰	兼任講師	呼吸器一般、 慢性閉塞性肺疾患	土(第1) AM
吉田 強	兼任講師	呼吸器一般、肺がん治療	水 AM (再診のみ)
富樫 佑基	院内講師	呼吸器一般、 呼吸器感染症	火 AM 木 AM (再診のみ) 金 AM (再診のみ)
蛸井 浩行	講師	呼吸器一般	月 AM 金 AM
菊池 亮太	助教	呼吸器一般	水 AM 木 AM
石割茉由子	助教	呼吸器一般	火 AM
鳥山 和俊	助教	呼吸器一般	
大野真梨子	後期臨床研修医	呼吸器一般	
木下 逸人	後期臨床研修医	呼吸器一般	
田中あかね	後期臨床研修医	呼吸器一般	
長友 翔子	後期臨床研修医	呼吸器一般	

取り扱っている主な疾患

- 呼吸器疾患:** 肺がん、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、呼吸不全、気管支喘息、肺纖維症、間質性肺疾患、肺循環障害、呼吸調節異常、肉芽腫性肺疾患、サルコイドーシスなど
- 腫瘍性疾患:** 肺がん、縦隔腫瘍
- びまん性肺疾患:** 間質性肺炎、膠原病肺、サルコイドーシス、過敏性肺臓炎、リンパ脈管筋腫症(LAM)、好酸球性肉芽腫症など
- 閉塞性肺疾患:** COPD(肺気腫)、喘息など
- 肺循環障害:** 肺高血圧

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名称	説明
気管支鏡下肺生検(経気管支肺生検)	当院における気管支鏡の歴史は古く、日本呼吸器内視鏡学会の認定施設であります。病理組織診断を得るために肺がんやその他の腫瘍に対して腫瘍生検を、間質性肺疾患、サルコイドーシスなど、びまん性肺疾患に対して肺生検を実施しております。
気管支肺泡洗浄液リンパ球機能解析	主に間質性肺疾患の診断、病態の解明、治療方針決定のため、気管支肺泡洗浄液を用いたフローサイトメトリーによるリンパ球表面抗原の詳細な解析も実施しております。
肺がんにおけるEGFR、ALK遺伝子変異検索、PD-L1抗体発現検索	非小細胞肺がん症例のEGFR、ALK遺伝子変異を検索し、分子標的薬の効果予測をはかり、個別治療に役立てております。また、免疫チェックポイント薬の使用に関してPD-L1抗体の発現を調べ治療に役立てております。
在宅酸素療法	在宅酸素療法のための酸素濃縮器、液体酸素ボンベなどをこれまで多数の症例に使用しており、良好な治療効果をあげております。また在宅人工呼吸器療法を開始している症例もあり、患者さんのQOLの向上に貢献しております。

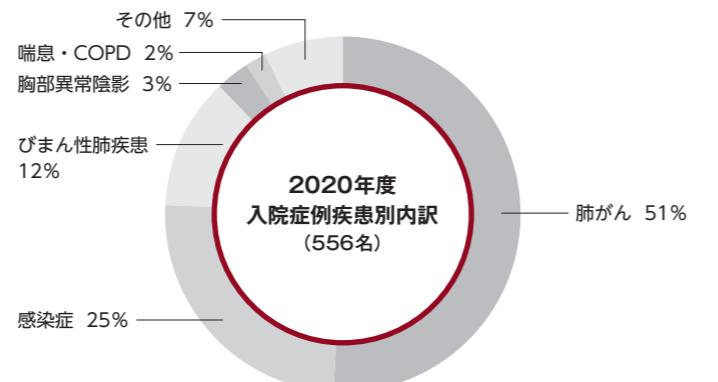
地域連携案内

近隣、遠方より呼吸器疾患の紹介患者さんが非常に多いため、治療で病状が安定した方、経過観察のみの方については、紹介医または近医の先生にフォローアップをお願いしておりますので、ご理解・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

当科の特徴

肺がんについては、遺伝子変異、がん細胞の表面マーカー等をチェックし、全身状態や要望を踏まえ、患者さんに合わせた治療法を考慮しています。間質性肺炎については、専門的な知識に基づく評価、治療を行っています。COPDや喘息については、重症や増悪歴のある患者さんを対象とし、病状の安定した方はかかりつけ医と共にフォローを行っています。

リンパ脈管筋腫症や肺胞蛋白症などの稀少肺疾患にも対応します。



循環器内科



科長 近森 大志郎
CHIKAMORI Taishiro



診療案内

- 虚血性心疾患、心不全、不整脈、心筋症、弁膜症、高血圧などの心疾患や動脈硬化症が対象となります。
- 血管機能検査、心エコー図、ホルター心電図、心臓CT、心臓MRI、心臓核医学検査、運動負荷心電図をはじめとする低侵襲検査を外来で行っています。
- 冠動脈造影、心筋梗塞、電気生理検査をはじめとする侵襲度の高い検査や睡眠時無呼吸症候群の検査を入院中に行っています。
- 経皮的冠動脈形成術、経皮的カテーテル心筋焼灼術をはじめとする治療は入院で行っています。
- 心臓リハビリテーション外来もしており、心筋梗塞後や慢性心不全、開心術後の患者さんのリハビリを通して退院後のQOL改善をサポートしています。
- 急性心筋梗塞や急性左心不全などの循環器緊急症例にはCCUが365日24時間対応しています。
- 2020年度より心構造疾患(Structural Heart Disease: SHD)インバーンションを導入しました。経カテーテルの大動脈弁置換術(TAVI)を開始し、今後も経皮的僧帽弁接合不全修復術(Mitraclip)や左心耳閉鎖(LAAO)を導入予定です。

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
近森大志郎	主任教授	心筋症、虚血性心疾患、弁膜症、心臓核医学	火 AM [PM] 水 AM [PM]
富山 博史	教 授	高血圧症、動脈硬化、血管機能検査	月 AM 水 [PM] 金 AM
肥田 敏	准教授	虚血性心疾患、心臓核医学	水 AM 木 [PM] 金 AM
里見 和浩	准教授	不整脈、ベースメーカー、経皮的カテーテル心筋焼灼術	水 AM [PM] 木 AM
小菅 寿徳	准教授	心臓画像診断	月 AM 火 [PM] 木 AM
椎名 一紀	准教授	高血圧症、動脈硬化、睡眠時無呼吸	月 [PM] 水 AM 金 [PM] 土(第1・3・5) AM
武井 康悦	准教授	心筋症、弁膜症、心エコー診断、肺循環	月 [PM] 火 AM 水 [PM]
山下 淳	講 師	虚血性心疾患、冠動脈インターベンション	金 AM

取り扱っている主な疾患

- 動脈硬化症:** 脈波や頸動脈エコーによる血管年齢の推定や動脈硬化診断
動脈硬化の原因となる高血圧、高脂血症
冠動脈硬化症(虚血性心疾患: 狹心症・心筋梗塞)など
- 不整脈:** 脈が速くなる頻脈性不整脈; 心房細動、心房頻拍、上室頻拍、心室頻拍、心室細動など
脈が遅くなる徐脈性不整脈; 房室ブロック、洞機能不全症候群など
- 心臓弁膜症:** 大動脈弁狭窄・閉鎖不全症、僧帽弁狭窄・閉鎖不全症など
- 心筋症:** 心臓の筋肉に異常をきたす肥大型心筋症、拡張型心筋症、二次性心筋症など
- 心膜心筋疾患:** 急性心膜心筋炎、収縮性心膜炎など
- 肺循環疾患:** 慢性肺血栓栓塞症など
- その他:** 各種心臓病が原因の心不全、睡眠時無呼吸症候群、神経調節性失神

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名称	説明
超音波検査	(1)高血圧性心肥大 (2)心筋症 (3)心臓弁膜症 (4)心不全 (5)虚血性心疾患 (6)先天性心疾患 心室壁厚・心腔径の計測による肥大・拡大の評価、弁の開放・閉鎖の状態や血栓・疣質の有無の検索による心臓弁膜症の評価、心収縮・拡張能の観察による心機能(心不全、心筋梗塞時の壁運動低下など)心筋血流の評価に汎用される検査です。
運動負荷心電図	胸痛疾患の鑑別診断、心筋梗塞後リハビリテーション・運動処方、不整脈に対する運動の影響の評価などに重要な検査です。
核医学検査	心筋シチグラフィーは心筋梗塞や心筋症の診断に有用であり、負荷心筋シチグラフィーは虚血性心疾患全般的精度が高い重要な検査です。
心臓のCT・MRI	心臓CTではカテーテルを使用せず、造影剤を注射することで冠動脈の評価が可能です。心臓カテーテル検査と比べより低侵襲な検査です。 また、心臓MRIは局所心筋収縮能や心筋血流の定量的評価、心筋バイアリティ診断、冠動脈狭窄診断などの情報非侵襲的に評価することが可能です。
脈波伝播速度・血管内皮機能	無侵襲に簡便に動脈硬化の程度を計測する検査です。
心臓カテーテル検査	大血管・心腔の内圧測定および造影検査、心拍出量の測定などにより、心機能や弁膜症の詳細な評価が可能です。また、心腔内血液酸素分压測定は先天性心疾患の診断に有用です。
冠動脈造影検査	増加する虚血性心疾患の質的診断、すなわち、冠動脈の狭窄部位・狭窄程度・形態の診断には欠かせない検査であり、また診断のみならず、PCIなどの治療にも直結する重要な検査です。
電気生理学的検査	ヒス束心電図による伝導障害の質的診断、副伝導路や不整脈に関する詳細な部位および質的な診断が可能です。また、ベースメーカー植込み術やアブレーションによる不整脈の治療などに直結する重要な検査です。
経皮的冠動脈インターベンション(PCI)	経皮的冠動脈インターベンション(PCI)は、狭くなった冠動脈をバルーンやステントで血管の内側から拡げるに行う低侵襲的な治療法です。
末梢動脈疾患カテーテル治療(EVT)	末梢動脈疾患に対するカテーテル治療をEVT(Endovascular Treatment)といいます。
バルーン肺動脈形成術(BPA)	慢性肺栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)に対するバルーンによる新しい治療法です。
心筋焼灼術(カテーテルアブレーション)	心房細動、心室頻拍など難治性不整脈に対するカテーテルアブレーションを積極的に行ってています。3次元マッピング装置などの診断機器、またはクライオバルーンなどの新しい治療機器も積極的に導入しています。
ペースメーカー	徐脈性不整脈(洞不全症候群・房室ブロック)に対し経靜脈的に電極リードを右房および右室に植込みます。リードレスペースメーカーと呼ばれる低侵襲な治療も可能になってきました。
植込み型除細動器(ICD)	難治性不整脈(心室細動・心室頻拍)発生時に自動的に電気的除細動を行う機械を植込みます。
心室再同期療法(CRT)	重症心不全における心臓非同期収縮(ずれ)をベースメーカーによって再同期させ、心不全を改善させる治療です。
植込み型ループレコーダー	失神や潜因性脳梗塞の診断に有用です。
心構造疾患(SHD)インターベンション	高齢などで開胸手術リスクのある重症大動脈弁狭窄症や僧帽弁逆流症患者さんへ、より低侵襲な経カテーテル的弁膜症治療を提供します。

地域連携案内

循環器疾患の診療や治療に関連する講演会や研究会を多数開催し、城西地区を中心とした病診連携に努めています。

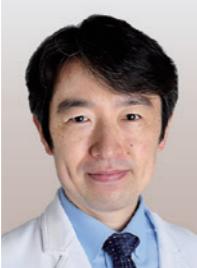
当科の特徴

常に最先端の心臓病治療を提供するため24時間専門医師が院内に待機しています。特に重篤な心臓病はCCU(心臓集中治療室)において専属チームが治療を行っています。その一方、心血管病予防にも力を入れており、血管機能検査などを用いた動脈硬化予防を積極的に行っています。また、最先端の高度医療を実践するため医師全員のレベルアップを図る中で、外来・入院を問わず安全で質の高い標準的な医療を選択しています。さらに、患者さんがいつでも安心して地域のホームドクターにかかるよう、地域のホームドクターとの勉強会、交流を積極的に行い連携を深めています。

糖尿病・代謝・内分泌内科



科長 鈴木 亮
SUZUKI Ryo



診療案内

- ① 1型・2型糖尿病を中心にその他の糖代謝異常や生活習慣病の診断・治療
- ② 持続血糖測定器(CGM)の活用やエビデンスに基づいた糖尿病治療薬の決定
- ③ 糖尿病ケトアシドーシスや高浸透圧昏睡などの重症合併症の治療
- ④ 間脳・下垂体、副腎疾患や電解質異常などの内分泌疾患の診断・治療
- ⑤ バセドウ病に対して、内服薬(抗甲状腺薬・ヨード薬)・RI治療・外科治療の的確な選択
- ⑥ その他の甲状腺・副甲状腺疾患の診断・治療(妊娠や他疾患合併でも可能)
- ⑦ 日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本甲状腺学会、日本肥満学会の認定施設

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
鈴木 亮	主任教授	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	月 AM 木 AM
小田原雅人	特任教授	糖尿病、動脈硬化、代謝異常(脂質異常症、高尿酸血症)	火(第4) PM
三輪 隆	准教授	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	月 AM PM
酒井 裕幸	講師	内分泌(甲状腺・副甲状腺)、バセドウ病 RI 治療	月 PM 火 PM 木 AM 金 AM
伊藤 祐郎	臨床講師	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	水 PM 木 PM 金 PM
志熊 淳平	講師	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	木 AM PM
諏訪内浩紹	講師	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	金 AM 土(第1・3・5) AM
金澤 昭	兼任講師	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	木(第1・3) PM
永井 義幸	助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	水 AM 土(第1・3・5) AM
田丸 新一	助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	火 PM 金 PM
佐々木順子	助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	月 PM 水 PM
櫻井 衛	臨床助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	水 PM 金 AM
安部 浩則	臨床助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	木 PM 土(第5) AM
飯島 康弘	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	火 AM
末盛 敦子	病院助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	火 PM 木(第2・4) PM
清水 宣博	助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	金 PM
和田 雄樹	助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	月 AM
高田 晴子	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	火 AM
田口 彩子	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	月 AM
簡 健志	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	水 AM
石田 順子	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	水 AM
加藤 紀和	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	火 AM
大澤 舞	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	金 AM
柿崎 雄介	兼任助教	糖尿病、動脈硬化、内分泌、代謝異常	土(第1・3) AM

取り扱っている主な疾患

- 糖尿病 :** 1型糖尿病、2型糖尿病、その他の糖尿病、妊娠糖尿病
代謝疾患(生活習慣病) : 脂質異常症、高尿酸血症、動脈硬化症、メタボリックシンドロームなど
甲状腺疾患 : 甲状腺機能亢進症(バセドウ病など)、甲状腺機能低下症(橋本病など)、甲状腺腫など
内分泌疾患 : 下垂体疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患(クッシング症候群・原発性アルドステロン症など)など

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

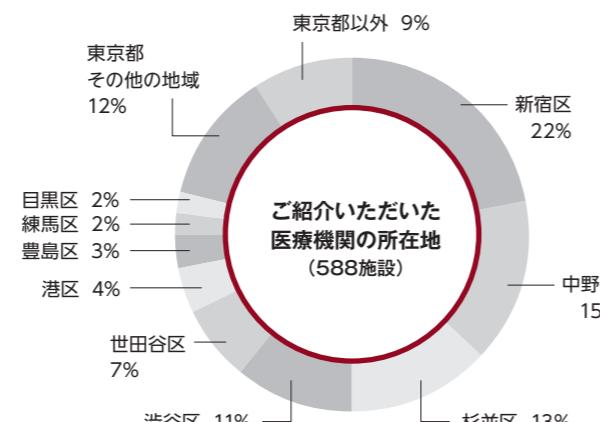
名称	所要日数(時間)	説明
持続血糖測定(CGM)	7~14日	入院および外来にて施行可能です。
SAP(Sensor Augmented Pump)療法		主に1型糖尿病の方を対象としたCGM機能を搭載したインスリンポンプ療法です。

地域連携案内

初診の場合、総合相談・支援センターを介して予め診療の予約をいただいでから受診なされる患者さんのほか、予約なしで直接お越しになられる患者さんもいらっしゃいます。予約がない場合でも交替医による初診外来を設けることで、患者さんをお待たせしないよう配慮しております。医療連携の拡大により、例えば糖尿病医療連携では日本糖尿病協会より発行されている糖尿病連携手帳などを用いて、地域の先生方と医療情報の共有を図るよう努めています。食事あるいは運動指導、合併症精査に特化した紹介もいただいており、当科を含めた病院機能を最大限に生かして地域医療に貢献できるよう努めています。定期的に医療連携の会も開催しており、ご不明な点、お困りになっていらっしゃる症例などがございましたら、ご遠慮なくご相談いただけますと幸いです。

当科の特徴

糖尿病のみならず、肥満や内分泌疾患など幅広く対応しております。各学会の専門医および指導医を擁しており、個々の患者さんに最適な医療を提供しています。当科が守備範囲とする疾患群では合併症の問題から全身を診察する必要があり、関連する他科との連携が良好に行われています。また、チーム医療を推進しており、2名の糖尿病看護認定看護師、多職種よりなる29名の糖尿病療養指導士、2名のフットケア指導士が院内に在籍しています。看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士・臨床検査技師などの多職種とともに医師を加えた総合力が当科の自慢です。



2020年4月1日～2021年3月31日

リウマチ・膠原病内科



科長 沢田 哲治
SAWADA Tetsuji



診療案内

- ① 関節リウマチの早期診断と治療
- ② 生物学的製剤・分子標的薬による治療
- ③ 膜原病(全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎)の診断と治療
- ④ 血管炎の診断と治療
- ⑤ 膜原病類縁疾患(好酸球性筋膜炎、成人Still病など)の診断と治療
- ⑥ 免疫抑制療法に伴う合併症の治療

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
沢田 哲治	教授	関節リウマチの早期診断、生物学的製剤による治療	火 AM 金 AM
太原恒一郎	臨床講師	関節リウマチ、膜原病および類縁疾患の診断と治療	月 PM 水 AM PM 木 AM
林 映	臨床講師	関節リウマチ、膜原病および類縁疾患の診断と治療	月 AM 火 AM 木 PM
森 浩章	助教	関節リウマチ、膜原病一般	土(第1・3・5) AM
山本 祐輔	臨床助教	関節リウマチ、膜原病一般	金 AM

取り扱っている主な疾患

関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、皮膚筋炎・多発筋炎、強皮症、混合性結合組織病、強直性脊椎炎、乾癬性関節炎、ベーチェット病、成人Still病、抗リン脂質抗体症候群、高安動脈炎、巨細胞動脈炎(側頭動脈炎)、結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発血管炎、多発血管炎性肉芽腫症(ウェグナー肉芽腫症)、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(Churg-Strauss症候群)、過敏性血管炎、再発性多発軟骨炎

地域連携案内

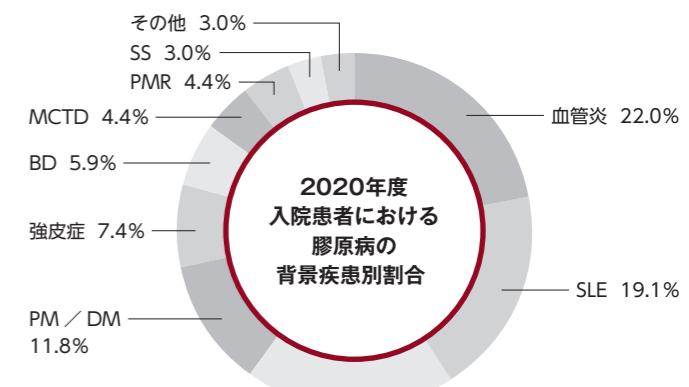
膜原病の症状は多彩ですが、多関節炎は共通して認められることが多く、膜原病を疑う根拠の一つになります。また、発熱と同時に複数の臓器障害を呈する場合には血管炎も疑われます。このような臨床症状を呈する患者さんがおられましたら、是非ご紹介いただければ幸いです。

当科の特徴

膜原病治療は生物学的製剤や分子標的薬を中心に大きく進歩しています。当科ではこれらの薬剤の適応を早期から積極的に考慮し、寛解達成とその維持を目標としています。同時に、感染症など有害事象にも十分配慮いたします。膜原病は慢性再発性の経過をとり、治療は長期にわたるので、患者さんの生活環境への配慮も含め、全人的な視野を持って患者さんとともににある医療の実践を心がけます。

診療実績

外来診療日の午前枠は毎日あり(火曜と金曜は2診)、月、水、木曜には午後もリウマチ専門医を中心とした診療を行っています。入院症例のチャートラウンドと回診は毎週火曜午後に行っています。当科外来通院中の膜原病患者さんの内訳では、関節リウマチが約60%、抗核抗体関連膜原病が約20%を占めています。入院患者さんについては、下図に主病名に基づく当科入院患者さんの膜原病の分布を示しました。外来とは異なり、血管炎(近年の高齢化社会を反映して巨細胞動脈炎や顕微鏡的多発血管炎など高齢者に多い血管炎も増加しています)、全身性エリテマトーデス、多発筋炎・皮膚筋炎や全身性強皮症など難治性病変を有する膜原病の割合が高くなっています。



脳神経内科



科長 相澤 仁志
AIZAWA Hitoshi



炎症性疾患: 脳炎、髄膜炎、脊髄炎など
筋疾患: 多発筋炎、筋強直性ジストロフィー、ミトコンドリア脳筋症など
発作性疾患: 片頭痛、てんかんなど
代謝性疾患: アミノ酸代謝異常症、金属代謝異常症など

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名称	所要日数(時間)	説明
神経心理検査	1~3時間	詳細な認知機能の検査を行います。

診療案内

- ① 中枢神経(脳・脊髄)、末梢神経、筋肉に関する病気を診療
- ② コモンな神経疾患である頭痛、てんかん、認知症を診療
- ③ 神経変性疾患(パーキンソン病、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症など)、神経免疫疾患(多発性硬化症や重症筋無力症など)などの神経疾患を診療
- ④ 脳卒中は脳卒中センターの内科系診療科として診療
- ⑤ 神経心理検査(遂行機能検査など)による、詳細な認知機能解析の実施(予約制)
- ⑥ 専門外来: パーキンソン病、脳卒中、頭痛、多発性硬化症、認知機能、小脳失調症、運動ニューロン病

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
相澤 仁志	主任教授	神経疾患全般、神経変性疾患、脳卒中、頭痛	月 AM 木 AM
赫 寛雄	准教授	神経疾患全般、パーキンソン病、脳卒中	水 AM 金 AM
加藤 陽久	講師	神経疾患全般、認知機能障害、脳卒中、てんかん	木 PM 土(第1・3・5) AM
日出山拓人	講師	神経疾患全般、神経変性疾患	月 AM 木 AM
田口 丈士	院内講師	神経疾患全般、小脳失調症	金(第1・3) PM
井戸 信博	助教	神経疾患全般、多発性硬化症	火 AM 水 PM
菊野 宗明	助教	神経疾患全般、脳卒中	火 PM
内藤万希子	臨床助教	神経疾患全般	金 AM
金丸 晃大	助教	神経疾患全般、脳卒中	水 AM
増田 真之	臨床研究医	神経疾患全般、重症筋無力症	月 PM 火 AM
井上 文	助教	神経疾患全般、脳卒中	土(第1・3・5) AM
<専門外来>		重症筋無力症	月 PM 火 AM
		パーキンソン病	火 PM 水 AM
		多発性硬化症・視神經脊髄炎	火 AM
		認知機能	木 PM
		脊髄小脳変性症	金(第1・3) PM
		神経変性疾患	月 AM 木 AM
		頭痛	月 AM
		てんかん	土(第1・3・5) AM

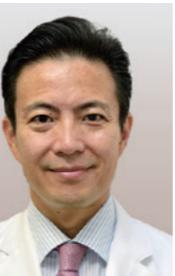
取り扱っている主な疾患

脳卒中: 脳梗塞、脳出血など
神経変性疾患: パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症など
認知症性疾患: アルツハイマー病、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症など
神経免疫疾患: 多発性硬化症、視神經脊髄炎、重症筋無力症など
末梢神経疾患: ギラン・バレー症候群、慢性炎症性脱髓性多発根ニューロパシーなど

消化器内科



科長 糸井 隆夫
ITOI Takao



チエット病など
胆膵疾患: 総胆管結石、胆石胆囊炎、急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、膵がん、膵管内乳頭粘液性腫瘍、胆管がん、胆嚢がん、十二指腸乳頭部腫瘍、胆道機能不全など

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名称	説明
上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)・経鼻内視鏡	年間5000件以上の検査が行われています。食道・胃・十二指腸を観察します。色素内視鏡や画像強調観察などを積極的に行い、早期がんの発見に努めています。
下部消化管内視鏡検査(大腸内視鏡)	近年大腸疾患が増加しています。免疫学的便潜血反応を用い、効率よく早期大腸がんの発見・治療に努めています。
内視鏡的粘膜切除術(EMR)・内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	大きさによりますがポリープは外来で、食道・胃・大腸などの早期がんに対しては入院で、内視鏡的にがんの切除を行います。
腹部超音波検査(エコー)	超音波を用いて肝臓・脾臓・胆嚢・消化管などを観察します。造影剤を用いた造影超音波検査も積極的に行っています。
超音波内視鏡検査(EUS)	先端に超音波装置を装着した内視鏡を用い、胃がんの深達度、粘膜下腫瘍の診断・脾臓・胆嚢・胆管・リンパ節などの精査をします。また、確定診断目的にEUS-FNAを行います。
超音波内視鏡下治療	超音波内視鏡を用いて、膵炎後の膵周囲液体貯留や被包化膵壞死のドレナージ(超音波内視鏡下経消化管ドレナージ)やERCP困難症例に対する超音波内視鏡下胆道ドレナージを行います。※要入院
内視鏡的逆流性胆管膵管造影検査(ERCP)	内視鏡を用い、胆管・胆嚢・膵管を造影する検査で、胆石・胆嚢がん・膵がんなどの診断と黄疸の軽減や胆石の除去などの治療も行います。また細経内視鏡を用いて、胆管・膵管を直接観察し詳細な診断に努めています。電気水圧衝撃派やレーザーを用いての内視鏡結石治療も行います。※要入院
経皮経肝胆道造影検査(PTC)	経皮的に肝臓を穿刺し肝内胆管を造影する検査です。黄疸を軽減する治療や内視鏡による観察も行います。※要入院
経皮的ラジオ波焼灼術(RFA)	肝がんに対する経皮的な局所療法で、最新の超音波装置(CTやMRI画像とのFusionや針の先端を表示する機能)を駆使し、安全かつ効果的な治療を提供します。※要入院
腹部血管造影検査/肝動脈化学塞栓療法(TACE)	カテーテルを用いて腹部の血管を精査し、肝臓・胆嚢・膵臓などのがんの診断を行います。この方法を用いて、肝がん治療のために抗がん剤の注入や肝動脈化学塞栓療法(TACE)を行います。※要入院
バルーン閉塞下経静脈的塞栓術(BRTO)	カテーテルを血管内に挿入して、胃静脈瘤や側副血行路を塞栓します。肝性脳症も改善します。※要入院
食道・胃静脈瘤硬化療法(EIS)・結紮術(EVL)	食道静脈瘤に対して内視鏡的に硬化剤を注入することで静脈瘤を消失させて吐血などを予防します(EIS)。胃静脈瘤に対して経静脈的塞栓術(TOPS)を行っています。内視鏡的に食道静脈瘤の結紮(EVL)を行い、静脈瘤を消失させる治療も行っております。※要入院

地域連携案内

全国で活躍している先生方を招いて定期的に研究会を主催しております。医局員のみならず地域の先生方も随時受け入れておりますので、ご参加いただければと思います。

当科の特徴

食道・胃・十二指腸・小腸・大腸などの消化管と肝臓・脾臓・胆嚢・胆管などを含めた消化器全体を診療対象とし、①肝臓・門脈圧亢進症、②胆道・膵臓、③消化管に分野を分け専門性の高い医療を提供しています。高性能な検査機器を活用し、全国でもトップクラスの診断技術で患者さんのQOLを考慮した低侵襲治療(内視鏡治療・超音波治療など)を実践しています。さらに高難度医療技術にも取り組んでおります。また、消化器外科、放射線科、薬剤部、看護部など部署の垣根を越えて、患者さんにとって最良の治療方針を検討し総合的に診療しています。

取り扱っている主な疾患

肝疾患: 脂肪肝、急性肝炎、慢性肝炎(B型・C型・自己免疫性)、肝硬変(B型・C型・原発性胆汁性)、門脈圧亢進症(食道・胃静脈瘤)、特発性門脈圧亢進症、バッドキアリ症候群、肝細胞がん、胆管細胞がん、転移性肝がん
消化管疾患: 食道がん、胃がん、大腸がん、逆流性食道炎、食道アカラシア、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、慢性胃炎、潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管ベー

腎臓内科／ 人工透析センター

科長 菅野 義彦
KANNO Yoshihiko

診療案内

- ① 高血圧症の診断と治療方針の決定
- ② 慢性腎臓病の的確な診断と治療方針の決定
- ③ 肾不全進行阻止のための総合的治療

認定看護師による生活指導、管理栄養士による食事相談、適正な薬物療法

④ ネフローゼ症候群や進行性腎炎に対する、免疫抑制薬や血液浄化法による複合的治療

⑤ 残存腎機能を生かした透析療法（血液透析・腹膜透析）

ご紹介いただきました高血圧症・軽症の慢性腎臓病の患者さんはご本人・ご家族と相談のうえ、原則的に紹介元で普段の管理をお願いし、6～12か月に一回程度当院を受診していただきます。

外来担当医師と各専門分野（2021年11月現在）

氏名	職名	専門分野	外来診療日
菅野 義彦	主任教授	高血圧症、腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、慢性腎臓病、血液浄化療法	月 AM 金 AM
長井 美穂	講師	腎臓栄養、腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、慢性腎臓病、血液浄化療法	月 AM 木 AM PM
宮岡 良卓	助教	腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、慢性腎臓病、血液浄化療法	木 AM 金 AM
渡邊カナナ	兼任助教	腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、慢性腎臓病、血液浄化療法	水 AM PM
知名理絵子	助教	腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、慢性腎臓病、血液浄化療法	水 AM 土(第1・3・5) AM
鈴木 梨江	助教	腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、慢性腎臓病、血液浄化療法	火 AM PM
辻本 隆史	助教	腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、慢性腎臓病、血液浄化療法	火 AM
加藤 美帆	助教	腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、慢性腎臓病、血液浄化療法	土(第1・3・5) AM
林野 翔	助教	腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、慢性腎臓病、血液浄化療法	金 PM
森川 敦子	病院助教	腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎障害、慢性腎臓病、血液浄化療法	月 PM

取り扱っている主な疾患

内科的腎疾患である以下の疾患に対応

- ・健康診断の尿所見、eGFR、血清クレアチニン値の異常
- ・たんぱく尿の精査
- ・慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、多発性嚢胞腎の診断・治療
- ・糖尿病、腎性高血圧、膠原病にともなう腎障害の治療
- ・急性腎不全の診断・治療

- ・慢性腎不全に対する治療
- ・末期腎不全に対する血液透析療法、腹膜透析(CAPD)療法
- ・食事療法を必要とする生活習慣病と健康診断での異常
- ・高血圧、高尿酸血症、脂質異常症、糖尿病など
- ・体液・電解質異常の診断・治療
- ・全身性疾患に対する血液浄化療法、顆粒球除去療法、血漿交換療法など

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名称 説明

腎疾患精密総合検査	血液生化学検査、血清反応、免疫学的検査、尿成分定性、尿成分定量（24時間蓄尿法）、クリアランス検査、腎臓画像診断（超音波、CTなど）をはじめ、下記の腎生検を含めて総合的かつ多角的に質の高い精密検査を行い、腎疾患の適確な診断と病態把握を行います。外来通院および入院（1週間以内）にて実施します。
腎生検	腎疾患の診断に必須の検査。腎エコーカーにより腎臓の部位と穿刺針の位置を描写しながら、瞬時に経皮的に微量の腎組織を採取します。最新の方法を採用しているため、確実性、安全性は極めて高いものです。採取組織は病理部の専門医により診断され、一例毎に医局の検討会で詳しく討議の上、診療方針を定めています。年間実施症例数は60～70例です。なお、本検査は入院の上で行います。
血液浄化療法	腎不全に対する血液透析療法（人工腎臓）はむろんのこと、様々な疾患における体液中の異常物質の除去療法を幅広く行っています。これらには、リボ蛋白吸着除去、免疫複合体除去、自己抗体除去、異常蛋白除去、リンパ球除去、顆粒球吸着除去などがあります。これらの病因物質の体液中からの除去療法には、二重膜濾過血漿交換装置や各種の吸着力ラム、除去装置を組み合わせて行います。

PD療法（持続攤け式腹膜透析）	PD（腹膜透析）は、慢性腎不全の維持透析療法として行う、血液透析とは異なる特徴を持つ優れた治療法です。本療法では、在宅療法による自己管理下に腎不全コントロールが可能です。当科では毎日専任の医師を配し、看護師や栄養士などコミュニケーションスタッフと医療チームを編成して患者さんの管理体制を完備しています。
-----------------	---

腎疾患栄養相談	腎不全では水・電解質代謝異常や終末代謝産物の過剰蓄積など体内環境の恒常性維持機能に障害をきたします。このため、体内環境を一定に維持し生命に対する危険を低下させる食事療法が極めて重要です。また、低タンパク食事療法は進行性腎疾患の腎機能低下を阻止する効果があります。しかし食事療法は、患者さん自身により毎日実行されて初めて有効となる治療法であるため、患者さんの教育の良否によりその成果が左右されます。当科では外来診療にあわせて、個別栄養相談を行っています。
---------	--

地域連携案内

尿検査の異常や腎機能の低下が疑われる患者さんを紹介いただき診断したうえで、慢性腎臓病や高血圧診療に関する治療指針をお示します。軽症の慢性腎臓病の場合には、患者さんや家族と相談して、通常の治療を紹介元の医療機関にお願いし、年1～2回当院を受診していただくようにしています。

腎疾患のみならず、食事療法の必要な生活習慣病一般についても診療します。

また、維持透析中の患者さんの合併症精査加療の入院も積極的に受け入れています。

内シャント作成やシャント狭窄に対する血管内治療を、心臓血管外科と協力し、当科でも開始いたしました。

当科の特徴

慢性腎臓病のステージG1からG5Dまで、合併した糖尿病や高血圧症、脂質異常症、高尿酸血症など種々の生活習慣病に対して地域の先生と協力しながら一貫した管理を行っています。患者さんの意思を尊重し、看護師や管理栄養士と連携しながら様々な選択肢を提示し、ともに歩む治療を心がけています。特に生活習慣病に対する食事療法では、個々の患者さんに合わせた無理のない指導で効果をあげています。

感染症科

科長 渡邊 秀裕
WATANABE Hidehiro

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	所要日数（時間）	説 明
耐性菌検査	5日以上	耐性菌種、薬剤感受性を検査します。
各種ウイルス抗体検査	数日	種目で所要日数は異なります。HIV、麻疹、水痘等
性感染症検査	数日	種目で所要日数は異なります。梅毒、淋菌、クラミジア等

地域連携案内

当科では地域連携として病院間の相互情報を共有しています。年4回のカンファレンスを実施しています。2018年と2019年は下記内容を行いました。

- 毎回の基本事項としての感染情報を共有
各施設の状況
 - 薬剤耐性菌検出状況、感染症患者発生状況
 - 指定抗菌薬使用状況
 - 院内感染対策実施状況、手指衛生実施状況
- 各回のカンファレンステーマ

2018年6月12日
昨シーズンのインフルエンザの発生状況、今期の麻疹発生状況

2018年9月12日
手荒れ対策を含めた手指衛生向上への取り組み、トコジラミ事例の対応

2018年12月13日
今期のインフルエンザ対応

2019年3月13日
感染情報の院内周知の工夫

2019年6月12日
角化型疥癬に対する対応、感染防止対策への新しい取り組み

2019年9月11日
東京医科大学病院新棟の見学

2019年12月11日
インフルエンザ対応 職員の感染を広げないために

当科の特徴

感染性疾患には、細菌、ウイルス、寄生虫など多種の病原微生物が存在しており、肺炎や尿路感染症などのように感染臟器が特定される疾患から、敗血症や難治性感染症などのように特定の臟器に感染が限定されず多岐・全身に及ぶこともあります。このため、どの診療科への受診が適切であるか苦慮することも少なくありません。不明熱や白血球の増加・CRPの高値などの炎症反応持続といった症例も含め、臟器横断的・総合的に受け入れ、感染症診療を行っています。さらに耐性菌に対する診療やその制御対策のアドバイスも行っています。対象疾患はHIV感染症、結核、非結核性抗酸菌症・マイコプラズマなど非定型感染症、椎体炎などの細菌感染症、梅毒・クラミジア・淋病などの性行為感染症、デング熱・腸チフスなどの渡航感染症、寄生虫疾患など多数の症例の診療実績があります。薬剤師やソーシャルワーカーなどとの多職種連携も積極的に実施し、多方面からの疾患管理を心掛けているとともに、地域連携の構築に努力しています。

取り扱っている主な疾患

適宜各種専門医療機関と連携し、診療いたします。

細菌感染症：菌血症、敗血症、細菌性膿瘍、脳膜炎、咽頭炎、扁桃炎、扁桃周囲膿瘍、眼内炎、肺炎、膿胸、肺膿瘍、感染性心内膜炎、縦隔炎、胆囊炎、胆管炎、肝膿瘍、感染性腸炎、クロストリジウム・ディフィシル腸炎、憩室炎、虫垂炎、腎盂腎炎、膀胱炎、前立腺炎、骨盤内炎症性疾患、化膿性椎体炎、化膿性関節炎、骨髓炎、筋膜瘍、蜂窓織炎、壞死性筋膜炎、リンパ節炎、術後創部感染、カテーテル関連血流感染症、化膿性血栓性静脈炎など

抗酸菌感染症：非結核性抗酸菌感染症、排菌のない肺結核・肺外結核

ウイルス感染症：EBウイルス感染症、サイトメガロウイルス感染症、インフルエンザウイルス感染症、成人麻疹・風疹、水痘、伝染性單核球症様症候群など

真菌感染症：カンジダ、アスペルギルス感染症など

原虫・寄生虫感染症：アメーバ症、ジアルジアなどの原虫感染症、日本海裂頭虫症などの腸管内寄生虫症など

HIV感染症・AIDS：新規HIV感染、ART導入中HIV感染症・AIDS、HIV関連日和見感染症など

性感染症：主に性感染症一般、梅毒、淋菌、クラミジア、尖形コンジローマ、単純性ヘルペス感染症など

輸入感染症：マラリア、デング熱、チクチングニヤ熱、腸チフス、レプトスピラ症、リケッチャ感染症、渡航者下痢症など

不明熱：原因不明の発熱、持続する発熱、海外渡航後の発熱など

高齢診療科



科長 清水 聰一郎
SHIMIZU Soichiro



診療案内

- 75歳以上の高齢者を対象とし、高齢者総合診療システムを導入。身体面ばかりでなく、精神・心理面、生活機能面、社会・環境面からもアプローチする全人的医療を提供しております。
- 認知症（アルツハイマー病など）、神経変性疾患（パーキンソン病など）の高齢者神経疾患に対し、認知症専門医、神経内科専門医が診療しております。
- フレイル・サルコペニア、低栄養・転倒・嚥下障害などの老年症候群を包括的に診療しております。
- 脳神経外科、脳神経内科、救命救急センターと協力して脳卒中の超急性期治療を行っております。

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
清水聰一郎	主任教授	神経疾患、認知症、脳血管障害、フレイル・サルコペニア	月 [PM] 火 [AM] 金 [PM]
金高秀和	准教授	老年医学、認知症、神経疾患	月 [AM] 火 [PM] 木 [AM] 土 (第1・3・5) [AM]
平尾健太郎	講師	神経疾患、認知症、脳血管障害	火 [PM] 水 [AM] 金 [AM] [PM]
佐藤友彦	助教	老年医学、認知症、栄養、フレイル・サルコペニア	火 [AM] 木 [PM]
高田祐輔	助教	老年医学、認知症	月 [PM] 金 [AM]
深澤雷太	助教	老年医学	木 [PM] 土 (第1・3・5) [AM]
廣瀬大輔	助教	老年医学、認知症	水 [PM]
竹野下尚仁	助教	神経疾患、認知症、脳血管障害	月 (第1・3・5) [AM]
物忘れ外来 (交代制)			水 [PM]
羽生春夫	特任教授	老年医学、認知症、脳血管障害、神経疾患	月 (第2・4) [AM]
櫻井博文	兼任教授	老年医学、認知症、神経疾患	水 [AM]
木暮大嗣	兼任講師	老年医学、認知症、消化器疾患	木 [AM]

取り扱っている主な疾患

- 主に、高齢者(75歳以上)の内科的疾患を総合的に診療しております。
- 脳神経疾患:** 認知症(アルツハイマー病、レビー小体病、血管性認知症、正常圧水頭症など)、脳血管障害、パーキンソン病など
- 動脈硬化関連疾患・生活習慣病:** 閉塞性動脈硬化症、高血圧、糖尿病、脂質異常症など
- 呼吸器疾患:** 慢性閉塞性肺疾患、呼吸器感染症など
- 血液疾患:** 惠性リンパ腫など
- 代謝・内分泌疾患:** 骨粗鬆症、甲状腺疾患など
- 老年症候群:** フレイル、サルコペニア、嚥下障害、低栄養、転倒など

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名称	所要日数 (時間)	説明
認知症評価	数回通院、ただし難症例は入院検査をすることがあります。	認知症専門医・老年病専門医による診察を行います。VSRADを含め、MRIによる脳形態画像で脳の萎縮・変性部位を検索します。さらに脳血流SPECTを併用して、疾患特異性を調べます。神経心理士による記憶検査などのテストを行い、総合的に、アルツハイマー病やそれ以外の認知症(レビー小体病、脳血管性認知症、前頭側頭型認知症など)を鑑別・診断し、今後の治療方針を決定します。ビタミン欠乏症や内分泌疾患などに起因する認知機能障害の除外も行っております。
急性期脳卒中対応	緊急対応可能入院は約2~3週間	神経内科専門医による診察を行います。緊急時を含め、頭部CTやMRI検査を迅速に行います。手術適応がある場合は、脳神経外科と連携して対応いたします。また、内科的管理として、高血圧、糖尿病、脂質異常症など、リスクファクターの治療も同時に行います。MRAや頸動脈超音波断層検査により、非侵襲的に頸動脈の閉塞性病変を検出し、脳血管障害の診断や予防、発症予知に活用しています。
神経生理機能検査	外来予約制	主として、高齢者神経疾患の補助診断に利用しています。末梢神経障害の評価として、①神經伝導速度 ②筋電図 ③大脳誘発電位など適宜行います。
正常圧水頭症評価	入院1週間	神経内科専門医・老年病専門医による診察を行います。頭部MRI検査による脳室の拡大等と、3大症候(認知症、尿失禁、歩行障害)があり、正常圧水頭症が疑われる場合は、手術によって症状が改善することがあります。当科では術前評価として、タップテスト(髄液排出試験)を行い、手術の適応の有無を診断します。
フレイル・サルコペニア		筋力の低下による様々な病気の原因となるサルコペニアや、身体予備能力が低下し健康障害を起こしやすくなつた状態であるフレイルについて、老年病専門医が診療を行っております。体成分分析装置(Inbody社製S10)を用いた筋量測定や認知機能・精神状態、身体機能を測定して診断を行っております。その結果を用いて運動・栄養介入を行い、健康寿命の延伸に取り組んでおります。
循環器系検査	数回通院	循環器疾患の診断・治療に役立てています。①心エコー検査 ②24時間血圧測定 ③足関節血圧比(API): 下肢動脈の閉塞性病変を非侵襲的に検出する検査で、ASOの診断に用いています。④脈波: 動脈硬化の程度を評価します。

地域連携案内

2003年から開始した在宅認知症患者対策ネットワークでは、多職種がそれぞれの分野から発言・討論を行うことで、課題を抽出しております。また、定期的に開催している認知症研修会で、研修会講師としてかかりつけ医と“顔の見える”連携を行っております。

高齢者は、重症例や急性発症例が多く、また合併症も多いため、地域で対応困難な症例はご紹介ください。当科では緊急入院が非常に多い(60%以上)という状況で、地域からの積極的な受け入れを行っております。スムーズに患者さんの引継ぎができるよう、詳細な診療情報のご提供を今後もお願いいたします。

当科の特徴

2015年9月に認知症疾患医療センターに認定されました。毎月70人程度の認知症の新規患者さんが紹介受診されており、当科は認知症診療における地域の中心的役割を果たしております。

8人の認知症専門医が外来を担当しており、MRIやSPECTなどの画像診断を初め、神経心理士(3人在籍)による各種神経心理検査などをを行うことで、正確で質の高い認知症の早期診断と鑑別を行っております。

上記の他、既に発足している脳卒中センターでの超急性期脳卒中や、高齢者の内科的疾患を全人的に行える体制をとっています。さらに、当科には、総合内科専門医が5人在籍しております。幅広い分野での質の高い医療を提供することができます。

臨床検査医学科



科長 木内 英
KINAI Ei



診療案内

- 血液凝固異常症の診察
出血性疾患: 先天性凝固異常症(血友病、vonWillebrand病など)
後天性凝固異常症(後天性血友病など)
血小板異常症(血小板無力症など)
血栓性疾患: 先天性血栓性疾患(プロテインC欠乏症、プロテインS欠乏症など)
後天性血栓性疾患: 抗リン脂質抗体症候群、播種性血管内凝固症候群など
HIV感染症: HIV感染症、日和見感染症、日和見腫瘍など
輸血関連: 輸血副作用ならびに血液由来感染症
- 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

取り扱っている主な疾患

- 先天性出血性疾患:** 血友病A、血友病B、ファン・ヴィレブランド病、他の先天性凝固因子欠乏症など
血小板機能異常症(血小板無力症、Bernard-Soulier症候群など)など
後天性出血性疾患: 特発性血小板減少性紫斑病(ITP)、凝固因子インヒビター(後天性血友病など)など
先天性血栓性疾患: アンチトロンビン欠乏症、プロテインC欠乏症、プロテインS欠乏症など
後天性血栓性疾患: 抗リン脂質抗体症候群、播種性血管内凝固症候群など
HIV感染症: HIV感染症、日和見感染症、日和見腫瘍など
輸血関連: 輸血副作用ならびに血液由来感染症

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名称	説明
出血性疾患	血友病、ファン・ヴィレブランド病、血小板機能異常症、各種血液凝固因子欠乏症など鼻出血、皮下出血、関節出血などを繰り返したり、処置後の止血に難渋した場合、紫斑や点状出血が多い場合、プロトロンビン時間(PT)・活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)などの凝血学的検査に異常がある場合には紹介ください。手術の際の止血管理も行います。
血栓性疾患	アンチトロンビン欠乏症、抗リン脂質抗体症候群、DIC、プロテインS欠乏症、プロテインC欠乏症など全身の動脈血栓症や静脈血栓症を繰り返す症例や若年発症(40歳以下)の血栓症の場合には、上記のような血栓傾向が原因の場合があります。精密検査をおすすめください。
HIV感染症	HIV感染症の治療管理にお困りの場合は、紹介ください。
輸血関連	既往に輸血の副作用があり、新たな輸血が心配である場合や、血液型の異常検索など、輸血に関するコンサルテーションが必要な場合にも当科に紹介ください。

地域連携案内

血友病やHIV感染症に関する講演会や多施設共同会議を行っています。

- 東京ヘモフィリアネットワーク
- 東京HIVネットワーク
- HIVセミナー
- ・初診患者さんについては、総合相談・支援センター医療連携担当TEL 03-5339-3808(直通)を通じて予約を取ってください。診療情報提供書が必要です。
- ・緊急性や診療内容を確認するために、予約電話で時間をいたどくことがあります。
- ・土曜日は定期的に通院中の患者さんで診療時間が埋まり余裕がないため、急诊を除き、初診・再診に際わらず新規の受け入れを停止しています。ご不便をおかけしますがご了承ください。

当科の特徴

- きめ細かい診療を心がけています**
現在の状態ならびに考えられる疾患を示し、今後に必要な検査と治療について十分な時間をかけて説明します。必要ならば、患者さんのご家族にも参加していただいております。
- 患者さんのライフスタイルを考えた治療計画**
検査成績の経過を観察しつつ、患者さんに治療環境を整えていただき、ニーズと生活様式に合わせた最良の治療が選択できるように診療していきます。そのためには患者さんご本人に自身の疾患を十分に理解していただき、また薬の副作用なども理解していただけるよう、様々なパンフレットやサンプルなどを用いて、時間をかけて説明いたします。
- 疾患に関わる医療サービスを提供いたします**
日々の診療で必要となる情報はもちろんのこと、医療ソーシャルワーカーを通して、その疾患について利用可能な公的医療サービスをご紹介します。また、必要な場合には臨床心理士によるカウンセリングなども利用できます。

消化器外科・小児外科



科長 土田 明彦
TSUCHIDA Akihiko



診療案内

- ① 上部消化管(食道・胃)、肝胆脾、下部消化管(大腸・肛門)、小児外科の4つのグループからなり、各臓器のスペシャリストによって診療
- ② 侵襲の少ない内視鏡下手術を積極的に導入
- ③ 精度の高い手術ができるロボット支援下手術(ダヴィンチ)を導入
- ④ 進行がんに対して積極的な根治手術を行うほか、化学療法や放射線療法などを用いた様々な集学的治療を実施
- ⑤ 早期がんに対して各がん腫の進行度に応じた機能温存手術(低侵襲手術)を実施
- ⑥ 小児外科の疾患、小児泌尿器科の疾患など小児に対する様々な手術を実施

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
土田 明彦	主任教授	消化器疾患全般、肝胆脾疾患	火 AM 金 AM
勝又 健次	教 授	直腸がん機能温存手術、大腸がん化学療法、内視鏡下手術、消化器疾患	火 AM 金 AM
永川 裕一	教 授	肝臓がん・胆道がん治療、肝胆脾疾患、内視鏡下手術、ロボット支援下手術(ダヴィンチ)	火 AM PM
石崎 哲央	准 教 授	大腸がん、内視鏡下手術、ロボット支援下手術(ダヴィンチ)	火 AM PM 金(第1・3・4・5) AM
榎本 正統	准 教 授	大腸がん、内視鏡下手術、化学放射線療法、ロボット支援下手術(ダヴィンチ)	火 PM 木 AM 金(第1・2・3・5) AM
太田 喜洋	講 師	食道がん、食道ESD、ロボット支援下手術(ダヴィンチ)、化学放射線療法	火 AM 金 PM
林 豊	講 師	小児外科疾患、新生児外科疾患、小児泌尿器科疾患、内視鏡下手術	月 PM 土(第1・3・5) AM
岩崎 謙一	講 師	上部消化管疾患(食道・胃)	月 AM 金 AM
小瀬 真吾	講 師	肝胆脾疾患・内視鏡下手術 ロボット支援下手術(ダヴィンチ)	火 AM
三吉 健太	助 教	食道がん、食道ESD、ロボット支援下手術(ダヴィンチ)、化学放射線療法	木 PM 金 AM
四柳 聰子	助 教	小児外科、小児泌尿器科疾患	火 PM 金 PM
瀧下 智恵	助 教	肝胆脾疾患、内視鏡下手術	火 AM PM
真崎 純一	助 教	大腸がん、内視鏡下手術、がん化学療法	月 AM 土(第1・3・5) AM
榎本 将也	助 教	上部消化管疾患(食道・胃)	水 PM 木 AM 土(第1・3・5) AM
笠原 健大	助 教	下部消化管疾患(大腸・肛門)	水 AM 金 AM
田子 友哉	助 教	下部消化管疾患(大腸・肛門)	金 PM

氏名	職名	専門分野	外来診療日
瀧下 明良	特任教授	胃疾患、内視鏡化手術、がん化学療法	火 AM
山高 篤行	兼任教授	小児外科・新生児外科、小児泌尿器科疾患、小児内視鏡下手術	金 AM ※診療日はお問い合わせください
逢坂 由昭	派遣教授	食道がん、ロボット支援下手術(ダヴィンチ)、化学放射線療法	金(第1・2・3) AM
長江 逸郎	兼任准教授	小児外科疾患、新生児外科疾患、内視鏡下手術、ヘルニア	木 PM
星野 澄人	兼任准教授	食道・胃疾患、内視鏡下手術、ナビゲーション手術	木(第1・3) AM

取り扱っている主な疾患

食道がん、胃がん、大腸がん、大腸良性疾患、肝臓がん、胆囊がん、胆管がん、胰臓がん、胆石症、ヘルニア、新生児先天性奇型、小児外科・小児泌尿器疾患、その他各種良性疾患

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名称	説明
上部内視鏡検査	通常の食道・胃・十二指腸内視鏡検査は年間1400件を越し、その他超音波内視鏡検査、内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的ポリベクトミーも行っています。
下部内視鏡検査	大腸内視鏡検査は年間600件を越し、その他超音波内視鏡検査、内視鏡的ポリベクトミーなどを行っています。
超音波検査	手術予定または術後の患者さんを中心に腹部超音波検査を行っています。
その他	食道・肛門内圧検査、食道・胃内24時間pH検査、経皮経肝胆道ドレナージ(PTCD)、Urodynamics study

地域連携案内

地域の先生方と研究会を共催させていただき、新宿区、中野区、杉並区、世田谷区を中心とした勉強会や懇親会を開催しております(新都心肺臓フォーラム・新宿GIオンコロジーセミナー、新都心医療連携セミナー、新宿CRCチームオンコロジーセミナーなど)。また、退院後の適切な医療、看護、介護を提供するために退院前に多職種連携カンファレンスを総合相談・支援センターを中心開き、切れ間のない治療や医療ケアの実現に努めています。地域の先生方とともに患者さん中心の「良い治療の実践」を目指しております。夜間・休日の救急診療にも対応しており、専門的な診療が必要な場合はオムニコールでの対応をしております。

当科の特徴

消化器内科、小児科、麻酔科をはじめとする複数の診療科と綿密な連携を図っており、診療グループごとに、定期的にカンファレンスを開催して、安全で安心な外科医療を提供しています。患者さんの病状に応じて、開腹手術、内視鏡下手術、ロボット支援下手術(ダヴィンチ)などを選択し、より侵襲の少ない手術を目指しています。

また、大学の内外の研究機関と連携し、病気の早期発見につながる診断方法や新規治療法の開発も手掛けており、大学病院に求められている使命を果たしています。

乳腺科



科長 石川 孝
ISHIKAWA Takashi



診療案内

- ① 外科手術、薬物治療、放射線療法を組み合わせた個別化治療
- ② 乳がん縮小手術(乳房温存療法、センチネルリンパ節生検)
- ③ 形成外科と連携して施行する、整容性に優れた乳房再建手術
- ④ 乳がん看護認定看護師による看護専門外来
- ⑤ BRCAを代表とする遺伝子検査
- ⑥ 患者さんのQOL(生活の質)を重視した地域連携の実施
- ⑦ 治験、臨床試験への積極的参加
- ⑧ 乳房痛、薬物治療によるしづれ、関節痛に対する症状軽減レーザー治療などの実施

地域連携案内

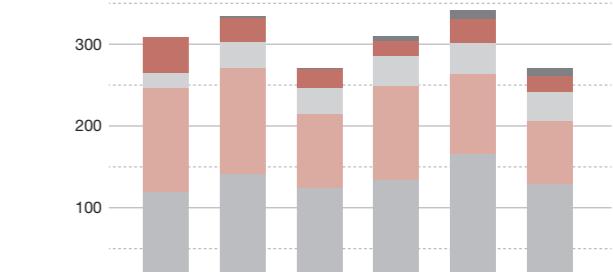
当科では、総合相談・支援センターを介して地域連携パスを運用しております。ご紹介くださった先生方はもちろん、患者さんのお住まいを考慮して、連携施設としてご案内させていただきますので、定期処方や有症時の初期対応などご支援いただければと思います。また、術後の定期精查につきましては当科にて実施させていただきますので、ご連絡いただければと思います。なお、紹介患者さんの受診には紹介状が必要となります。組織生検や細胞診の標本がございましたら同封いただければ存じます。

当科の特徴

●手術

当科では年間約300例の乳がん手術を行っています。中でも乳房再建手術に関しては、前述の通り形成外科と密に連携をとり、患者さん一人に適した医療を提供しています。

乳腺科手術件数



- ### ●治験・臨床研究・臨床試験
- 治験：臨床試験の中でも新薬や新しい医療機器の製造承認を得るために行う試験のこと。これまで患者さんに使用されたことのない、あるいはその疾患に対して用いられたことのない薬について、その有効性や安全性を調査するもの。
 - △臨床研究：疾患の診断・治療・予防などの方法を改善するために、「人」を対象にして行う研究。
 - ◇臨床試験：開発した薬の承認を国から受けるために行う試験。

院内に治験審査委員会が設置されており、実施される治験が様々な観点から正當・妥当で、なおかつGCP(医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令)に則った取り組みであるかを常時審査しています。治験審査委員会の議事録はどなたでも閲覗することができます。当院が医療のさらなる発展のために果たさねばならない役目は決して少なくありません。とはいって、目の前の人一人の患者さんを大事にするのは当然のことです。患者さんのプライバシーや人権を最大限に尊重し、害をなすことがないよう最大限注意を怠らないことを約束します。昨今、数多くの治験や臨床研究・試験が行われておりますので、患者さんからのお問い合わせがありましたら、お気軽にご相談いただければと思います。

東京医科大学 乳腺科学分野ホームページ
<http://tokyo-med-breast.jp/>



特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名称	所要日数(時間)	説明
乳房再建手術	入院：7~14日	乳がん手術とともに乳房再建手術を提供しています。 再建の適否や再建方法については形成外科と十分な検討を行いご説明いたします。 人工物再建や自家組織再建など、ひとりひとりの要望に出来るだけ沿えるように幅広く提供できるよう努めています。

Ophthalmology

眼科

科長 後藤 浩
GOTO Hiroshi

色覚異常: 精密色覚検査と進路指導
ロービジョンケア: 基礎疾患や重症度に応じた各種エイドの提供
涙道疾患: 涙道閉塞に対する内視鏡治療

地域連携案内

第100回東京医大眼科臨床懇親会 2021年10月9日

診療案内

- ① 白内障、緑内障、網膜剥離など、すべての眼疾患に対する幅広い知識と高い治療技術
- ② 网膜剥離や糖尿病網膜症に対する低侵襲、最先端の外科的治療
- ③ 加齢黄斑変性に対する抗VEGF抗体を用いた局所薬物療法や光線力学療法
- ④ 最新の機器による緑内障の診断・治療
- ⑤ 拒絶反応や乱視の軽減を実現した最新の角膜パーソナル移植
- ⑥ 我が国をリードするぶどう膜炎に対する最新の診断法と治療
- ⑦ 国内トップクラスの症例数を誇る眼腫瘍に対する治療
- ⑧ 視神経疾患、斜視弱視、小児眼科に対する最新の診断・治療

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
後藤 浩	主任教授	眼腫瘍、ぶどう膜炎、白内障手術、眼科手術全般	月 AM 水 AM
若林 美宏	教 授	網膜硝子体疾患、黄斑疾患	火 AM 木 AM
臼井 嘉彦	准 教 授	ぶどう膜炎、眼腫瘍、網膜硝子体疾患	月 AM 水 AM
熊倉 重人	講 師	角膜疾患、角膜移植、結膜疾患	月 AM
森 秀樹	講 師	円錐角膜、ドライアイ、コンタクトレンズ	金 AM
馬詰和比古	講 師	網膜硝子体疾患、眼腫瘍	木 AM 金 AM
川上 摂子	臨床講師	網膜硝子体疾患、黄斑疾患	木 AM 金 AM
阿川 肇	臨床講師	網膜硝子体疾患、黄斑疾患	土(第1・3・5) AM
山本 香織	講 師	網膜硝子体疾患、黄斑疾患	火 AM 水 AM
野田 知子	助 教	ロービジョン	火(第2・4) PM
福津 直也	助 教	緑内障	火 AM 水 AM
毛塚 剛司	兼任教授	神経眼科疾患、ぶどう膜炎、斜視弱視	水 AM PM

取り扱っている主な疾患

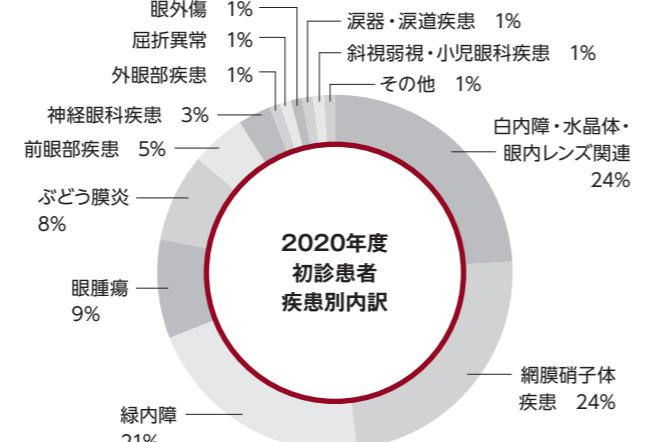
- ぶどう膜炎**: ベーチェット病、サルコイドーシス、Vogt-小柳-原田病に代表される内因性ぶどう膜炎すべてのほか、桐沢型ぶどう膜炎や感染性眼内炎などの手術療法を必要とする難治性ぶどう膜炎
- 網膜硝子体疾患**: 糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症、網膜剥離、増殖硝子体網膜症、アトピー網膜剥離
- 黄斑疾患**: 加齢黄斑変性、黄斑円孔、黄斑上膜
- 白内障**: 加齢白内障、アトピー白内障、併発白内障、糖尿病白内障
- 緑内障**: 開放隅角緑内障、正常眼圧緑内障、閉塞隅角緑内障、続発緑内障
- 弱視斜視**: 小児の弱視、小児および成人の斜視
- 視神経疾患**: 全身疾患に関連する視神経炎、外眼筋麻痺
- 角膜疾患**: 角膜潰瘍、角膜ヘルペス、ドライアイ、春季カタル、円錐角膜、角膜移植
- 眼瞼疾患**: 眼瞼、結膜腫瘍、眼窩腫瘍などのほか、ぶどう膜悪性黒色腫や転移性ぶどう膜腫瘍などの眼内悪性腫瘍
- コンタクトレンズ**: 円錐角膜、不正乱視の矯正

当科の特徴

ぶどう膜炎外来、眼腫瘍外来をはじめ、角膜外来、網膜外来、緑内障外来、神経眼科外来、斜視弱視外来、色覚外来、ロービジョン外来、涙道外来など、あらゆる眼疾患に対応すべく、各分野の専門家による診療を提供しています。多焦点眼内レンズを用いた白内障手術(選定療養)も施行しております。

科長 後藤 浩
医局長 馬詰 和比古
病棟医長 山下 香織
外来医長 嶺崎 輝海

2020年 診療実績
 手術件数 3,148件
 内訳
 白内障手術 1,887件
 硝子体手術 939件
 網膜復位術 55件
 緑内障手術 380件
 斜視手術 16件
 眼瞼手術 225件
 角膜移植 27件
 その他 154件
 硝子体液注入 2,646件
 光線力学療法(PDT) 20件



Neurosurgery

脳神経外科

科長 河野 道宏
KOHNO Michihiro

取り扱っている主な疾患

- 脳腫瘍**: 脳神経腫瘍、髓膜腫、神経膠腫、下垂体腫瘍、脳原発性悪性リンパ腫、頭蓋咽頭腫、松果体部腫瘍、髄芽腫、類上皮腫、転移性脳腫瘍など
- 脳血管障害**: クモ膜下出血、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、高血圧性脳内出血、脳梗塞、頸部内頸動脈狭窄症、もやもや病、硬膜動静脈瘻など
- 神経外傷**: 脳挫傷、びまん性脳損傷、外傷性クモ膜下出血、急性硬膜下血腫、急性硬膜外血腫など
- 機能神経外科**: 顔面痙攣、三叉神経痛、舌咽神経痛など
- 小児神経外科**: 水頭症、キアリ奇形、クモ膜囊胞など
- 脊椎・脛骨外科**: 椎間板ヘルニア、後縫合帯骨化症、脊髄腫瘍など
- その他**: 正常圧水頭症、感染性疾患など

地域連携案内

脳卒中に関する講演会を地域医師に向けて、定期的(3-4回/年)に開いております。また、脳卒中の患者さんに対しては複数科(脳神経外科・脳神経内科・高齢診療科・救命救急センター)にて連携を行い、隨時受け入れを行っております。急性期治療終了後については脳卒中連携バスを導入しており、早期にリハビリテーション専門病院への継続した治療を確立します。脳腫瘍に関しては内容により専門性がありますが、いずれの日でも受け入れ可能です。他院で治療後の再発例、セカンドオピニオンも積極的に受け入れております。頭部CT/MRIにおける異常所見、または異常が疑われる症例等いつでもご相談ください。

当科の特徴

脳神経腫瘍・頭蓋底腫瘍に関しては、本邦では随一の症例数を誇っております。多くの症例数・各種モニタリング・経験豊富なスタッフにより良好な結果を得られています。神経膠腫に対しては世界的に見ても早期に光線力学的療法を導入し、治療のノウハウも豊富です。化学療法・放射線治療などの後療法も当科で行っており、集学的治療が可能です。

頭蓋内囊胞、水頭症、間脳下垂体疾患、傍脳室腫瘍に対する神経内視鏡手術を積極的に導入し、より低侵襲な手術を行っています。硬性鏡・軟性鏡ともに対応しております。

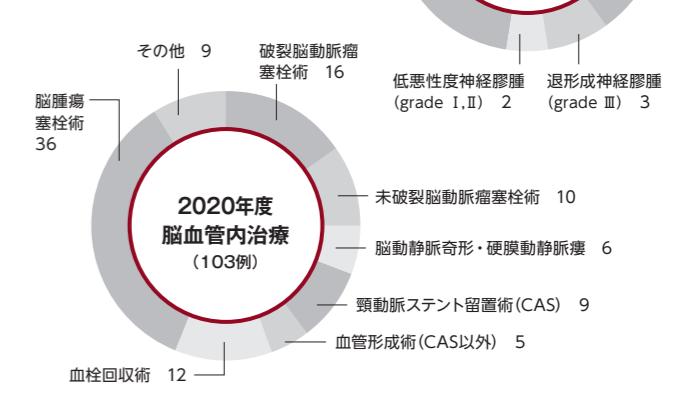
未破裂脳動脈瘤・頸動脈狭窄・頭蓋内血管狭窄に対する血管内手術と開頭手術などの観血的手術ともに対応しており、患者さんのニーズに合った治療を提供します。

脳卒中・重症頭部外傷に対しては脳卒中センター、救命救急センターにて随時対応しております。

多科多職種による対応を行っており、迅速な治療が可能です。

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

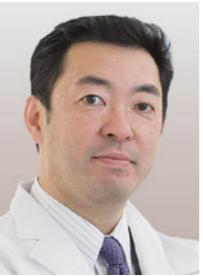
氏名	職名	専門分野	外来診療日
河野 道宏	主任教授	聴神経腫瘍・小脳橋角部腫瘍・頭蓋底髄膜腫などの高度な技術を要する手術、脳血管障害の手術(バイパス・動脈瘤クリッピング)、脊髄脊椎末梢神経疾患の手術	火 AM 木 AM
三木 保	特任教授	先天奇形(水頭症)、頭部外傷、良性脳腫瘍、脳血管障害	金 AM
秋元 治朗	教 授	脳腫瘍、高次脳機能障害、神経病理学、脳腫瘍病理、レーザー治療、新規医療技術の開発	土(第1・3・5) AM
西岡 宏	兼任教授	間脳下垂体病変の診断と治療	木(第2・4) PM(再診のみ)
橋本 孝朗	准 教 授	脳血管障害、脳血管内治療	水 AM PM
深見 真二郎	准 教 授	脳腫瘍の外科、間脳下垂体病変の外科、脳卒中の外科、神経内視鏡、脊髄腫瘍、脳腫瘍病理	月 AM PM
中島 伸幸	講 師	神経内視鏡手術、小脳橋角部腫瘍、間脳下垂体病変、脳卒中の外科、画像誘導手術	火 AM PM
伊澤 仁之	院内講師	脳卒中の外科、頭蓋底(良性・悪性)外科、脳腫瘍の外科、小兒脳神経、整形神経外科	木 AM PM
堤 将輝	講 師	脳血管障害、脳卒中の外科	火 AM
富田 丈博	兼任助教	脳神経外科全般	土(第1・3・5) AM
坂本 広喜	助 教	頭蓋底腫瘍、脳血管障害の外科手術、血管内治療	水 PM
一樹 倫生	助 教	脳神経外科全般	水 AM PM
松島 健	助 教	脳神経外科全般	火 PM
永井 健太	助 教	脳神経外科全般	月 PM
新井 佑輔	助 教	脳神経外科全般	土(第1・3・5) AM
高橋 賢伍	助 教	脳神経外科全般	月 AM
齋藤 佑樹	助 教	脳神経外科全般	水 PM
松永 恭輔	助 教	脳神経外科全般	木 AM



耳鼻咽喉科・頭頸部外科



科長 塚原 清彰
TSUKAHARA Kyoaki



診療案内

- ① 早期頭頸部がんに対する放射線療法、低侵襲ロボット手術、進行頭頸部がんに対する拡大手術、化学療法、放射線療法、良悪性甲状腺腫瘍、耳下腺・頸下腺などの良性頭頸部腫瘍
- ② 難聴の診断と慢性中耳炎や人工内耳手術をはじめとする耳科手術
- ③ 副鼻腔炎などの鼻副鼻腔疾患に対する内視鏡手術
- ④ めまい、平衡障害に対する正確で迅速な診断と専門的治療
- ⑤ 睡眠時無呼吸症候群の診断と手術療法
- ⑥ 音声障害に対する確実な診断と手術療法、リハビリテーション

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
塚原 清彰	主任教授	頭頸部腫瘍	水 AM 水 PM (腫瘍外来)
河野 淳	教 授	中耳炎と難聴の診断と治療、人工内耳手術	月 AM 金 AM 月 PM (難聴外来) 金 PM (中耳炎外来)
西山 信宏	臨 床准教授	中耳炎と難聴の診断と治療、人工内耳手術	月 AM 月 PM (難聴外来) 金 PM (中耳炎外来)
清水 顕	臨 床准教授	頭頸部腫瘍、ロボット支援手術	水 AM 木 (第1・3) AM 水 PM (腫瘍外来)
稻垣 太郎	准 教授	めまい疾患の診断と治療、中耳炎と難聴の診断と治療	水 AM 火 PM (めまい外来) 金 PM (中耳炎外来)
岡本 伊作	准 教授	頭頸部腫瘍	火 PM 水 PM (腫瘍外来) 金(第1・3) AM 木(第2) AM 木 PM (音声外来)
本橋 玲	講 師	音声外科	
白井 杏湖	講 師	聴覚、人工内耳、小児難聴	火 AM 月 PM (難聴外来)
矢富 正徳	講 師	鼻副鼻腔内視鏡手術、鼻アレルギー、睡眠時無呼吸	水 AM 木 PM (鼻副鼻腔アレルギー外来) 土(第1・3・5) AM (睡眠時無呼吸外来)
岡田 拓朗	講 師	頭頸部腫瘍	金 AM 水 PM (腫瘍外来)
渡嘉敷邦彦	助 教	頭頸部腫瘍	水 AM 水 PM (腫瘍外来)
上田 百合	助 教	頭頸部腫瘍、化学療法	火 AM 木(第2・4) AM 土(第1・3・5) AM
富岡 亮太	助 教	聴覚、人工内耳	火 AM 月 PM (難聴外来) 金 PM (中耳炎外来)

取り扱っている主な疾患

頭頸部腫瘍: 喉頭がん、舌がん、咽頭がん、甲状腺がんなど頭頸部悪性腫瘍の診断と放射線、化学療法、手術を含めた治療。耳下腺・頸下線、甲状腺を含む頭頸部良性腫瘍の診断と手術治療。

みみ: 慢性中耳炎、真珠腫瘍中耳炎、耳硬化症の診断と手術治療。各種難聴に対する補聴器の調整。後天聴覚、および小児先天聴覚に対する人工内耳埋込み手術と言語獲得のリハビリテーション。

めまい: メニエール病、前庭神経炎、椎骨脳底動脈循環不全など各種めまい疾患に対する診断と治療。良性発作性頭位めまい症に対する理学療法と手術療法。

はな: 慢性副鼻腔炎に対する内視鏡手術。アレルギー性鼻炎の診断と減感作療法やレーザー手術による治療。睡眠時無呼吸症候群に対する診断と治療。

のど: 声帯ポリープ、反回神経麻痺、痙攣性発声障害など声の異常の診断と手術治療。嚥下障害に対する診断とリハビリテーション治療。胃食道逆流症の診断治療。

2020年 手術件数 主な分野と主な内訳

頭頸部腫瘍 448件 (再建手術67件、頸部郭清術151件、内視鏡下咽喉頭手術30件、ロボット支援手術12件 他)

- ・耳科手術 238件 (人工内耳85件、鼓室形成術29件 他)
- ・鼻科手術 356件 (内視鏡下副鼻腔手術146件、鼻中隔矯正術50件 他)
- ・口腔咽頭 166件 (口蓋扁桃摘出術160例 他)
- ・喉頭72件 (喉頭形成術17件 他)
- ・その他 127件 (気管切開術57件 他)

地域連携案内

年2回、春と秋に医療連携カンファレンス講習会を開催しています。専門医制度領域講習となっておりますので、耳鼻咽喉科領域講習として1単位を取得できます。

当科の特徴

1) 頭頸部外科 腫瘍外来 水 PM

これまでに7000名以上の頭頸部がん治療を行ってきました。2019年の頭頸部がんの手術件数では、全国で6位。関東で5位と多くの手術を行っています。早期がんに対しては従来の放射線治療に加え、ロボット支援手術や咽頭内視鏡手術も行っています。進行がんに対する化学療法・機能温存手術・拡大手術・再建手術についても各種学会、学術誌で報告し高い評価をいただいています。再発・転移頭頸部がんに対してはニボラムマブなどの免疫チェックポイント阻害剤を含めた薬物療法も積極的に行っています。また、頭頸部イルミノックス治療(光免疫治療)も導入しています。

週1回、放射線診断部・治療部および口腔外科とキャンサーボードを開催し、一次治療や治療効果判定、追加治療の有無について検討しています。がん研有明病院、がんセンター東病院、国際医療福祉大学三田病院などとの交流も行っています。頭頸部がん専門医7名とがん薬物療法専門医1名が在籍しています。

2) 耳科 難聴外来 月 PM、中耳炎外来 金 PM

聴覚・人工内耳センターを中心に難聴診断や中耳炎・人工内耳の手術を行っています。日本で人工内耳手術を初めて行った施設で、これまでに1000例を超える人工内耳手術を行ってきました。また補聴器診療実績は都内トップの実績を誇ります。近年では難聴遺伝子診断も行っています。慢性中耳炎や難聴、顔面神経麻痺などに対するQOLの向上を目指した手術も積極的に行っています。耳科手術指導医2名、臨床遺伝専門医2名が在籍しています。

3) 鼻科 鼻副鼻腔アレルギー外来 木 PM

最新のハイビジョンシステムとナビゲーションシステムを用い副鼻腔炎から腫瘍性疾患まで幅広く対応する内視鏡手術を行っています。難易度の高い、前頭洞炎に対するDraf手術や上顎洞乳頭腫に対するEndoscopic medial maxillectomyも積極的に行ってています。涙嚢炎や鼻涙管閉塞症に対して眼科と協力して内視鏡下鼻腔涙嚢吻合術を行っています。鼻科手術指導医1名が在籍しています。

4) めまい めまい外来 火 PM

めまいの原因は多岐にわたることが多く、問診、身体所見、各種検査に基づき論理的に診断をつけています。前庭機能検査として、赤外線CCDカメラやENG検査で眼振の観察・記録を行い、病巣診断としてカロリックテスト、cVEMP、oVEMP、vHITを行っています。Dizziness Handicap Index(DHI)やQIDS-SR等のアンケートを用いて、めまいによる日常の障害や抑うつ状態のチェックも行います。結果によりメンタルヘルス科に相談することもあります。めまい外来終了後にはカンファレンスを行い、その週の新患や問題症例の治療方針を検討しています。新患登録数(2019年)は327症例でした。4名の日本めまい平衡医学会専門会員が在籍しています。

5) 音声 音声外来 木 PM

音声障害、声帯運動障害の精査のため積極的に3DCTによる診断を行っています。また喉頭麻痺に対する披裂軟骨内転術・痙攣性発声障害に対するボツリヌス注射、甲状腺軟骨形成術II型・甲状披裂筋切除術・喉頭外傷後喉頭形成など複雑な疾患・手術に対応しています。一方、入院を希望されない方には外来日帰り手術を行っています。当院で考案した屈曲カテーラン針を用いた手術にて声帯ポリープ・声帯囊胞の切除や喉頭麻痺や声帯炎に対する声帯内注入術等を行っています。甲状腺軟骨形成手術実施認定医3名が在籍しています。

6) 嘉下 外來 月 PM

耳鼻咽喉科医師3名、口腔外科医師2名、摂食・嚥下障害看護認定看護師2名、管理栄養士1名、言語聴覚士3名でNSTチーム医療として行っています。評価には嚥下内視鏡検査、兵頭スコアを用いています。内視鏡における評価で、適切な食形態、リハビリ方法を選択しています。食形態はゼリー、嚥下調整食2(ペースト食)、嚥下調整食3(ささみ・ろろみ食)、嚥下調整食4(軟食一口大)、常食に分け、水分はろろみ無し・ろろみ1.0%・ろろみ2.0%に分け、複雑な食形態に対応可能です。リハビリは言語聴覚士により食事を使用しない間接訓練から実際に食事を使用する直接訓練まで、段階を踏んで行います。すべてのスタッフが食べることを通して患者さんのQOL改善に努めています。

7) 睡眠時無呼吸症 睡眠時無呼吸外来 土(第1・3・5) AM

循環器内科・口腔外科とともにチーム医療を開催しています。小児でも可能な限りポリソムノグラフィーを行い、客観的評価に基づき手術適応を決めています。成人では動的MRI撮影による閉塞部位の特定を重視しており、結果により適切に鼻閉改善手術・口蓋扁桃切除術・口蓋垂軟口蓋・咽頭形成術・舌扁桃切除術・オトガイ舌筋前方牽引術などを選択し手術成績の向上に努めています。日本睡眠学会専門医1名が在籍しています。

整形外科



科長 宮戸 孝明
SHISHIDO Takaaki



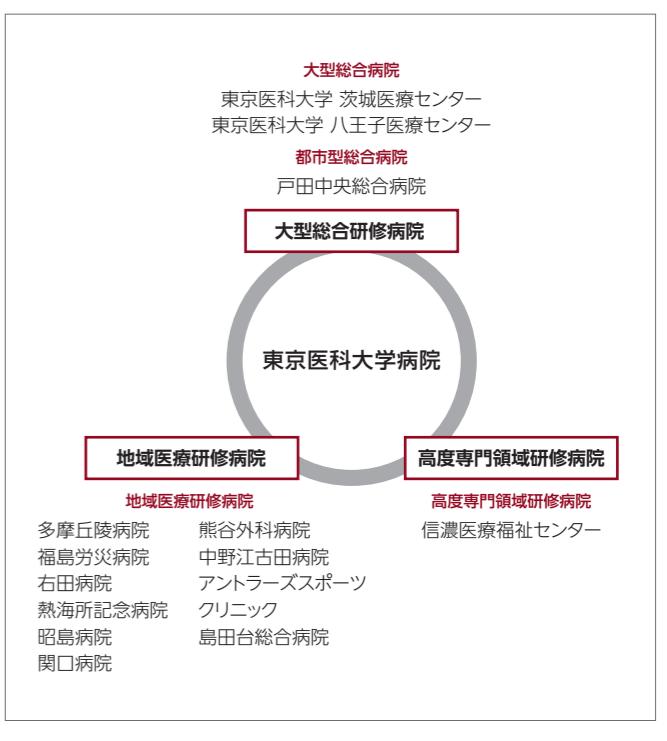
スポーツ・関節鏡班: サッカーをはじめとしたアスリートの骨折や、半月板損傷、靭帯損傷、軟骨損傷、股関節障害などの診断・治療を行っています。関節鏡を用いた治療は、関節鏡にて治療可能なすべての関節に対して行っており、その内訳は前十字靭帯損傷に対する関節鏡視下2重束前十字靭帯再建術、距骨骨軟骨損傷に対する足関節鏡視下手術、股関節唇損傷やFemoroacetabular Impingement(FAI)に対する股関節鏡視下手術など多岐にわたります。

外傷班: 大腿骨頸部骨折、四肢長幹骨骨折、関節周辺骨折、アキレス腱断裂などの外傷性疾患、また、肩関節・上肢・手に対する治療も行っております。

腫瘍班: 四肢骨幹における骨・軟部腫瘍に対する診断・治療を行っております。

地域連携案内

当科主催の西新宿整形外科研究会およびシーズンセミナーを定期的に開催しております。是非ご参加いただき、「顔の見える関係づくり」ができれば存じます。可能な限り開催のご案内をお送りさせていただいておりますが、ご不明な点がございましたら、どうぞお問い合わせください。



当科の特徴

十分な診察検査を行った上で患者さんとよく相談し、一人ひとりの患者さんにとって最良と思われる医療が提供できるよう心がけています。



教授回診 毎週水曜日

取り扱っている主な疾患

脊椎班: 頸椎症性脊椎症、頸椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、脊椎後弯症、首下がり症などの退行性疾患、脊髄神経鞘腫や転移性脊椎腫瘍などの腫瘍性疾患、脊椎後縦靭帯骨化症や強直性脊椎炎などの難病指定疾患、脊椎骨折や脊髓損傷などの外傷性疾患、関節リウマチ、脊髄係留症候群などの診断・治療を行います。

関節班: 变形性膝関節症、変形性股関節症などの退行性疾患、大腿骨頭壞死症、関節リウマチや血友病性関節症、外反母趾など足部疾患の診断・治療を行います。手術は人工関節手術を中心に対応可能な症例や、内科的合併症を持つ高リスク症例に対しても、内科と連携し可能なかぎり手術を行っています。また、外反母趾に対する矯正骨切り術などを行っています。

形成外科



科長 松村 一
MATSUMURA Hajime



診療案内

- ① 体表面・表面に近い軟部組織(例:耳下腺)や骨(顔面や手)の手術を行なう外科
- ② 顔面(それ以外の部位も)の脂肪腫や耳下腺腫瘍も傷跡が目立たないように注意して手術しています
- ③ 眼瞼下垂、顔面の色素斑などの加齢に伴う変化の治療
- ④ 各種レーザーによる治療
- ⑤ 唇裂、口蓋裂、小耳症、手指の奇形の他、臍ヘルニア(デベゾ)など外形の修正

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
松村 一	主任教授	顔面・手の外科、熱傷、先天性異常、ケロイド・肥厚性瘢痕、眼瞼疾患、再生医療	月 AM 木(第1・3・5) AM PM 土(第1・3・5) AM
小宮 貴子	講 師	乳房再建、乳輪乳頭再建、陥凹乳頭	水 AM PM 木(第1・3・5) AM PM
井田夕紀子	講 師	再建外科、創傷外科、レーザー	火 AM 土(第1・3・5) AM
柴田 大助	助 教	外傷一般、皮膚腫瘍外科、創傷外科	水 AM
島田 和樹	助 教	再建外科	金 PM
伊藤 謙民	助 教	外傷一般	火 PM

取り扱っている主な疾患

- 皮膚の形成外科:** 瘢痕拘縮、肥厚性瘢痕、ケロイドなど。母斑、母斑症、血管腫などの色素異常のレーザー治療。乳児血管腫の内服加療。
- 眼瞼・耳介・外鼻の形成外科:** 眼瞼外反症、眼瞼内反症、先天性外耳道閉鎖症、眼瞼下垂、太田母斑、分離母斑、眼瞼腫瘍(黄色腫など)、眼瞼損傷など。小耳症、埋没耳、袋耳、耳垂裂、折れ耳、福耳、先天性鼻瘻孔など。鞍鼻、斜鼻、鼻骨骨折、鼻の腫瘍など。
- 軟部組織腫瘍:** 創部が目立たないように配慮して、耳下腺腫瘍、頸下腺腫瘍、粉瘤、脂肪腫、血管腫などの手術を行っています。
- 頭蓋顔面外科:** 頭蓋奇形、頭蓋骨変形、顎変形(下顎前突症、小顎症など)に対し骨移植や骨切り術を応用した形成を行っています。
- 口唇裂・顎裂・口蓋裂:** Millard法を中心に形成手術を行っています。なるべく少ない手術回数で効果が上がるよう努力しています(ほとんどの症例が3か月と14~15歳の2回の手術で効果を上げています)。
- 手の外科:** 合多指症、短指症、裂手、絞扼輪症候群などの先天奇形。重度損傷手の再建、腱損傷、神経損傷、骨折、指尖部、爪の再建など。
- 顔面外傷:** 鼻骨骨折など外来で整復可能なものから顔面多発骨折、頬骨骨折、上顎骨骨折、下顎骨骨折、顔面神経麻痺、軟部損傷まで幅広く総合的治療を行っています。
- 陷入爪・巻き爪:** 爪母外側切除+フェノール法が基本ですが、症状・ニーズにあわせ、手術をしないでワイヤーを用いた爪矯正法(自費)などの治療も行っています。

- マイクロサージャリー:** 切断指肢再接着術、乳がん手術後の上肢リンパ浮腫に対するリンパ管吻合術、腫瘍根治術後の再建などに応用し実績を上げています。

熱傷: 全身熱傷、局所熱傷、気道熱傷、凍傷、電撃症、化学損傷など熱傷全般を対象としますが、特に重症熱傷に対しては熱傷ユニットで治療にあたっています。
乳房: 乳房切除後の乳房再建をはじめ、陥没乳頭手術、その他乳房に関する手術を行っています。
難治性潰瘍: 持続陰圧閉鎖療法、手術など。
その他: 放射線皮膚障害、褥瘍なども積極的に治療しています。

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

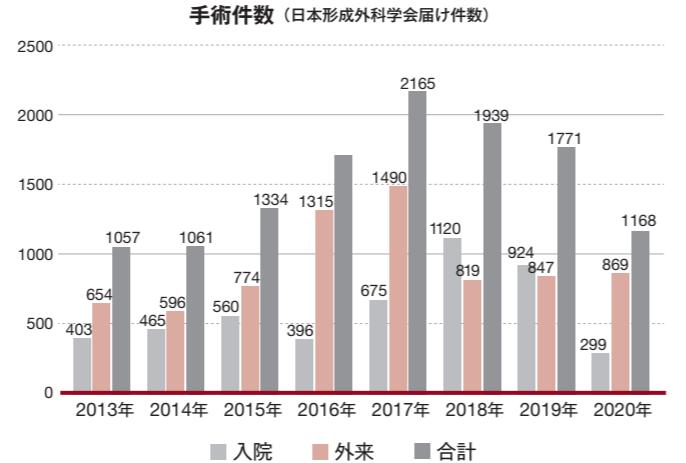
名 称	所要日数 (時間)	説 明
眼瞼下垂症手術	通院数回 または入院	両側手術や筋膜吊り上げの場合は入院治療で行います。
皮膚良性腫瘍摘出術	通院数回 または入院	小さな腫瘍は外来で、大きな腫瘍は入院治療で行います。

地域連携案内

地域の先生方と、十分な連携をとりながら、診療を行っていく体制を整えています。

当科の特徴

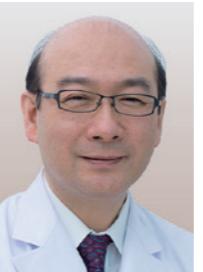
熱傷を含めた外傷、軟部腫瘍、先天奇形、再建など幅広い疾患を取り扱っています。
 乳房再建外来では、乳房再建の専門的な治療を行っています。
 レーザー外来では、レーザーの専門的な治療を行っています。



麻酔科(ペインセンター)



科長 内野 博之
UCHINO Hiroyuki



ペインセンター責任者 大瀬戸 清茂
OHSETO Kiyoshige



特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	所要日数 (時間)	説 明
硬膜外脊髄電気刺激療法	トライアル1~2週間、本植え込み術3~4週間	難治性の慢性の痛みなどに効果的なことがある治療です。

地域連携案内

痛み増強時には、当科にてインターベンション治療を行い、内服等で痛みのコントロールが落ちていた後は、かかりつけの先生方にフォローしていただけるように連携して治療にあたさせていただきます。

当科の特徴

診断を見直し、適切な診断・適切な治療を行います(必ずしも初回受診時より、神経ブロックをするとは限りません)。
 慢性の痛みに対しても適応があれば、積極的にインターベンション治療を行っております。
 慢性疼痛に関しては、臨床心理士もふまえて総合的に治療にあたります。
 神経ブロックの多くは、超音波ガイド下で行っております。また一部の神経ブロックは、X線透視装置*やCT*を使用し行っております。

*は初回診療時には実施できません。

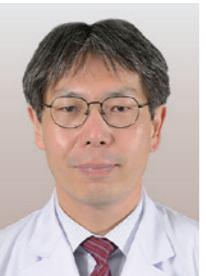
取り扱っている主な疾患

帯状疱疹関連痛、三叉神経痛、腰痛(急性、慢性)、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、頸椎症、外傷性頸部症候群、末梢循環不全による痛み、慢性難治性疼痛、末梢性顔面神経麻痺など

皮膚科



科長 原田 和俊
HARADA Kazutoshi



細菌性皮膚疾患: 伝染性膿瘍症、蜂窩織炎、爪巣炎、ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群 (SSSS) など
抗酸菌症: 尋常性狼瘡、非定型抗酸菌症など
皮膚真菌症: 白癬、カンジダ症、癲風、深在性真菌症など
スピロヘータ・動物性皮膚疾患: ツツガムシ病、ライム病、疥瘡など
ウイルス性疾患: 単純ヘルペス、水痘、帯状疱疹、麻疹、風疹など
性行為感染症: 梅毒、陰部ヘルペス、ケジラミ症など

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	所要日数 (時間)	説 明
パッチテスト	7日間	かぶれや薬疹などの原因物質をみつけるための検査で、被疑物質を直接皮膚に貼り付け、48時間後と72時間後に同じ部位の皮膚反応を観察し判定します。
スクラッチ テスト・ ブリックテス	3時間	蕁麻疹などのI型アレルギー疾患の原因物質を特定する検査です。薬疹・アトピー性皮膚炎・口腔アレルギー症候群(果物アレルギー)などの原因物質の検索などにも用います。
光過敏性検査	2日間	光線過敏性を示す疾患の診断と原因検索に使われます。光源として紫外線発生装置(デルマレイ)を用いて行います。
皮膚生検(病理 組織学的検査)	1時間	皮膚腫瘍の良性・悪性の判断、皮膚病の診断確定のために行います。局所麻酔下で病变を一部採取し、病理組織検索を行います。必要な場合、免疫組織染色や免疫蛍光染色も行います。
光線療法	1時間 (1週間間隔)	乾癬・類乾癬・掌蹠膿疱症・皮膚リンパ腫・紅皮症などの疾患を対象に、大型紫外線照射装置を用いてbath-PUVA療法、narrow-band UV療法を行っています。
局所免疫療法	1時間 (2週間間隔)	円形脱毛症の頭皮に人工的にかぶれをおこす物質(SADBE、DPCP)を外用することにより、発毛を促す治療を行っています(自費)。
手術	通院または、入院。悪性腫瘍の場合は、入院にて数日～1ヶ月要す。	皮膚腫瘍に対し外科的治療を行います。悪性腫瘍の治療は十分な範囲で摘出する事が第一ですが、これが困難な場合は、放射線療法や抗がん剤などの治療を併用して患者さんのQOL(生命・生活の質)を高める事が重要と考えています。転移のある悪性腫瘍に対しては免疫チェックポイント阻害薬あるいは分子標的薬などの最新の治療を導入しています。
冷凍療法	10分 (1週間間隔)	液体窒素により、病変部を凍結させる治療法で、尋常性疣(ウイルス性のイボ)・各種良性腫瘍・表皮内がんなどに行います。尋常性疣には凍結療法のほかに難治であれば、電気メスによる焼灼療法なども行っています。
レーザー照射 療法	1時間 (数回)	Qスイッチ・アレキサンドライトレーザー・フランシュランプ付きダイヤレーザー・CO2レーザーなどをそろえ、主に赤あざ(血管腫)青あざ(太田母斑など)シミ、ホクロ・ソバカスなどの治療を行っています(一部自費)。
陷入爪・巻き爪 治療	1時間 (数回)	ガター法・弾性ワイヤー法などの保存的治療法を行っています(一部自費)。また難治例に対しフェノール法などの外科的治療を施行します。

■ 地域連携案内

年2回地域連携の会を行い、近隣の開業医・総合病院の先生方と“顔の見える関係”を作り連携を行っております。当科の方針として国の政策に基づきふたり主治医制を導入し、病状が落ちていた患者さんは、紹介医のもとで引き続き治療していただきます。

なお、緊急を要する疾患に対しても対応しております。

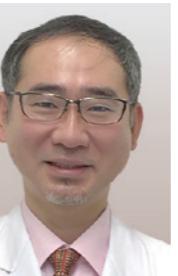
■ 当科の特徴

すべての難治性皮膚疾患全般に対応いたします。特に皮膚悪性腫瘍治療に力を入れており、悪性腫瘍手術件数は都内有数の症例数を誇ります。また、生物学的製剤治療を積極的に導入し、尋常性乾癬・慢性蕁麻疹・アトピー性皮膚炎の重症例にも対応できる治療を行っております。その他にも脱毛症・白斑・アレルギー・遺伝性疾患・爪疾患などの専門外来を開設しており、各分野のサブスペシャリストをもつ医師が対応しております。また、新薬の開発に協力するため、臨床治験も実施しております。皮膚疾患の診断・治療に苦慮されている症例がございましたら、紹介ください。

歯科口腔外科・矯正歯科



科長 近津 大地
CHIKAZU Daichi



口腔心身症、慢性疼痛: 口腔や顔面の原因不明の疼痛、不定愁訴
口腔・顎顔面インプラント: 歯や顎骨、顔面(目・耳など)の欠損

■ 特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	所要日数 (時間)	説 明
歯科用CT撮影	5分	インプラントなどのためのCBCT撮影(1万円+消費税)

■ 地域連携案内

ご注意

- 緊急以外は原則として初診時の抜歯等の処置は行いません。
- 希望医師がある場合は、事前に休診の予定になつてないかお問合せください。
- 一般歯科治療は基本行っておりません。

■ 当科の特徴

舌がん・歯肉がんなどの顎・口腔領域の腫瘍 手術療法および化学放射線療法、機能温存の再建手術を含めた最新の集学的治療を年間50～60例閑連各科と連携しています。
② 顎変形症 上下顎骨の発育の不調和や骨折後の異常治癒によって顎が変形し、噛み合わせの異常や顔貌の変形が生じます。治療は術前の矯正歯科治療の後に顎矯正手術が必要です。矯正歯科と連携して、年間約60例ほど手術を行っています。
③ インプラント治療(顎顔面インプラントセンター) 歯の喪失や顔面欠損の方の、咀嚼や顔貌の審美的回復が可能です。医科大学病院の特性を生かし、内科的疾患有した患者さんの治療も行います。
④ 脣顎口蓋裂などの先天異常(口唇口蓋裂センター) ホツツ床、NAMの作製や口蓋形成術、顎裂部骨移植、顎矯正手術などの外科手術、また矯正治療を閑連各科と連携し集合的治療を行っています。
⑤ その他、粘膜外來、血液外來、顎関節外來、慢性疼痛外來、SAS(睡眠時無呼吸症候群)外來など専門外来を設け、口腔顎顔面に発生するいかなる病気にもきめ細かく対応します。

■ 外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏 名	職 名	専門分野	外来診療日
原田 和俊	主任教授	皮膚腫瘍、脱毛、爪疾患、真菌症	火 AM 水 AM
大久保ゆかり	教 授	乾癬、掌蹠膿疱症、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎	月 AM
堺 則康	准 教 授	遺伝性皮膚疾患、血管炎、水疱症	火 PM 水 AM 木 AM
伊藤 友章	准 教 授	アレルギー性皮膚疾患、膠原病	火 AM 金 AM 土(第1・3・5) AM
阿部名美子	講 師	乾癬、掌蹠膿疱症、膠原病	水 PM 金 AM
入澤 亮吉	院内講師	皮膚悪性腫瘍、脱毛症、爪疾患	月 AM

■ 取り扱っている主な疾患

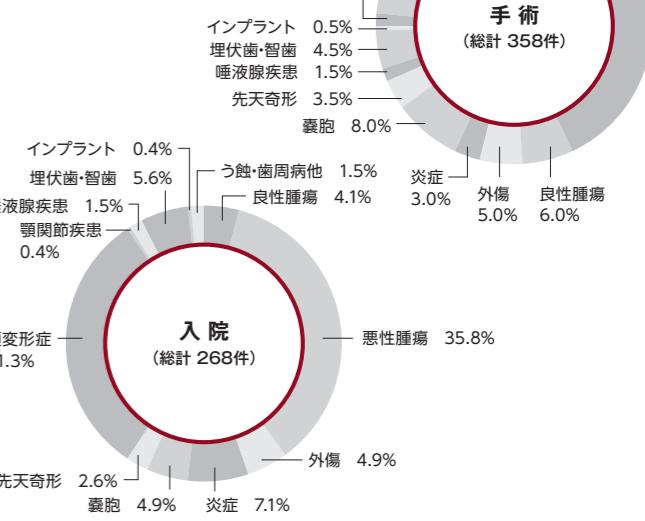
湿疹・皮膚炎: 接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、脂漏性湿疹、皮脂欠乏性湿疹など
紅斑症: 多形滲出性紅斑、Stevens-Johnson症候群、結節性紅斑、Sweet病、ベーチェット病など
血管・リンパ管の疾患: 結節性多発動脈炎、皮膚白血球破碎性血管炎、IgA血管炎など
蕁麻疹・痒疹・皮膚うそう症: 蕁麻疹、接触蕁麻疹、クインケ浮腫、痒疹、皮膚うそう症など
中毒疹・水疱症・膿疱症: 薬疹、尋常性天疱瘍、水疱性類天疱瘍、掌蹠膿疱症など
角化症・炎症性角化症: 乾癬、掌蹠膿疱症、類乾癬、魚鱗癬、掌蹠角化症など
色素異常症: 寻常性白斑、老人性色素斑など
真皮の疾患: 硬化性萎縮性苔癬、弾力線維性仮性黄色腫、サルコイドーシスなど
膠原病とその類症: アリテマトーデス、皮膚筋炎、全身性強皮症、シェーグレン症候群など
皮膚付属器の疾患: 無汗症、尋常性ざ瘡、円形脱毛症、男性型脱毛症、陷入爪など
代謝異常症: アミロイドーシス、黄色腫、ポルフィリン症など
母斑・皮膚良性腫瘍: 表皮母斑、粉瘤、脂腺母斑、扁平母斑、色素細胞母斑、太田母斑、神経鞘腫、皮膚線維腫、脂肪腫、いちご状血管腫、グロームス腫瘍など
皮膚悪性腫瘍: 悪性黒色腫、有棘細胞がん、基底細胞がん、乳房外Paget病、血管肉腫、癌状息肉症など

■ 地域連携案内

初診 (総計 6755件)
歯科心身症 1.1%
インプラント 0.7%
SAS精查 2.9%
Perico・埋伏・位置異常 27.2%

■ 取り扱っている主な疾患

顎・口腔外科疾患: 腫瘍(良性腫瘍、がんなど)、囊胞(歯根囊胞や頸囊胞など)、炎症(歯や顎骨、頬部など)、外傷と骨折(歯や顎骨、口腔・顔面など)、顎変形症(歯列不正や顎の変形・非対称)、顎関節疾患(顎の痛み、開口障害など)、口腔粘膜疾患(口内炎・白板症など)、唾液腺疾患(口腔乾燥、唾石症など)、神経疾患(神経痛・神経麻痺など)、血液疾患(白血病・血友病など)、睡眠時無呼吸症候群、先天異常(唇顎口蓋裂など)
歯科疾患: 有病者の歯科口腔外科疾患(血液疾患・心疾患などの基礎疾患有する方の口腔外科治療)



産科・婦人科

科長 西 洋孝
NISHI Hirotaka

診療案内

- ① 産婦人科一般
- ② 産科
- ③ 婦人科腫瘍
- ④ 不妊症
- ⑤ ウロギネコロジー(骨盤臓器脱)
- ⑥ 内視鏡手術(産婦人科良性疾患、子宮悪性疾患)
- ⑦ ロボット支援手術(縦浮き子宮悪性腫瘍、骨盤臓器脱など)

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
西 洋孝	主任教授	婦人科腫瘍、内視鏡手術、ウロギネコロジー	月 AM 水 AM
久慈 直昭	教 授	不妊症、産科	火 AM 木 AM
小野 政徳	准 教授	不妊症、産科、内視鏡手術	月 AM 金 AM 土(第1・3・5) AM
伊東 宏絵	講 師	婦人科腫瘍、不妊症、内視鏡手術	木 AM
山本阿紀子	講 師	婦人科腫瘍	月 AM 木 AM
佐々木 徹	講 師	婦人科腫瘍、内視鏡手術、ウロギネコロジー	火 AM
小島 淳哉	講 師	産科	月 AM
大村 涼子	助 教	婦人科腫瘍	水 AM
小野 理貴	助 教	婦人科腫瘍、内視鏡手術	金 AM
吉田 梨恵	助 教	産科	木 AM
河村ともみ	助 教	不妊症	火 AM
伊崎奈々枝	助 教	産科	
鈴木 知生	助 教	産科	金 AM

取り扱っている主な疾患

産科: 正常妊娠のみならず、さまざまな合併症に対しても他科と連携し厳重な管理を行い、分娩時は小児科医とも密接な連携をとり母児とともに安全な分娩を心がけています。新生児集中治療室(NICU)が併設されています。母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査(母体血胎兒染色体検査:NIPT)を実施しています。

腫瘍: 良性疾患▶子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍など。子宮筋腫で他院では子宮全摘除の方針とされた方でも、内視鏡手術により子宮を温存し妊娠の可能性を残すことができる場合も少なくありません。また、子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術(UAE)も放射線料と共同で取り組んでいます。

悪性腫瘍: 子宮がんや卵巣がんなどに対し、手術・化学療法・放射線療法による総合的な治療を行います。

不妊症: 不妊の原因検索を内視鏡を含め多方面から行います。人工授精・体外受精は常時可能です。

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名称	説明
超音波断層法(経腔法・経腹法)	腫瘍診断、胎児発育、胎児奇形有無
CT	腫瘍診断
MRI	腫瘍診断、胎児奇形診断
コルポスコープ	子宮頸部病変診断
子宮鏡	子宮体がん、癌着、内膜ポリープ、粘膜下筋腫の診断と治療
腹腔鏡	腹腔内癌着、子宮内膜症などの診断、卵巣腫瘍、異所性妊娠(子宮外妊娠)、子宮筋腫、早期子宮体がんの治療
羊水検査、NIPT	出生前診断
子宮卵管造影(HSG)	不妊検査
骨密度測定(DXA法)	更年期、老年期の骨粗鬆症診断、卵巢機能不全による若年者の骨量減少症の診断
内視鏡下手術用ロボットを用いた子宮悪性腫瘍手術、骨盤臓器脱手術	早期子宮頸がん、子宮体がん、骨盤臓器脱
子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術	低侵襲な子宮筋腫治療(条件を満たすもの)
体外受精、顕微授精	卵管性不妊、重度男性不妊
未受精卵子凍結	悪性腫瘍治療前の性腺機能温存目的
遺伝子検査	がん遺伝子パネル検査、PARP阻害剤、コンバニオン診断

地域連携案内

西新宿産婦人科研究会(年2回開催)

当科の特徴

周産期医学、生殖医学、婦人科腫瘍学、女性医学などの疾患分野が多岐にわたり、幅広い診療を行っています。

周産期部門では、近隣施設からのハイリスク産科症例を極力収容するように努めており、より一層地域の産科医療に貢献すべくMFICUを開設しました。また、新大学病院開院後からは、安全に配慮したうえで無痛分娩の取り扱いを開始しました。その他にも、助産師外来や出産準備クラスを設置し妊婦さんやご家族が安心して分娩に臨める環境を整備しています。生殖医学部門では、新大学病院開院時から、独立したリプロダクションセンターを開設し、不妊・不育症で苦しんでいるカップルに対して丁寧で高度な生殖補助医療を提供しています。

婦人科部門では、他施設では治療が困難な悪性腫瘍症例に対しても、根治的拡大手術を行っています。また、低侵襲手術も積極的に行っており、従来の腹腔鏡下手術のみならず、先進的なロボット支援手術を婦人科領域で先駆けて導入し、国内ではトップクラスの症例数を誇っています。

その他、女性医学系疾患である骨盤臓器脱に対するロボット支援腹腔鏡下仙骨腔固定術や、子宮筋腫や周産期出血に対する子宮動脈塞栓術にも積極的に取り組んでいます。

Urology

泌尿器科

科長 大野 芳正
OHNO Yoshio

診療案内

- ① 泌尿器科がんの最新治療
- ② 腹腔鏡下手術、ロボット支援下(ダヴィンチ)手術
- ③ 結石に対する衝撃波治療(外来手術)、尿管鏡下レーザー碎石手術
- ④ 自然排尿型尿路変更術の積極的な導入
- ⑤ 各種放射線治療(小線源療法や強度変調放射線治療:IMRT)
- ⑥ 各種免疫治療

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
大野 芳正	主任教授	泌尿器悪性腫瘍(ロボット支援手術、内視鏡手術などの低侵襲治療、自然排尿型尿路変更術、分子標的治療、免疫療法など)、泌尿器一般	月 AM 木 AM
並木 一典	教 授	腹腔鏡手術、ロボット支援手術	火 AM 金 AM
宍戸 俊英	講 師	泌尿器悪性腫瘍(腹腔鏡手術、ロボット支援手術、内視鏡手術)、泌尿器一般	月 AM 水 AM
朝倉 博孝	兼任講師	女性泌尿器科	土(第1) AM
佐竹 直哉	講 師	泌尿器悪性腫瘍、ロボット支援手術、尿路感染症、泌尿器一般	月 AM 木 AM
橋本 剛	講 師	泌尿器悪性腫瘍、ロボット支援手術、尿路感染症、泌尿器一般	水 AM 金 AM
平澤 陽介	講 師	泌尿器悪性腫瘍、ロボット支援手術、泌尿器一般	火 AM 土(第1・3・5) AM
石田 卓也	助 教	泌尿器悪性腫瘍、ロボット支援手術、尿路感染症、泌尿器一般	火 AM 金 AM
長尾 剛	助 教	泌尿器一般	月 PM 木 AM 木(第2・4・5) PM
滝澤 一晴	兼任助教	泌尿器一般	木(第1・3) PM
小野 朝	助 教	泌尿器一般	月 AM 金 PM 土(第1・3・5) AM
三間 隆史	兼任助教	泌尿器悪性腫瘍、ロボット支援手術、尿路感染症、泌尿器一般	水 AM

取り扱っている主な疾患

腫瘍・がん: 副腎腫瘍、腎臓がん、腎孟がん、尿管がん、膀胱がん、前立腺がん、精巣腫瘍、後腹膜腫瘍など

良性疾患: 前立腺肥大症、尿路結石症、腎孟腎炎、膀胱炎、前立腺炎、尿失禁など

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名称	説明
超音波検査・前立腺生検(経直腸的・経会陰式)	前立腺肥大症や前立腺がんの診断に有用な検査です。木曜・金曜の午後に実施しています。前立腺生検は一泊入院で実施しています。前立腺MRI画像を使用した経会陰式Target生検も実施しています。
浸潤性膀胱がんに対する膀胱全摘除術および尿路変更術	当科では、より低侵襲かつ患者さんのQOLの保持を目指しております。ロボット支援下膀胱全摘除術は自然排尿型代用膀胱を積極的に挿入しており、患者さんのQOL保持に努めています。
ロボット支援下手術	前立腺がんに対する前立腺全摘除術、腎がんに対する腎部分切除術をロボット支援下に行っています。また、2018年度より膀胱がんに対する膀胱全摘除術もロボット支援下手術で開始しました。
腹腔鏡手術	副腎腫瘍、腎腫瘍、腎盂尿管がんなどに対する腹腔鏡・後腹膜鏡手術を行っています。従来の開放手術のような大きな切開を加えることなく、小さな傷で手術が行われるので、術後患者さんの疼痛が軽く、入院期間の短縮にもつながっています。
前立腺がんに対する各種治療	前立腺がんに対しては手術療法だけでなく、小線源療法や強度変調放射線治療(IMRT)など、患者さんの希望に応じた治療が可能です。また去勢抵抗性前立腺がんに対しては、化学療法、新規ホルモン治療、ラジウム223などを用いたすべての最新治療が可能です。
体外衝撃波結石破碎術	尿路結石症に対する結石破碎装置を取り入れ治療を行っています。外来治療を中心に行っており、平日午後に予約制で実施しています。
尿路結石に対する尿管鏡下手術	尿管結石・腎結石に対し細径の尿管内視鏡を用い、レーザーを使用した碎石術を行っています。
経尿道的前立腺・膀胱手術	前立腺肥大症に対して内視鏡を用いた手術(TUR)やレーザーやバイポーラーを用いた核出術(HOLEP, TUEB)を行っています。表在性膀胱がんに対してても内視鏡を用いた切除術を行っています。

地域連携案内

24時間体制で救急診療を行っています。泌尿器疾患に対する診療でお困りの際はいつでもご連絡ください。迅速に対応させていただきます。

当科の特徴

2020年に行われた手術について図1にまとめました。その他にも経会陰式または経直腸的前立腺針生検法も354例行っています。特に2006年に国内で初めて前立腺がんに対しダヴィンチを用いたロボット支援下前立腺全摘除術を導入し、現在に至るまで国内唯一の手術実績をおさめています(図)。また、前立腺がんの治療では、ロボット手術だけでなく、小線源治療、強度変調放射線治療(IMRT)、薬物療法、ラジウムによる骨転移治療など、種々の治療が可能です。腎臓がん・腎盂尿管がんに対しては腹腔鏡下腎(尿管)摘除術を、小径腎がんに対してはロボット支援下腎部分切除術(2020年度:25例)を行っています。一方、浸潤性膀胱がんにおいても、2018年度より保険収載されたロボット支援下膀胱全摘除術を導入しています(2020年度:15例)。また尿路変更術においては、機能温存を目指した自然排尿型代用膀胱造設術を積極的に行っています。患者さんの希望やQOLを考慮し、様々な治療が行えるよう体制を整えております。またPSA高値を認め、MRI画像検査にて前立腺がんが疑われる場合には、当施設では先進医療としてより正確な診断が可能であるMRI撮影および超音波検査融合画像に基づく前立腺生検法を行っています。

図 ロボット支援下前立腺全摘除術の過去5年間の推移



Radiology

放射線科

科長 斎藤 和博
SAITO Kazuhiro

診療案内

- ① 最新のCT、MRI装置を使い、専門的な画像診断を提供
- ② ピンポイント治療(定位放射線治療、強度変調放射線治療)に積極的な取り組み
- ③ 標準治療(世の中が認める治療)を実践
- ④ 前立腺がんの骨転移に対して塩化ラジウム(ゾーフィゴ)治療
- ⑤ PET-CTを使った悪性腫瘍の診断

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
斎藤 和博	主任教授	放射線診断学、インター ベンショナルラジオロジー (IVR)	火 AM
若林 ゆかり	臨床教授	放射線診断学	月 AM PM
吉村 真奈	教 授	核医学、内用療法	月 AM 火 AM
阿部光一郎	教 授	核医学、内用療法	水 AM 金 AM PM
朴 昶浩	臨床准教授	放射線診断学	
佐口 徹	講 師	放射線診断学、インター ベンショナルラジオロジー (IVR)	
三上 隆二	講 師	放射線治療学	月 AM
岡田 幸法	講 師	放射線腫瘍学	木 AM
鈴木 邦仁	助 教	放射線診断学、核医学	木 AM
田島 祐	助 教	放射線診断学	
代田 夏彦	助 教	放射線診断学、インター ベンショナルラジオロジー (IVR)	
山田 隆文	助 教	放射線診断学	
田中 太郎	助 教	放射線診断学、インター ベンショナルラジオロジー (IVR)	
糸永 知広	助 教	放射線治療学	火 AM
座間 辰彦	助 教	放射線治療学	水 AM

地域連携案内

迅速な治療を心がけております。
地域の医療機関から、PET-CT、骨シンチ、脳血流シンチの核医学検査依頼を受け付けております。

当科の特徴

各診療科から依頼されたCT、MRI、PET-CTの読影を行っています。
各診療科から依頼された血管内治療を行っています。
他科との連携を密にして、シームレスな治療を実践しています。
臨床試験以外の治療は、標準治療を実践しています。
前立腺がん骨転移に対して、先駆的に塩化ラジウム(ゾーフィゴ)治療を行っています。

Clinical Oncology

臨床腫瘍科

科長 吉村 明修
YOSHIMURA Akinobu

診療案内

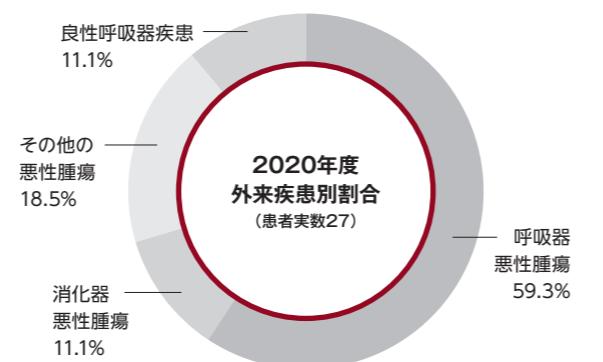
- ① 各種悪性腫瘍に対するがん薬物療法のコンサルテーション
- ② 原発不明がんの診断と治療
- ③ 呼吸器悪性腫瘍に対するがん薬物療法
- ④ 消化器悪性腫瘍に対するがん薬物療法

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
吉村 明修	教 授	臨床腫瘍学、がん薬物療法、 呼吸器悪性腫瘍、 呼吸器内科学	火 AM (再診のみ) 水 AM

取り扱っている主な疾患

呼吸器悪性腫瘍、消化器悪性腫瘍、原発不明がん



Palliative Care Division

緩和医療部

部長 濱田 宏
HAMADA Hiroshi

診療案内

がん患者さんの“つらさ”を全人的な観点で緩和するために多職種チームによる診療をしています。

- ① がん患者さんが持つ身体的な苦痛(痛み、しびれ、呼吸困難、吐気、倦怠感など)の治療
- ② 患者さんとそのご家族が抱えるつらさ(心理・社会・実存的な苦痛)の緩和
- ③ 総合相談・支援センターとともに、専門緩和ケアを行う施設や在宅療養を支える専門家への紹介、およびそれらの施設や専門家との診療連携・相談応需(主として身体的なつらさについて)
- ④ 緩和ケア認定看護師による、がん患者さんとそのご家族に対するケア、緩和ケアに関する相談
- ⑤ がん及び緩和ケアの専門職による多職種連携によって、患者さんへの全般的な対応

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
濱田 宏 (麻酔科)	教 授	緩和医療・ケア全般、慢性痛の治療	水 AM PM 木 AM PM 金 AM PM
齊藤 理 (麻酔科)	准 教 授	緩和医療、疼痛治療、麻酔	
岩田 愛雄 (メンタルヘルス科)	助 教	緩和ケア全般、精神症状の緩和、こころのケア	

氏名	職名	専門分野	外来診療日
倉知 聰子	兼任 医師	緩和ケア、麻酔	
遠藤 光史	兼任 医師	緩和医療・ケア全般、漢方医学、在宅ケア	
三原由希子	看 護 師	乳がん看護認定看護師	
池谷 清香	看 護 師	緩和ケア認定看護師	
渡邊 千明	看 護 師		
杉森 文香	看 護 師	緩和ケア認定看護師	
蘭草 真希	看 護 師		
宮里 明芽	薬 剤 師	緩和薬物療法認定薬剤師	
宮崎加奈子	公認心理師	こころのケア	
志賀 圭子	保 健 師	がん相談支援センター、在宅療養支援	
片野 千夏	医療ソーシャルワーカー	がん相談支援センター、がん専従相談員	
久保麻友子	管理栄養士	低栄養、がん患者さんの栄養管理	

みられることから、中国語及び韓国語に対応できる職員も配置しています。また、医療従事者と患者さんとのコミュニケーションを円滑にするため、メディフォン社が提供する「医療通訳」サービスを導入し、英語・中国語・韓国語・タイ語やベトナム語など17言語に対応し、タブレット・スマートフォンを利用したリアルタイム映像通訳も行っています。

相談の対象

当院を診療あるいはセカンドオピニオンを希望する外国人患者さんを対象とします。

- ・日本の健康保険に加入していない外国人患者さん
- ・海外在住の外国人患者さん
- ・健診・検診を希望する外国人の方

相談の方法

外国人患者さんの診療及びセカンドオピニオンは、完全予約制となっております。外国人患者さんが直接国際診療部に予約する場合は電話で承ります。医療コーディネーター会社を利用される場合は、外務省認可の身元保証機関のリストをご参照ください。

(受け入れ可否及び受診予約日時の決定に時間を要する場合がございますのでご了承ください。)

お問い合わせ先

TEL 03-3342-6111(代表) 内線 5809

International Medical Care Department

国際診療部

部長 糸井 隆夫
ITOI Takao副部長 李 嵩
LI Lan

国際都市東京の中心に位置する特定機能病院として、多くの患者さんを受け入れています。外国人の方の居住が多い地域性を踏まえ、以前より積極的に外国人患者さんの受け入れを行っておりました。近年、訪日外国人の急増に伴い、病院を受診しに来日される外国人患者さんも年々増加しています。外国人患者さんに対しても、安心・安全な医療を提供できる環境を整える必要があります。そこで組織の再構築とスタッフの充実を図り、国際診療部は2020年4月より再スタートいたしました。

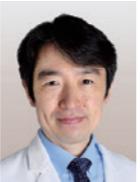
国際診療部は、当院における受診希望者への相談対応および受け入れ支援を目的する部門です。患者さんの言語・文化等の垣根を越えて、医療従事者と患者さんとのコミュニケーションが円滑に対応できるよう、外国人医師による受診受け入れサポートを設けています。中国人や韓国人患者さんが多く

健診予防医学センター



センター長 鈴木 亮

SUZUKI Ryo



診療案内

【基本的検査項目】

- ①身体計測
- ②眼科系検査(視力・眼圧・眼底検査)
- ③聴力検査
- ④循環器系検査(心電図・血圧)
- ⑤呼吸器系検査(胸部X線・呼吸機能検査)
- ⑥消化器系検査(上部消化管造影・腹部超音波検査)
- ⑦血球計測、血液生化学検査、血清検査、尿検査、便潜血、喀痰細胞診を行い、午後から医師が結果の説明と指導をいたします。

【オプション検査】

- ①胸部CT(肺がん検診)
 - ②骨密度測定
 - ③ヘリコバクターピロリ・ペプシノーゲン検査
 - ④婦人科検診
 - ⑤マンモグラフィ
 - ⑥乳房超音波検査
 - ⑦前立腺がん・卵巣がん・消化器系の各種腫瘍マーカー
 - ⑧BNP(心不全マーク)
 - ⑨腎機能精密検査(尿中アルブミン定量・尿中a1マイクログロブリン定量)
 - ⑩C型肝炎ウイルス抗体(HCV抗体)
 - ⑪血圧脈波検査
 - ⑫頸動脈エコー検査
 - ⑬脳ドック
 - ⑭口コモティブ検査
- *特定健診項目は人間ドック基本検査項目に全て網羅されております。

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

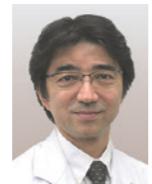
氏名	職名	専門分野
坪井 紀興	准教授	内科学、リウマチ・膠原病学
鈴木 章孝	准教授	内科学、産業医学、血液学
松本 知沙	講師	内科学、循環器学
新倉 量太	講師	内科学、消化器学

Endoscopy Center

内視鏡センター

センター長 河合 隆

KAWAI Takashi



診療案内

- ①上・下部消化管内視鏡検査
 - *胃カメラ(経口・経鼻内視鏡)、大腸カメラ、超音波内視鏡、特殊光観察(NBIなど)、拡大観察
- ②上・下部消化管内視鏡治療
 - *内視鏡的粘膜切除術(EMR)、粘膜下層剥離術(ESD)、緊急内視鏡治療(止血術・異物除去術など)
- ③小腸カプセル内視鏡

担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	診療日
河合 隆	主任教授	食道・胃がんの内視鏡診断・治療、ヘリコバクターピロリ・経鼻内視鏡、UPDを使用した大腸内視鏡内視鏡診断	月～金
杉本 光繁	教 授	食道・胃がんの内視鏡診断・治療、酸関連疾患、ヘリコバクターピロリ	月～金
永田 尚義	准 教授	消化管出血の内視鏡治療、消化管感染症の診断・治療、マイクロバイオーティー	月～金
新倉 量太	講 師	酸関連疾患、ヘリコバクターピロリ、消化管出血の内視鏡治療、マイクロバイオーティー	月～金

氏名	職名	専門分野	診療日
岩田 英里	助 教	上下部消化管内視鏡診断・治療	月～金
濱田麻梨子	助 教	上下部消化管内視鏡診断・治療	月～金
山岸 哲也	兼任准教授	上下部消化管内視鏡診断・治療	水
柳澤 京介	兼任講師	上下部消化管内視鏡診断・治療	木
福澤 麻理	兼任講師	下部消化管内視鏡診断・治療	月
竹内 真美	兼任助教	下部消化管内視鏡診断・治療	水
高橋 孝慈	兼任助教	上下部消化管内視鏡診断・治療	水
河合 優佑	後期臨床研究医	上下部消化管内視鏡診断・治療	

取り扱っている主な疾患

- 上部消化管疾患:** 食道炎、逆流性食道炎、GERD(胃食道逆流症)、食道裂孔ヘルニア、バレット食道・食道ポリープ、食道がん、食道粘膜下腫瘍、食道アカラシア、食道静脈瘤、慢性胃炎、萎縮性胃炎、びらん性胃炎、表層性胃炎、胃ポリープ、胃がん、胃粘膜下腫瘍、十二指腸潰瘍、十二指腸腫瘍など
- 下部消化管疾患:** 大腸ポリープ、大腸がん、潰瘍性大腸炎、偽膜性大腸炎、虚血性大腸炎、急性出血性大腸炎、腸結核、腸バーチエット病、クロhn病、大腸憩室症など

地域連携案内

今後、内視鏡予約システムを構築していく予定です。

当センターの特徴

患者さんに優しい内視鏡を目指し、経鼻内視鏡からsedation下内視鏡を行っております。

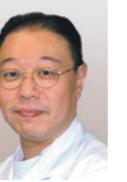
Rehabilitation Center

リハビリテーションセンター



センター長 正岡 利紀

MASAOKA Toshinori



- ①急性期から亜急性期における疾患、外傷のリハビリテーション
- ②脳卒中や脳神経外科疾患に伴う片麻痺や、高次脳機能障害、言語障害に対するリハビリテーション
- ③整形外科領域(関節外科、脊椎・脊髄外科、手の外科)に対するリハビリテーション
- ④神経筋疾患、小児疾患、内部障害による廃用症候群

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
上野 竜一	臨床講師	リハビリテーション一般、骨関節疾患(手の外科、脊椎・脊髄障害、関節疾患)、義肢・装具、小児発達障害	月 AM 火 AM 水 AM
長田 卓也	講 師	リハビリテーション一般、義肢・装具、心臓リハビリテーション、運動療法	木 AM 金 AM

取り扱っている主な疾患

- 脳血管障害:** 脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など)、脳外傷(脳挫傷、外傷性くも膜下出血)、脳腫瘍、それに起因する片麻痺、高次脳機能障害、半側空間無視、摂食嚥下障害など
- 骨関節疾患:** 関節リウマチ、変形性膝関節症、変形性股関節症、外反母趾、大腿骨頸部骨折などの四肢骨折、膝前十字靭帯損傷、四肢切断、骨粗鬆症、歩行障害など
- 脊椎・脊髄疾患:** 脊髓損傷、脊髓腫瘍、頸椎症性脊髄症、頸椎後縦靭帯骨化

症、頸椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニアなど
神経筋疾患: パーキンソン病、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群、筋ジストロフィーなど
呼吸器疾患: 肺気腫、肺がんなど

特殊検査、処置、入院、手術のご案内

名 称	説 明
運動療法機器	各種測定器具(角度計・握力計等)、自動血圧計、平行棒、平行支持台、姿勢矯正用鏡、起立訓練ベッド、肋木、オバー・ヘッドフレーム、滑車訓練装置、マット、マット訓練台、アッパー・サイクル、エアロバイク、セザム、リムローダ、ダイナモーター、DYJOCボード、各種車椅子・杖・歩行器
物理療法機器	ホットパック、パラフィン浴、マイクロウエーブ、低周波刺激装置、頸椎・腰椎牽引器、ワールプール、スキントニック、SSP
作業療法機器	作業台、金工作業用具、木工作業用具、モザイク作業用具、皮革手芸用具、組み紐、織機、ミシン、サンディング、ボール盤、七宝焼きセット、ろくろ各種、電気炉、治療用ゲーム、カラオケセット、卓球台
言語療法機器	簡易聽力クリーニング検査機器、音声録音再生装置、ビデオ録画システム、各種言語心理認知機能検査機器・用具、発声発語検査機器・用具、各種診断・治療材料(絵カード他)
診断評価用機器	足底圧分析装置、歩行分析装置、多チャンネル筋電テレメーターシステム、等速筋力評価器、血压モニター装置、呼吸代謝測定装置、近赤外線血流測定装置

当センターの特徴

当センターは、1988年4月に独立した診療科として開設された、リハビリテーション医学会認定研修施設であります。身体的な障害そのものに対する、あるいはその障害により生じる生活上の能力障害に対して包括的にアプローチしていきます。

Perinatal Medicine Center

地域周産期母子医療センター



センター長 河島 尚志

KAWASHIMA Hisashi



診療体制

産科医8名 小児科医8名

特色・診療対象疾患

地域周産期母子医療センターは産科病棟33床(うちMFICU6床)、NICU12床、および新生児病棟GCU18床から構成され、2019年7月より病院7階に開設されました。当センターは産科医師8名、小児科医8名が緊密な連携をとりつつ周産期に関わる高度な医療を担っています。また、当院は総合病院であり、糖尿病、甲状腺疾患、血液疾患、心血管疾患および悪性腫瘍など主に内科の疾患合併ハイリスク妊娠に対して、当該内科専門医と協力し高度な周産期医療を提供してきました。そして、産科、小児科および小児外科の連携のもと、ハイリスク妊娠からの出生児、低出生体重児や手術が必要な新生児などに対しての集約的な医療体制を整えています。産科診療所やNICUのない病院からのハイリスク妊娠、産科危機的出血または救急処置を要する妊娠の搬送を積極的に受け入れ地域に貢献しています。主な診療対象疾患は、切迫流早産、多胎妊娠、妊娠高血压症候群、前置胎盤、糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病、甲状腺疾患合併妊娠、喘息合併妊娠、精神疾患合併妊娠、血液疾患合併妊娠、心血管疾患合併妊娠、悪性腫瘍合併妊娠、産後出血などとなります。

診療体制と実績

当センターは2019年よりMFICU6床を増設し、ハイリスクな母体搬送を積極的に受け入れており、年間分娩数も令和2年度で598件と年々増加傾向となっております。新生児入院数も年間394件と届きの入院数を誇っており、特に他院からの新生児搬送受入数が166件と都内で2番目の多さとなっております。新生児搬送においても、なるべく搬送元施設の負担を軽減するため、当院医師が同伴の下でのお迎え搬送を行うことを心掛けており、令和2年度も81件のお迎え搬送を行いました。1500g未満の早産低出生体重児の実績も年間約30例程度で推移しており、最先端の診療知識および技術をアップデートすることにより、その生命および神経学的予後も年々改善が得られています。その他、小児外科医、脳外科医、眼科医、耳鼻科医、形成外科医などによる包括的な医療が可能であり、重度の新生児死症例に対する脳低体温療法などの実績も豊富となっています。今後も地域の周産期施設から信頼を得られるような医療を提供したいと考えております。



渡航者医療センター

センター長 濱田 篤郎
HAMADA Atsuo



診療案内

海外渡航者の健康を守るために専門診療科

- ① 海外渡航者へのワクチン接種(黄熱ワクチンを含む)、英文予防接種証明書の作成
- ② 海外勤務や留学のための健康診断
- ③ 海外渡航にあたっての健康相談(持病のある方、健康に不安のある方)
- ④ 海外勤務者のメンタルヘルス相談
- ⑤ 高所に滞在する方への健康指導や高山病予防薬の処方

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
濱田 篤郎	特任教授	渡航医学、熱帯医学、感染症学(寄生虫)、産業医学	月 AM 水 AM 金 PM
福島 慎二	講師	小児科学、渡航医学、感染症学	月 PM 火 AM 水 AM 木 AM 金 AM 土(第1・3・5) AM
栗田 直助	助教	渡航医学、登山医学、救急医学	月 AM PM 水 PM 木 AM 金 AM PM 土(第1・3・5) AM
増山 茂	兼任教授	呼吸器病学、高所医学、登山医学、渡航医学	火 PM 木 PM

Stroke Center

脳卒中センター

センター長 河野 道宏
KOHNO Michihiro



東京医科大学病院では、脳卒中・脳血管障害を専門的に治療しております。脳卒中に関連する4診療科(救命救急センター・脳神経外科・脳神経内科・高齢診療科)が連携し、あらゆるタイプの脳血管障害に迅速に対応する体制を整えております。4診療科は1つのチーム(脳卒中センター)として定期的に合同会議を行い、脳卒中患者さんの情報を共有して総合的に治療にあたっております。

当センターの特徴

脳卒中は突然に起こる脳血管障害の総称で、虚血性病変として脳梗塞(脳血栓、脳塞栓)、一過性脳虚血発作、出血性病変として脳出血、くも膜下出血があります。いずれにしても初期の対応でその予後(病気の経過)が大きく変わります。当院では適切かつ高度で迅速な診療が必要な超急性期・急性期の脳血管障害の診療を、救命救急センター・脳神経外科・脳神経内科・高齢診療科が連携しながら対応します。

当センターでは、rt-PA・手術・血管内治療のすべての治療を迅速に提供できる体制を整えています。

診療体制(主要メンバー)

センター長	河野 道宏	脳神経外科 主任教授
副センター長	相澤 仁志	脳神経内科 主任教授
副センター長	清水聰一郎	高齢診療科 主任教授
救命救急センター長	石井 友理	救急・災害医学分野 助教



脳卒中に関わるカンファレンス

(救命救急センター・脳神経外科・脳神経内科・高齢診療科・放射線科・MSW)

ご紹介いただく先生方へ

発症24時間以内の脳卒中が疑われる症例を受け入れております。新宿区・中野区・杉並区(区西部医療圏)の先生方は、東京都脳卒中救急搬送体制をご利用ください。

なお、重症患者さん対応中やベッド満床などの場合がありますが、可能な限り対応させていただきます。

細胞・再生医療センター

センター長 福田 尚司
FUKUDA Shoji



活動内容

- ◆ 当院で実施される再生医療等に関する情報の一元化
- ◆ 細胞調製施設の管理・運営
- ◆ 細胞培養等を通して、再生医療治療および臨床研究の実施・協力
- ◆ 再生医療等製品に関する治験のサポート

再生医療の臨床実績

- ◆ 結膜悪性腫瘍における、ヒト羊膜移植を利用した眼表面の再生・再建(眼科)
- ◆ 患者皮膚表皮細胞を採取し、それを細胞単位に分離した懸濁液を作成、それを熱傷創に投与する治療(形成外科)
- ◆ 自家皮膚から色素幹細胞を維持した培養表皮シートを作成し、白斑部に移植する治療(形成外科)
- ◆ 培養された線維芽細胞を含有したハイドロゲルを植皮に用いる採皮部に貼付する治療(形成外科)
- ◆ 患者血液よりCD34陽性細胞を純化して、重症虚血肢に筋肉内投与する治療(形成外科・血液内科・循環器内科)
- ◆ 齒髄幹細胞を用いた骨・軟骨再生療法(歯科口腔外科)
- ◆ 完全自家血管新生療法(先進医療B申請準備中)(心臓血管外科)
- ◆ 再生医療等製品(保険適用):遺伝子治療用製品(心臓血管外科)
- ◆ ヒト毛球部毛根鞘細胞を用いた毛髪再生の臨床研究(皮膚科)

診療体制(主要メンバー)

センター長	福田 尚司	心臓血管外科 教授
副センター長	近津 大地	歯科口腔外科・矯正歯科 主任教授
副センター長	原田 和俊	皮膚科 主任教授
所属科・部門	院内10科1研究所部門、外部1科	

特徴

東京医科大学病院における再生医療を、法令遵守の下、安全で迅速に、効率的に臨床現場に提供することを目的として設立されました。当センターの施設である、「細胞調製施設」は、2020年3月、細胞加工施設として正式に国の承認を得ることができました。運営は、科と科の垣根を無くし、横断的に再生医療を推進するため、参加希望のある全ての科あるいは部署で構成する委員会が中心となって行います。

Robotic Surgery Center

ロボット手術支援センター

センター長 大野 芳正
OHNO Yoshiro



ダヴィンチ手術をご希望の場合、各科外来へご紹介ください。

○患者さんに優しい「ダヴィンチ」手術

「ダヴィンチ」手術は、内視鏡下手術と同様に身体に小さな穴を開けて行う、傷口が小さい低侵襲の手術です。
メリット1 術中の出血量が少ない
メリット2 傷口が小さい
メリット3 術後の疼痛が少ない
メリット4 回復が早い
メリット5 機能の温存が向上

保険診療と臨床研究

保険診療

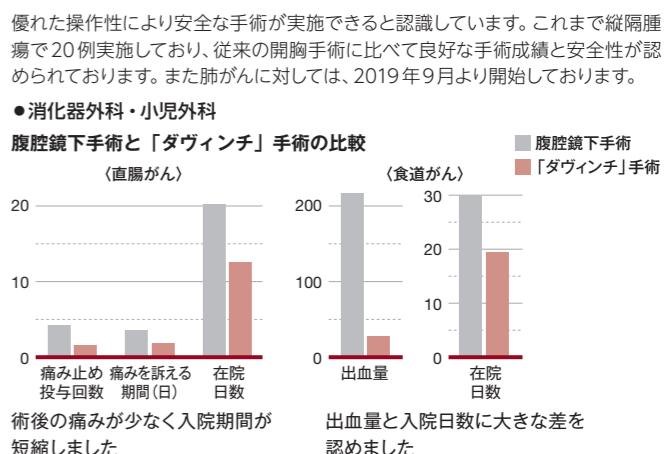
- 泌尿器科 ○前立腺がん ○腎臓がん ○膀胱がん
 - 呼吸器外科 ○肺がん ○縦隔腫瘍
 - 消化器外科 ○直腸がん ○食道がん ○脾臓がん
 - 産科・婦人科 ○子宮体がん ○子宮筋腫
- *保険診療が認められているため、高額療養費の対象となります。

臨床研究

既存のものより有効であると期待される新しい薬や治療・診断法の確立のために、人を対象とし安全性と有効性の検証をする全ての研究が該当します。

●耳鼻咽喉科・頭頸部外科

手術時間と術後経過



直腸がん、食道がんに対して行っており、2019年度は39件の手術を実施しました。入院期間の短縮、出血量の減少、疼痛の軽減を認めています。

●産科・婦人科

これまで子宮頸がん、体がん、子宮筋腫を中心に300例以上を実施しており、現在子宮頸がんに対するロボット支援下拡大子宮全摘術を先進医療として行っています。2020年度は73件のダヴィンチ手術を実施しました。

手術時間と術後経過

	セットアップ時間(分)	手術時間(分)	経口摂取開始時期(日)	平均在院日数(日)
Park(韓国)	19(15-20)	44(40-50)	5.6(5-7)	7
Genden(米)	20-120	84(45-150)	1.4	1.7
Lowson(米)	24(10-60)	67(12-180)	3	9
当院(初期10症例)	34(20-45)	96(48-160)	6(2-18)	9.9

咽頭がんなど30例以上を実施してきました。2019年度は10件行っており、術後嚥下機能の温存、入院期間の短縮を認めています。

Cleft Lip and Palate Center

口唇口蓋裂センター

センター長 近津 大地
CHIKAZU Daichi

2014年12月1日、口唇口蓋裂を専門に治療する口唇口蓋裂センターが開設され、患者さんの数が年々増えてきています。

当センターの特徴は、産科、小児科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、形成外科、歯科口腔外科・矯正歯科など口唇口蓋裂の治療に関わる診療科が同センターのもとで出生前から連携して対応しており、一つのチームとして定期的にカンファレンスを行い、患者さんの情報を共有して総合的に治療にあたることができます。こうした対応が当大学病院で可能な背景として、口唇口蓋裂に係る診療科がすべて揃っていること、しかも、それらの治療に携わるスタッフが高い専門性を兼ね備えていることがあげられます。これまで口唇口蓋裂の治療を総合的に行うことができる施設は都内でも限られていたこともあり、当センターの口唇口蓋裂治療に対して期待が寄せられています。

口唇口蓋裂の治療は、長期かつ多岐にわたるため、患者さんのみならずその両親にもさまざまな面で負担を強いることになります。東京医科大学病院は、自立支援医療・更生医療の指定病院であり、申請によって手術や歯科矯正治療などに対して医療費の補助を受けることができます。また、交通のアクセスが良い新宿にあり、定期的な通院に便利という立地条件も備わっています。こうした利点を踏まえ、さらに、チーム医療の促進に向けて各診療科の情報共有化を促進するなど、当センターは口唇口蓋裂の患者さんにとってより利便性の高い治療の実現に向けさまざまな取組みを行っております。

診療体制(主要メンバー)

センター長	近津 大地	歯科口腔外科・矯正歯科 主任教授
副センター長	松村 一	形成外科 主任教授
副センター長	塚原 清彰	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 主任教授
副センター長	河島 尚志	小児科・思春期科 主任教授
副センター長	西 洋孝	産科・婦人科 主任教授
各科専門医	稻垣 太郎	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 准教授
各科専門医	菅波 佑介	小児科・思春期科 助教
各科専門医	井田 夕紀子	形成外科 講師
各科専門医	田村 知子	歯科口腔外科・矯正歯科 講師
各科専門医	南 綾	歯科口腔外科・矯正歯科 兼任助教
各科専門医	小島 淳哉	産科・婦人科 講師

受診案内

紹介患者さんにつきましては、最初に小児科・思春期科を受診していただきます。その後、関連各科での治療計画にしたがって適切な時期に適切な対応を行います。



Dementia Treatment Center

認知症疾患医療センター

センター長 清水 聰一郎
SHIMIZU Soichiro

認知症専門医（高齢診療科、脳神経内科、メンタルヘルス科医師）が問診、神経心理検査、血液検査、画像検査、時に脳脊髄液検査などを施行し、認知症の早期診断と鑑別を行います。診断をもとに治療方針をご本人、ご家族とともに決定します。その後の診療は、主にかかりつけ医や近隣の認知症診療に対応可能な医療機関（認知症専門医、認知症サポート医など）に引き継ぎます。また、認知症の症状に変化があれば、かかりつけ医や地域の医療機関と連携しながら対応します。

センター長	清水 聰一郎	高齢診療科 主任教授
副センター長	井上 猛	メンタルヘルス科 主任教授

診療の流れ

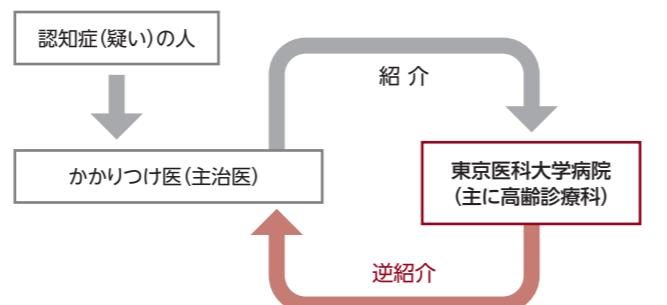
月曜日から金曜日まで主に高齢診療科外来で認知症の患者さんの診療を行っています。

●初診時

問診、心理テスト、一般診察、血液検査など

画像検査（MRI、SPECTなど）【予約】、詳細な神経心理検査【予約】

- 3~4週後
診察、検査成績の説明、診断と治療方針の決定
⇒かかりつけ医へ逆紹介
- 6か月~1年後
経過観察のため再診
- 症状増悪時は隨時再診可能



活動の状況

地域の医療従事者等の皆様の認知症対応力の向上を図るために、新宿区・中野区・杉並区医師会の協力を得て、2003年から年1回在宅認知症患者対策ケアネットワークを開催しています。

その他、新宿区医師会、新宿区保健所との共催にて、地域住民や介護者等の皆様に、認知症の理解促進に向けた啓蒙、啓発活動を行っています。

新宿区内の地域包括支援センターを集め、年3回医療連携協議会を開催し、認知症支援のための地域連携の強化を行っています。

Clinical Genetics Center

遺伝子診療センター

センター長 河島 尚志
KAWASHIMA Hisashi

家族性腫瘍：家族性大腸ポリポジス、遺伝性乳がん卵巣がんなど

先天異常症候群：Prader-Willi症候群など

遺伝子結合織疾患：Marfan症候群など

染色体異常症：Down症候群、Klinefelter症候群、Turner症候群など

先天性代謝異常症：Fabry病、Gaucher病、家族性高脂血症など

循環器領域：QT延長症候群、心筋症など

産科領域：羊水検査結果の異常など

皮膚科領域：神経線維腫症など

眼科領域：網膜色素変性症など

耳鼻咽喉科領域：先天性難聴など

がんゲノム領域：がん遺伝子パネル検査など

その他：遺伝性と思われる疾患の患者さんが家系内にいるなど

診療案内

- ① 染色体・遺伝性疾患の診察
- ② 遺伝カウンセリング
- ③ 遺伝学的検査(保険・自費・研究)
- ④ がんゲノム
- ⑤ チーム医療体制(結合織外見・結節性硬化症外来)

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

主なスタッフ	職名	専門分野
河島 尚志	小児科・思春期科 主任教授	小児科領域
沼部 博直	小児科・思春期科 教授	小児科領域、染色体疾患
林 由起子	病態生理学 主任教授	神経内科領域、内科領域
久慈 直昭	産科・婦人科 教授	産婦人科領域
吉村 明修	臨床腫瘍科 教授	がんゲノム領域
黒田 雅彦	分子病理学 主任教授	がんゲノム領域
稻垣 夏子	循環器内科 准教授	循環器領域、内科領域
萩原 剛	臨床検査医学科 講師	血友病・出血性・血栓性疾患領域
堺 則康	皮膚科 准教授	皮膚科領域
佐川 泰一	産科・婦人科 兼任講師	産婦人科領域
森島 靖行	小児科・思春期科 兼任助教	小児科領域、染色体疾患
西山 信宏	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 臨床准教授	耳鼻科領域
桐林 和代	認定遺伝カウンセラー®	
田嶋 佐和子	認定遺伝カウンセラー®	
董 惊伊	認定遺伝カウンセラー®	

取り扱っている主な疾患

神経筋疾患：筋ジストロフィー、結節性硬化症など

「家族が遺伝性疾患をもっているが、自分や子どもたちにも遺伝するのか？」
「子どもが遺伝性疾患と診断され、不安」「高年妊娠による胎児への影響が心配」など、遺伝に関する悩みや不安をもつ患者さん、ご家族に対し専門の医師による医学的な情報提供に加えて心理社会的支援を行っています。また、確定診断のための検査、保因者検査、発症前検査などの各種遺伝学的検査を遺伝カウンセリングも含めた総合的な体制の中で行っております。

漢方治療の向いている症状など

- 1) 冷え症
- 2) 虚弱体質による体調不良、体力低下
- 3) 老化に伴うさまざまな症状
- 4) アレルギー性疾患の症状軽減、体質改善
- 5) 生活習慣病など慢性疾患の症状軽減
- 6) 西洋医薬品(抗がん剤など)の副作用の軽減
- 7) 各診療科の標準治療で十分改善しない諸症状 など

診療体制、スタッフ

氏名	職名	専門分野	外来診療日
及川 哲郎	センター長 教授	総合診療科	火 [PM] 水 [PM] 金 [PM]
渡邊 秀裕	教 授	感染症科	金 (第2・4) [PM]
矢数 芳英	兼任講師	麻酔科	木 [PM]
伊藤 正裕	主任教授	人体構造学分野	火 [PM]

受診方法、お問い合わせ先

受診を希望される患者さんがいらっしゃる場合、総合診療科(担当：及川)にご紹介ください。ご不明な点は、当院総合診療科外来受付へお問い合わせください。TEL 03-3342-6111 (代表) 内線 2139

Center for Kampo Medicine

漢方医学センター

センター長 及川 哲郎
OIKAWA Tetsuro

当センターの特徴

漢方医学センターは、患者さんの一層の症状改善と生活の質向上を目指すため、新大学病院開院に合わせて開設されました。現代医学的な視点と異なる漢方医学の診断や治療法を十分に生かし、鋭意診療にあたっております。漢方医学センターのスタッフは、現代医学におけるそれぞれの臨床専門分野をベースにさらに漢方を専門に研修し、全員が漢方専門医の資格を有している漢方医学のエキスパートです。漢方医学センターは、当院各診療科に通院中の患者さんを中心に、漢方治療の併用でさらに症状が良くなっていることを第一の使命としています。その意味で、安心して漢方治療を受けていただくために現代医学的な検査を十分行い、正確な診断を行うことも重視しています。現代医学的治療と漢方治療の良さを組み合わせた医療を統合医療と呼びますが、統合医療によってより良い治療効果が発揮されるを考えます。辛い症状の一層の改善や体調管理の一環として、漢方の知恵をぜひご活用ください。

Heart Rhythm Center

不整脈センター

センター長 里見 和浩
SATOMI Kazuhiro

近年、不整脈診断・治療技術の発展により多くの不整脈治療が可能となっていました。当院では、最先端の治療技術を取り入れ、安全性を重視したクオリティの高い不整脈治療を行ってきました。さらなる不整脈診療の向上と、実地医療の先生方とのより密接な医療連携を目的とし、2017年10月に不整脈センターを設立いたしました。

診療体制

	氏名	外来診療日
セ セ ン タ ー 長	里見 和浩	水 AM PM 木 AM
副 セ ン タ ー 長	矢崎 義直	火 AM PM
	實田 顕	水 AM 土(第1-3-5) AM
	楠目 宝大	木 AM
	高田 康之	火 PM
遺伝カウンセリング担当	稻垣 夏子	
臨床検査技師	境田 知子	
臨床工学技師	根津 知行	
臨床工学技師	千葉 晶奈	

当センターの特徴

我々は最新の技術と積み重ねた経験を駆使し、全ての不整脈の治療を行ってきました。2016年、国立循環器病センターより里見准教授が赴任、不整脈診療の拡充をはかり、多くの患者さんをご紹介いただきました。特に心房細動の根治治療であるカテーテルアブレーションの件数が増加しています（図1）。国内外からも高い技術と安全性が評価され、アジア不整脈学会認定の教育研修施設として認定されています（国内に3施設のみ）。

2019年新大学病院開院を期にカテーテル検査室、医療機器が拡充、医療スタッフも増員し、不整脈治療を発展させました。

不整脈のメカニズムを解析する3次元マッピング装置は、国内で認可されている3つのシステム（CARTO、Ensite、Rhythmia）のすべてを有しています。

安全性を高め、治療効果を上げることが可能な、コンタクトフォースセンサー付きの高周波カテーテルも使用可能です。心房細動アブレーションの手技時間を短縮し、高周波エネルギーと同等の効果を上げているバルーンアブレーションは、クライオ、レーザーバルーンの2つを選択できます。また難治性不整脈である

心室頻拍や心室細動のアブレーションにも積極的に取り組んでいます。（図2）新たな心臓植え込み型デバイスである、リードレスペースメーカー、完全皮下植込み型除細動器など、多くの高度な最新治療を他施設に先駆けて行ってまいりました。失神、潜因性脳梗塞の原因精査に用いられる植込み型ループレコーダーの植込み件数は全国的にも有数の施設です。これからも安全かつ確実な不整脈治療を患者さんに提供できるよう努力してまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

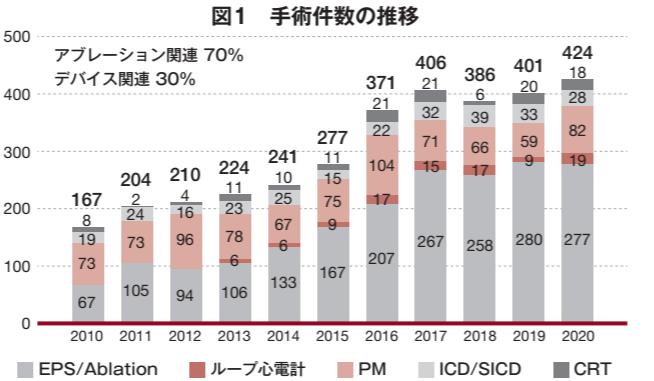
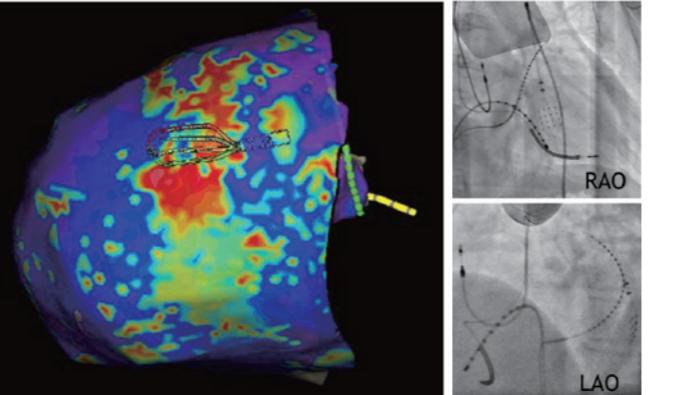


図2 心室頻拍に対するカテーテルアブレーション
(心外膜アプローチ法)



Surgical Center for Vestibular schwannoma and Skull base tumors

聴神経腫瘍・頭蓋底腫瘍センター

センター長 河野 道宏
KOHNO Michihiro

聴神経腫瘍、小脳橋角部腫瘍、頭蓋底腫瘍を高度な専門性をもって治療しております。聴神経腫瘍・頭蓋底腫瘍に関する2診療科（脳神経外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科）が連携し、診療・検査・手術を行っています。

当センターの特徴

この分野の手術はきわめて高難度とされており、良好な成績を収めるためには、豊富な手術経験、手術の技術、術中脳神経モニタリング、術前・術後の専門的な種々の検査、術前の腫瘍塞栓を行う脳血管内治療チームがそろっていることが必須条件と考えられています。当センターでは、上述の5つすべてを満たす稀少な施設として広く認知されており、全国から多くの患者さんが紹介され、国内で突出した手術件数（年間150件）と高い神経機能温存率を特徴としています。

診療内容

当センターで専門的に診療・治療している対象疾患は、聴神経腫瘍、小脳橋角部腫瘍（三叉神経鞘腫・顔面神経鞘腫・頸静脈孔神経鞘腫・舌下神経鞘腫・類上皮腫・類皮腫）、頭蓋底髄膜腫（錐体斜台部・テント部・小脳橋角部など）、グローミス腫瘍、その他の腫瘍（脊索腫・軟骨肉腫）です。

診療体制

センター長	河野 道宏	脳神経外科 主任教授
副センター長	塙原 清彰	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 主任教授

医療連携を通してご紹介をいただくことは可能ですが、河野医師の場合には2~3か月先の予約になることがありますので、お急ぎの患者さんには、直接河野医師を受診するようにお伝えください。

Replacement Arthroplasty Center

人工関節センター

センター長 宮戸 孝明
SHISHIDO Takaaki

りも含めてしっかり診療、指導し、患者さんが安心して治療、手術が受けられるよう取り組んでおります。

またお困りの難治性疾患（脊椎高度変形、人工関節後感染、高度骨欠損例、再置換術、再手術検討症例）も積極的に受け入れております。お気軽にご紹介ください。

外来担当医師と各専門分野 (2021年11月現在)

氏名	職名	専門分野	外来診療日
山本 謙吾	主任教授	股・膝・肘関節外科	月 AM 木 AM
西田 淳	教 授	肩関節、肘関節、手外科	火 AM 金(第2-4) AM
宍戸 孝明	准 教 授	股・膝関節外科	木 AM 土(第3-5) AM
正岡 利紀	准 教 授	股・膝関節外科	水 AM 金(第1-3-5) AM
立岩 俊之	講 師	股・膝関節外科	木 AM 土(第1) AM
石田 常仁	講 師	股・膝関節外科	月 AM

当センターの特徴

人工関節手術は、患者さんにとって大きな治療効果をもたらします。つらい痛みが、著明に改善し、機能回復することで Quality of life (QOL) を向上することができ、以前と同じ生活に戻っていただくことができる手術であり、整形外科分野の中でも非常に治療効果の高い手術の一つです。最近では、インプラントの耐久性の進歩や手術手技の向上により術後ダンスやゴルフ、水泳などの関節に負担が少ないスポーツを楽しんでいらっしゃる患者さんも増えてきているのが実際です。さらに高齢化社会の需要に伴い本邦における人工関節の数は、ここ10年で倍増してきており、今後も増加していくことが期待されています。

その背景の中、当院も2020年5月1日人工関節センターを開設いたしました。山本謙吾教授を初めとして、股・膝関節を中心に、上肢(肩・肘・指関節)人工関節も各エキスパートの先生達が安全で確実な手術を行っており、日本人人工関節学会が認定する人工関節認定医も5名在籍しております。当センターの特徴として、変形性関節症だけではなく、大学病院であるため血友病や重度の合併症を有する症例や骨パニックを有しているため高度変形例、感染例や骨欠損例などの難治性症例に対しても幅広く受け入れております。

近年、国内における年間数十万件を超多くの人工関節手術が行われる中で、その手術適応、手術方法、インプラント選択および耐久性の向上につながったかどうかの検証が十分とは言い切れません。当センターは“Stick to the Basics”的信念のもと、人工関節の基礎研究にもこだわり、整形外科基礎部門である骨・関節バイオマテリアル研究寄付講座ともしっかりと連携をとり、最先端の人工関節研究に力を注いでおります。人工関節治療効果と安全性を最大化できるよう科学的視点から検証することも当センターの使命だと感じております。



対応疾患

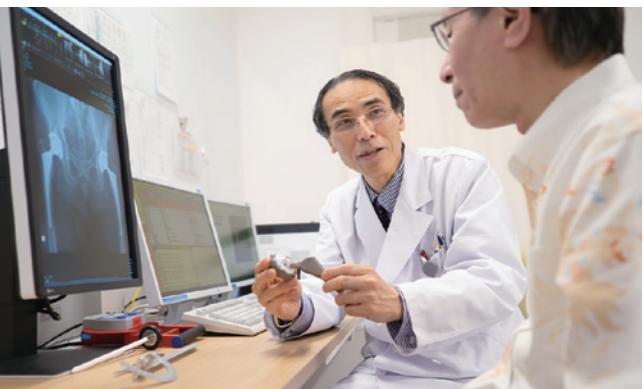
主に股関節、膝関節を中心とした人工関節手術を行っております。
人工関節手術の適応となる主な疾患は、股関節では変形性股関節症、関節リウマチ、大腿骨頭壊死、膝関節では、変形性膝関節症、関節リウマチなどです。また近年增加傾向にある腱板断裂症性変形肩関節症に対しての人工肩関節置換術（リバース型含む）や、肘・指関節など上肢人工関節も対応可能です。

経験豊富なスタッフが、まず外来で患者さん一人一人に合った治療法を一緒に考え、選択できるよう丁寧な診療を心がけております。そこで手術選択となった場合、手術前の精査を行い（場合によっては検査入院）、入院中、そして退院までリハビ



診療実績

	2016	2017	2018	2019	2020
人工股関節全置換術(THA)	85	85	69	77	78
THA再置換術	6	8	16	11	4
人工膝関節全置換術(TKA)	91	68	71	63	70
TKA再置換術	4	5	3	1	4
人工肩関節置換術(TSA&RSA)	5	6	7	8	3
人工肘関節置換術(TEA)	0	0	2	2	2
人工指関節置換術	0	1	1	2	1
腫瘍型人工関節置換術	9	2	2	2	1



炎症性腸疾患(IBD)・良性腸疾患センター



診療案内

当院では消化器内科、小児科・思春期科において主にIBDの診療が行われております。その中で手術対象例は消化器外科・小児外科で治療を行います。術後は元の診療科でフォローアップ及び診療を継続していくこととなります。小児期から発症した患者さんは、保護される立場から自立して判断できる成人になっていきます。成長に合わせて、成人期にふさわしい医療が切れ目なく提供されることが必要です。

またIBDの重症者は刻一刻と病状が変化するため、診療科間で細かい連携と情報共有が必須となります。クローン病では長期経過の中で腸管狭窄、肛門疾患の合併などで度重なる手術が必要となる場合も少なくありません。憩室症、腸管捻転、慢性便秘症なども最終的に手術適応を判断するには同様の対応が必要になってしまいます。

このような背景から専門性の高い難病の炎症性腸疾患と良性腸疾患に特化した内科、外科および小児科の三科医師による円滑かつ密接した診療体系を構築しました。

PancreatoBiliary Diseases Center

胆道疾患センター



診療案内

膵がん・胆道がんをはじめとした胆胰疾患は、診断や治療がとても困難な病態群であり、特に早期発見の難しさがこれらの予後不良である原因の一つとなっています。また、胆胰・胆道の内視鏡治療および外科手術は合併症率も高く、特に手術においては外科治療の中でも最も難易度が高く、この手術に熟練している外科医は限られています。しかし、当院の消化器内科学分野、消化器・小児外科学分野には日本を代表する胆胰内科医、胆胰外科医が揃っており、胆胰内視鏡治療数、胆胰手術数は全国でもトップクラスであり、安心・安全な治療はもとより、新規治療法の開発や新規薬剤の治験なども積極的に行なっています。

診断・手術だけでなく、放射線治療、化学療法、血管内治療、病理診断、緩和医療など、一人一人の患者さんの状態に応じた最適な診断・治療を行う必要があるため、この度、消化器内科、消化器外科・小児外科、さらには放射線科、臨床腫瘍科、病理診断科がスクラムを組んでワンチームとして診療を行う「胆胰・胆道疾患センター」を2021年7月に立ち上げました。

当センターでは、悪性の病気だけでなく、胆石や胆管炎、膵炎といった良性の病気も大学病院ならではの専門的な最新の高度な医療を提供致します。他院で治療困難と言われた方も、是非一度ご相談下さい。

取り扱っている主な疾患

膵がん、胆管内乳頭粘液性腫瘍、胆管がん、胆嚢がん、十二指腸乳頭部腫瘍、膵神経内分泌腫瘍・総胆管結石、胆石胆嚢炎・急性膵炎、重症膵炎後仮性囊胞・WON、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、胆囊ポリープ、膵・胆管合流異常、胆胰疾患術後の吻合部狭窄など

当センターの特徴

全国的に見てもこの分野の内科・外科・放射線科・病理診断科の専門家がそろっている施設はほとんどありません。各部門の専門家が定期的にカンファレンスを行い、個々の患者さんの病態に応じた最良の医療を行います。

当センターの特徴

幼少期、青壮期から長期的な診療が必要になる場合が多いIBDの診療は、加療を継続中に就学、就労、女性であれば妊娠・出産など、多くのイベントを考慮した治療が望まれます。また近年では様々な疾患を合併している高齢者においても発症が増えております。その中で、難治性のため長期的な免疫抑制療法を行なう場合や、重症化による緊急手術などを余儀なくされる場合もあり、病勢・病状に沿った薬物、栄養、食事管理や心理的なサポートが重要になります。当センターでは専門の薬剤師、管理栄養士、臨床心理士と連携を密にすることで、薬剤の説明や栄養指導、メンタルケアを重点的に行い、より患者さんに適切で安全な医療を提供できるように心掛けます。

取り扱っている主な疾患

潰瘍性大腸炎、クローン病、腸管バーチエット病、単純性潰瘍、非特異性多発小腸潰瘍症、腸結核、過敏性腸症候群、憩室症、腸管捻転、慢性便秘、悪性腫瘍およびIBD・良性腸疾患関連の悪性疾患、原因不明の小腸・大腸の炎症、潰瘍がある患者さん

炎症性腸疾患(IBD)・良性腸疾患センター スタッフ

消化器外科・小児外科		消化器内科			小児科・思春期科		
センター長 勝又 健次 教授	専任スタッフ 乗原 寛 助教	兼任スタッフ 石崎 哲央 准教授	兼任スタッフ 榎本 正統 准教授	内科センター長 福澤 誠克 准教授	専任スタッフ 班目 明 臨床助教	専任スタッフ 根本 大樹 臨床研究医	副センター長 西亦 繁雄 講師

組織図

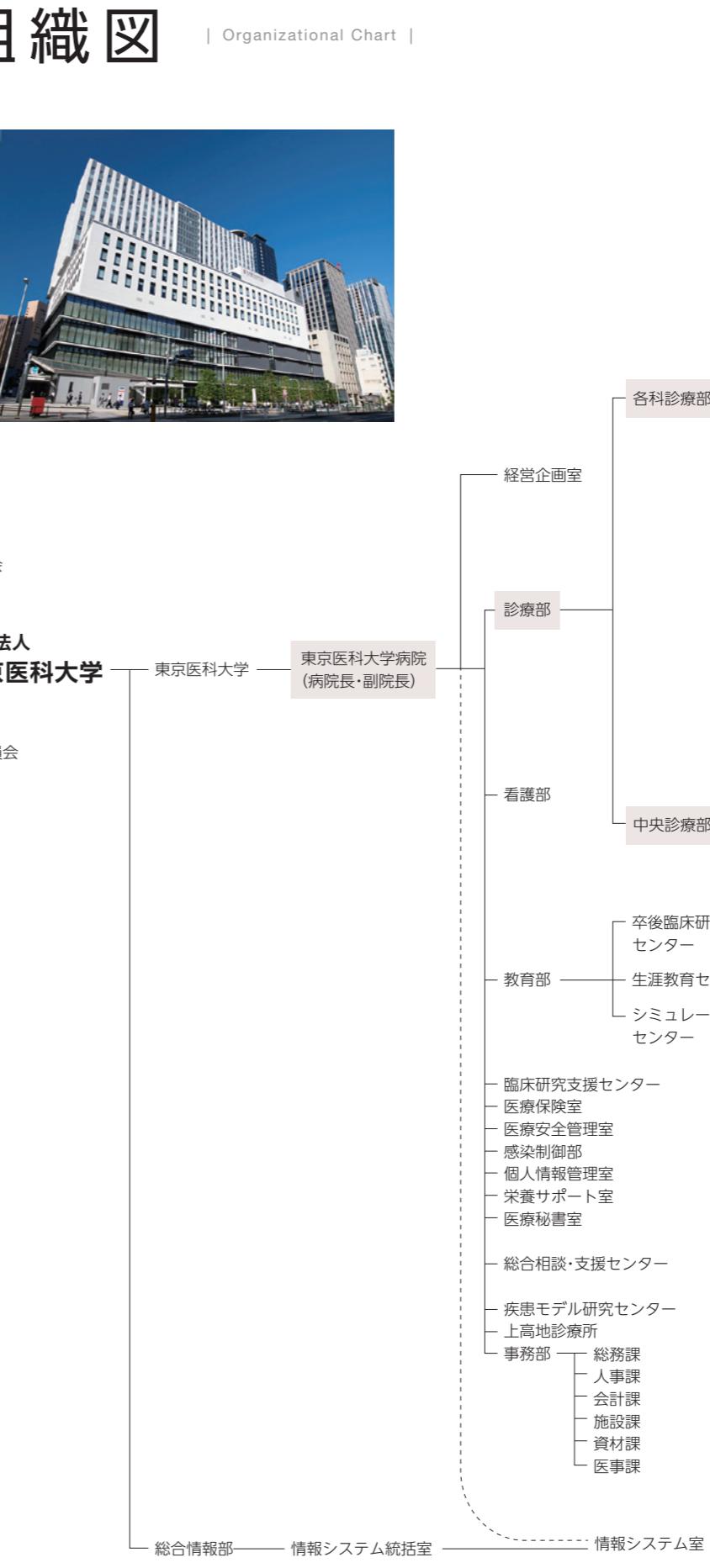
| Organizational Chart |



理事会

学校法人
東京医科大学東京医科大学
(病院長・副院長)

評議員会

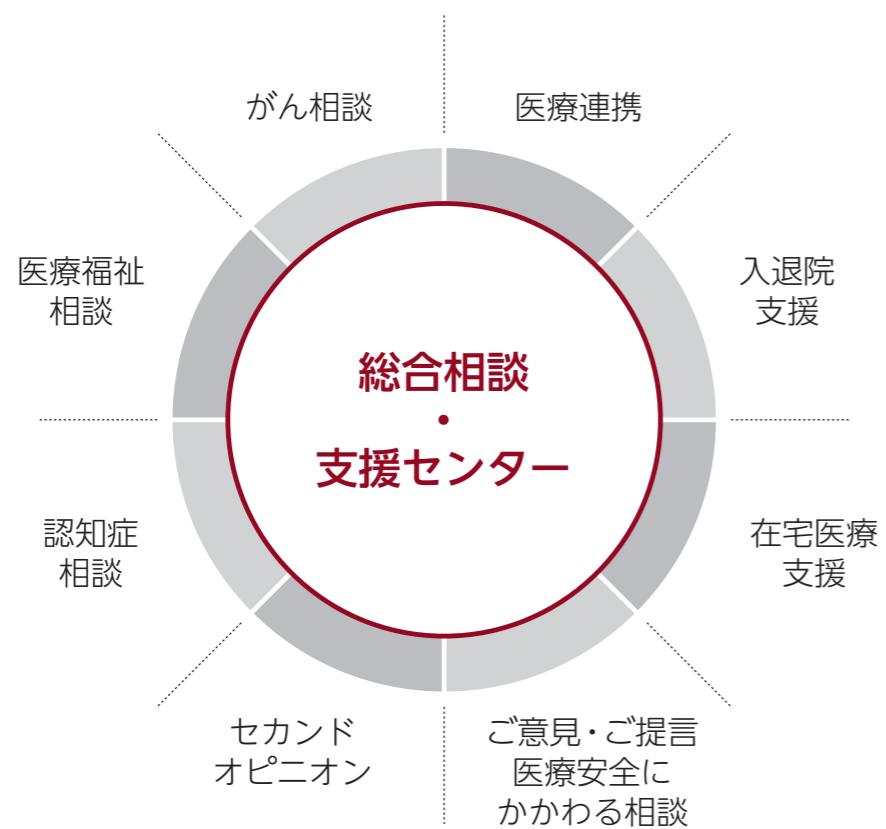


(2021年11月現在)

- 総合診療科
- 血液内科
- 呼吸器内科
- 循環器内科
- 糖尿病・代謝・内分泌内科
- リウマチ・膠原病内科
- 脳神経内科
- 消化器内科
- 腎臓内科
- 感染症科
- 高齢診療科
- 臨床検査医学科
- メンタルヘルス科
- 小児科・思春期科
- 呼吸器外科・甲状腺外科
- 心臓血管外科
- 消化器外科・小児外科
- 乳腺科
- 眼科
- 脳神経外科
- 耳鼻咽喉科・頭頸部外科
- 整形外科
- 形成外科
- 麻酔科
- 皮膚科
- 歯科口腔外科・矯正歯科
- 産科・婦人科
- 泌尿器科
- 放射線科
- 臨床腫瘍科
- 病理診断科
- 中央検査部
- 中央手術部
- 薬剤部
- 病理診断部
- 放射線治療部
- 画像診断部
- 核医学部
- 輸血部
- 集中治療部
- 臨床工学部
- 緩和医療部
- 国際診療部
- 健診部 健診予防医学
- 栄養管理科 センター
- 診療情報管理室
- 中央材料室
- 人工透析センター
- 内視鏡センター
- リハビリテーションセンター
- 救命救急センター
- レーザー治療センター
- 低侵襲心臓・血管病治療センター
- CVラインセンター
- 外来化学療法センター
- 地域周産期母子医療センター
- 聴覚・人工内耳センター
- 心臓リハビリテーションセンター
- 渡航者医療センター
- 外来エコセンター
- ロボット手術支援センター
- 細胞・再生医療センター
- 脳卒中センター
- 口唇口蓋裂センター
- 認知症疾患医療センター
- 遺伝子診療センター
- 不整脈センター
- 漢方医学センター
- 聴神経腫瘍・頭蓋底腫瘍センター
- 人工閥節センター
- 炎症性腸疾患 (IBD)・良性腸疾患センター
- 膀胱・胆道疾患センター

総合相談・支援センター

| Comprehensive Counseling and Support Center |



総合相談・支援センターは、患者さんや地域の医療機関の皆様からの幅広いニーズに応えられるよう活動しております。

患者さんおよび御家族が、適切でより良い療養、社会生活が営めるよう、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、および専門相談員が連携をとり、迅速な支援をしております。患者さんを入院前から支援をし、退院後の状況や生活を見据えた繋がりのある医療を提供しております。

また、地域医療機関の先生方に医療連携に関する様々な情報提供をはじめ、医療連携懇話会の開催を通じ、さらなる顔の見える医療連携を推進、構築に尽力して参ります。



病院案内

| Hospital Information |

病床分布

	病床数
一般	885床
精神	19床
合計	904床

教職員数 (2021年4月1日現在)

医師・歯科医（研修医除く）	742人
研修医	92人
看護師（准看護師含）	1,258人
看護助手	52人
医療技術員	408人
事務職員	329人
その他	16人
合計	2,897人

施設基準の承認 [基本診療料、特掲診療料等] (2021年11月1日現在)

■ 基本診療料

地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算2
歯科診療特別対応連携加算
特定機能病院入院基本料
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算1
急性期看護補助体制加算
夜間急性期看護補助体制加算
夜間看護体制加算
看護職員夜間配置加算
看護補助加算
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算1
緩和ケア診療加算

精神科身体合併症管理加算
精神科リエゾンチーム加算
摂食障害入院医療管理加算
特定機能病院入院基本料
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算1
医師事務作業補助体制加算1
急性期看護補助体制加算
夜間急性期看護補助体制加算
夜間看護体制加算
看護職員夜間配置加算
看護補助加算
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算1
緩和ケア診療加算

入退院支援加算3
入院時支援加算
総合機能評価加算
認知症ケア加算
せん妄ハイリスク患者ケア加算
精神疾患診療体制加算
精神科急性期医師配置加算
排尿自立支援加算
地域医療体制確保加算
救命救急入院料4
特定集中治療室管理料1
早期離床・リハビリテーション加算
早期栄養介入管理加算
総合周産期特定集中治療室管理料
小児入院医療管理料1

■ 特掲診療料

歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
ウイルス疾患指導料
外来栄養食事指導料(注2)
遠隔モニタリング加算(ベースメーカー指導管理料)
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
がん患者指導管理料二
外来緩和ケア管理料
移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)
糖尿病透析予防指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料
婦人科特定疾患治療管理料
腎代替療法指導管理料
院内トリアージ実施料

外来放射線照射診療料
ニコチン依存症管理料
がん治療連携計画策定料
外来排尿自立指導料
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料1
医療機器安全管理料2
医療機器安全管理料(歯科)
在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
遺伝学的検査
精密触覚機能検査
BRCA1/2遺伝子検査

がんゲノムプロファイリング検査
先天性代謝異常症検査
HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェンタイプ判定)
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
検体検査管理加算(I)
検体検査管理加算(IV)
国際標準検査管理加算
遺伝カウンセリング加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ヘッドアップティルト試験
長期継続頭蓋内脳波検査
光トポグラフィー
神経学的検査
補聴器適合検査

黄斑局所網膜電図
全視野精密網膜電図
ロービジョン検査判断料
コンタクトレンズ検査料1
小児食物アレルギー負荷検査
内服・点滴誘発試験
画像診断管理加算1
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
心臓MRI撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算1
連携充実加算
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
がん患者リハビリテーション料
集団コミュニケーション療法料
歯科口腔リハビリテーション料2
通院・在宅精神療法(児童思春期精神科専門管理加算)
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
口腔粘膜血管腫凝固術
レーザー機器加算の施設基準
静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
人工腎臓
導入期加算2及び腎代替療法実績加算
透析水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
CAD/CAM冠
歯科技工加算1及び2
センチネルリンパ節加算
皮膚移植術(死体)
処理骨再建加算
組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
後縫紉帶骨化症手術(前方進入によるもの)
椎間板内酵素注入療法
腫瘍脊椎骨全摘術
原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
角膜移植術(内皮移植加算)
羊膜移植術
緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレン挿入術)
網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
網膜再建術
人工耳中植込術
人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植

術及び植込型骨導補聴器交換術
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
喉頭形成手術(甲状軟骨固定器具を用いたもの)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
食道縫合術(穿孔・損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎孟)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内視鏡下筋層切開術
経皮の冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
胸腔鏡下弁形成術
経カテーテル大動脈弁置換術
胸腔鏡下弁置換術
不整脈手術(左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるものに限る。))
経皮的中隔心筋焼灼術
ベースメーカー移植術及びベースメーカー交換術
ベースメーカー移植術及びベースメーカー交換術(リードレスベースメーカー)
両心室ベースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ベースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
補助人工心臓
経皮的下肢動脈形成術
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
胆管悪性腫瘍手術(脾頭十二指腸切除及び肝切除)
歯科矯正診断料

■ 入院時食事療法の届出

入院時食事療法(Ⅰ)

指定医療機関

当院は下記法律等による承認を受けた指定医療機関となっております。

保険医療機関	臨床研修を行う病院
特定機能病院	(医師法第16条の2第1項)
救急告示医療機関	生活保護法
地域周産期母子医療センター	原爆被爆者援護法
東京都災害拠点病院	精神保健福祉法
地域がん診療連携拠点病院	感染症予防法
エイズ診療拠点病院	障害者自立支援法
卒後臨床研修評価機構認定病院	老人保健法
地域連携型認知症疾患医療センター	母子保健法

母体保護法
児童福祉法
労働者災害補償保険法
地方公務員災害補償法
国家公務員災害補償法
公害健康被害補償法
特定疾患治療研究事業
小児慢性特定疾患治療研究事業
先天性血液凝固因子障害治療研究事業

東京都災害拠点病院

東京都災害拠点病院とは、都内や近県で災害が発生し、通常の医療体制では被災者に対する適切な医療を確保することが困難な状況となった場合に、東京都知事の要請により傷病者の受け入れや医療救護班の派遣等を行う病院のことです。

東京都内では84施設の「東京都災害拠点病院」があり、これらの病院は12の二次保健医療圏のいずれかに属しています。各二次保健医療圏には、地域災害拠点中核病院が一つ定められ、当院は「区西部」のエリア(新宿区・中野区・杉並区)にある、唯一の地域災害拠点中核病院に指定されています。

中核病院とは、エリア内の医療資源の統制、調整権行使する指揮統制の本部となる医療対策拠点を設置・設営する病院で、各医療圏では地域災害医療コーディネーター(東京都の非常勤職員に任命)を中心に『災害医療』に備えています。



1F 防災センター

*「災害医療」とは、災害により対応する側の医療能力を上回るほど多数の医療対象者が発生した際に行われる、「災害時の急性期、初期医療のこと」です。

*首都直下地震等対処要領(2016.3)が適用される災害(災害医療の発動する災害)として、2012年4月に公表した「首都直下地震等による東京の被害想定」で示された東京湾北部地震、多摩直下地震のような震度6弱以上の大規模地震が東京23区・多摩地域で発生し、東京都災害対策本部が設置された場合を想定しています。

地域がん診療連携拠点病院

がん診療連携拠点病院とは、質の高い「がん医療」の全国的な均一化を図ることを目的に整備された病院であり、都道府県ごとの「都道府県がん診療連携拠点病院」を中心に二次医療圏ごとに「地域がん診療連携拠点病院」が設置されています。当院は、「区西部」(新宿区・中野区・杉並区)の「地域がん診療連携拠点病院」として承認され地域の医療機関と連携して、専門的ながん医療の提供や相談支援、情報提供などを行う役割を担っています。

当院では、都内医療機関が共通に使用できる5大がん(肺がん・胃がん・肝がん・大腸がん・乳がん)及び前立腺がんの地

域連携クリティカルパス「東京都医療連携手帳」の運用を行っています。当院及び計画策定病院として届け出がされているかかりつけ医の双方で経過観察をしていく旨を了承されたパス適応患者さんには、手帳を発行させていただきますので円滑な利用に際しご協力の程、宜しくお願いいたします。

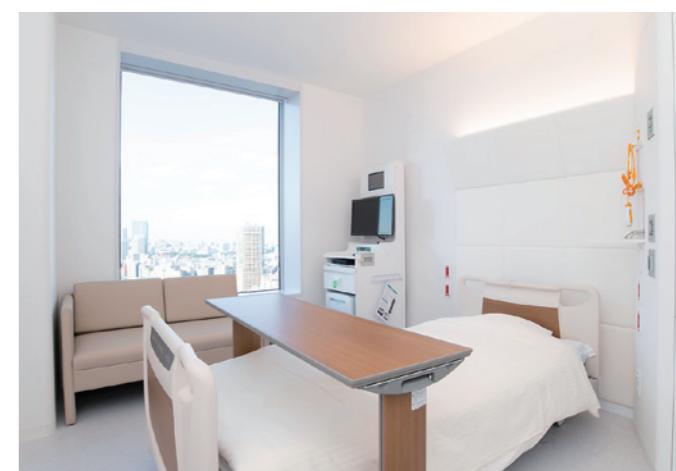
また、がん診療に携わる全ての医師が基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得していただくことを目的とした、「緩和ケア研修会」を開催しています。受講の申込みは病院のホームページにてお知らせをしております。

診療実績

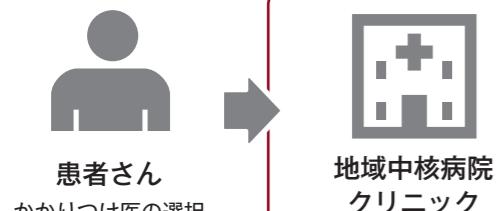
| Medical Results |

(2020年1月～2020年12月実績)

項目名	件数	項目名	件数	項目名	件数	項目名	件数
心臓血管領域		神経・脳血管領域		婦人科領域		耳鼻咽喉領域	
心臓カテーテル検査件数	445	頸部動脈血栓内膜剥離術	3	子宮筋腫摘出術	14	鼓室形成手術	29
心臓ペースメーカー植込み件数	45	選択的脳血栓・塞栓溶解術	1	腹腔鏡下子宮筋腫摘出術	63	副鼻腔炎手術	1
冠動脈バイパス手術	44	頭蓋内血腫除去術	30	子宮悪性腫瘍手術	62	内視鏡下副鼻腔炎手術	148
経皮的冠動脈形成術(PTCA)	30	脳動脈瘤根治術	26	卵巢悪性腫瘍手術	45	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術	5
経皮的冠動脈血栓吸引術	33	脳動静脈奇形摘出術	1	乳腺領域		舌悪性腫瘍手術	36
経皮的冠動脈ステント留置術	279	脳血管内手術	30	乳腺悪性腫瘍手術	259	咽頭悪性腫瘍手術	20
経皮的カテーテル心筋焼灼術	269	水頭症手術	47	小児領域		喉頭悪性腫瘍手術	33
弁膜症手術	25	脳腫瘍摘出術	196	小児外科手術	282	麻酔領域	
開心術	141	脊髄腫瘍摘出術	16	生後1ヶ月未満の手術件数	2	麻酔科標榜医による麻酔管理	5,755
大動脈瘤切除術	62	小児脳外科手術	4	小児の脳炎・髄膜炎患者数	3	全身麻酔	5,290
下肢静脈瘤手術	7	筋・骨格系および外傷領域		小児の腸重積	8	硬膜外麻酔	183
呼吸器領域		アキレス腱断裂手術	0	皮膚・形成外科領域		脊椎麻酔	493
気管支内視鏡	404	骨折観血的手術	169	皮膚悪性腫瘍手術	71	硬膜外ブロック	5
肺悪性腫瘍手術	8	人工股関節置換術	76	唇顎口蓋裂手術	15	放射線診断・治療領域	
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術	243	人工膝関節置換術	72	精神・神経科領域		単純CT撮影	56,735
縦隔腫瘍手術	6	脊椎手術	219	禁煙指導患者数	82	特殊CT撮影	5
消化器領域		椎間板摘出術	7	眼領域		MRI撮影	24,450
消化管内視鏡検査件数	8,167	椎間板ヘルニアに対する内視鏡下椎間板摘出術	1	硝子体手術	908	マンモグラフィー検査	1,386
上部消化管内視鏡の切除術	133	軟部悪性腫瘍手術	4	水晶体手術	1,865	放射線治療(定位照射)	26
下部消化管内視鏡の切除術	1,218	骨悪性腫瘍手術	6	緑内障手術	363	放射線治療(IMRT)	4,271
虫垂切除術(乳幼児除く)	16	小児整形外科手術	29	網膜光凝固術	393	リハビリ領域	
食道悪性腫瘍手術	4	腎・泌尿器領域		斜視手術	25	心大血管疾患リハビリテーション	998
胃悪性腫瘍手術	32	体外衝撃波結石破碎術	43	角膜移植術	16	脳血管疾患等リハビリテーション	3,299
腹腔鏡下胃悪性腫瘍手術	25	尿道形成手術	1	内分泌・代謝・栄養領域		運動器リハビリテーション	5,924
大腸悪性腫瘍手術	56	腎悪性腫瘍手術	24	甲状腺腫瘍手術	175	呼吸器リハビリテーション	15
腹腔鏡下大腸悪性腫瘍手術	121	膀胱悪性腫瘍手術	158	副腎悪性腫瘍手術	0		
内視鏡的逆行性胆管造影件数	121	前立腺悪性腫瘍手術	168	副腎腫瘍手術	0		
内視鏡的胆道ドレナージ	732	血液・免疫系領域					
経皮経肝的胆道ドレナージ件数	0	骨髄(造血幹細胞)移植件数	18				
肝がんに対するラジオ波焼灼療法	62	臍帶血移植件数	8				
肝悪性腫瘍手術	29						
開腹による胆石症手術	5						
腹腔鏡下胆石症手術	22						
胆道悪性腫瘍手術	0						
膵悪性腫瘍手術	91						



医療連携登録制度(メディカルパートナーズ)



東京医科大学病院

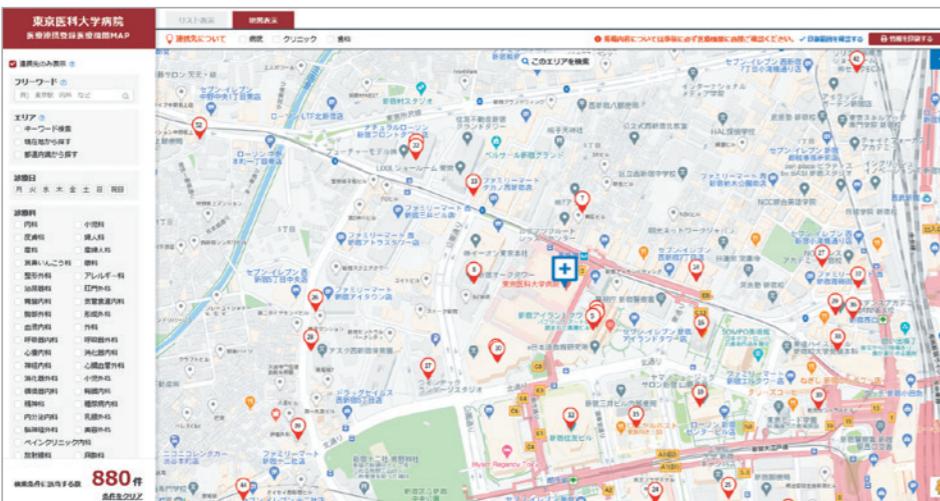
メディカルパートナーズ

それぞれの機能を生かし、地域にとって最善の医療を提供

地域包括ケアシステムの視点に立ち、地域医療をバックアップすると共に、地域の医療機関のパートナーとして、医療機関と地域住民との信頼関係の向上を図ります。

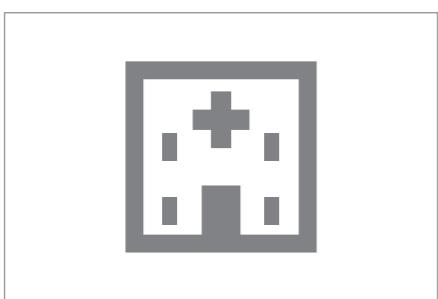
医療連携登録医療機関MAPをインターネット上に掲載しております

<https://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/> 医療関係の方 ▶ 医療連携登録制度(メディカルパートナーズ)



国の政策に基づき、「かかりつけ医」と「大学病院」が役割分担を明確にし、協力し合って、質の高い医療を提供できるように努めています。ご紹介いただきました患者さんは、当院での先進医療

や高度医療の治療が落ち着きましたら、再びご紹介いただいた「かかりつけ医」の先生に紹介をさせていただきます。かかりつけ医の先生と、当院の医師が連携しながら患者さんの治療にあたります。



かかりつけ医



東京医科大学病院



セカンドオピニオン

他の医療機関を受診されている患者さんを対象に、セカンドオピニオンをお受けいたしております。セカンドオピニオンは、現在の診療内容や治療法に関しまして、当院の専門医の判断・意見を提供し、患者さんご自身の治療の参考にしていただくものです。なお、当院におかかりで他の医療機関でセカンドオピニオンをご希望の方は、主治医にその旨をお申し出ください。主治医がご希望の医療機関宛てに紹介状を作成し、必要な検査資料等をお渡しいたします。

相談費用(税込)		
相談料	30分まで	22,000 円
	30分から45分まで	33,000 円
	45分から60分まで	44,000 円
診断料	画像診断	5,500 円
	病理診断	5,500 円



対象となる方

- ・患者さんご本人
- ・患者さんご家族(「相談同意書」が必要)



次の方は対象になりません

- ・予約のない方
- ・検査や診療、転院を希望されている方
- ・診療情報提供書(紹介状)や検査データを提供されない方、及び準備ができない方
- ・ご希望されている領域に対応できる専門医が当院にいない場合
- ・現在の担当医に対する相談
- ・医療事故や医療費についての相談
- ・ご本人、ご家族以外の方からの依頼
- ・交通事故による相談
- ・ご本人が既にお亡くなりになられている場合
- ・相談内容が当院の専門外である場合
- ・日本語、英語以外の外国語による診療情報提供書(紹介状)の場合
- ・日本語、英語以外の言語の方で、医療通訳が同伴できない場合

患者申出療養制度

「未承認薬等を使いたい。」「対象外になっている治験を受けたい。」というご希望のある患者さんが、担当医師や関連病院などと対応を検討し、保険適用につなげるデータ集積を目的とする「保険外併用療養費」の制度です。未承認薬等の費用は患者さんの自己負担となります。申出を起点とし、実施計画の作成を臨床研究中核病院に依頼し、国において確認し、治療開始後も臨床研究中核病院からの実施状況報告を行います。科学

問い合わせ先

東京医科大学病院 臨床研究支援センター TEL 03-3342-6111(代表) 内線 3823
<https://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/shinryo/chikenkanri/>

参考となるウェブサイト

- ・厚生労働省 患者申出療養制度
<https://www.mhlw.go.jp/moushideryouyou/>
- ・臨床研究情報ポータルサイト
<https://rcportal.niph.go.jp/>
- ・人道的見地から実施される治験について(PMDAホームページ)
<https://www.pmda.go.jp/review-services/trials/0016.html>
- ・厚生労働省 先進医療の概要について
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryouhoken/sensiniryo/
- ・医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の今後の要望募集について(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iyakuhin/misyounin/
- ・医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/other-iyaku_128701.html

的根拠がない医療や計画作成が困難な場合は、対象となりません。まず、その治療がご自身の病状に合っているかを調べ、その治療法を使う計画などを定める期間が必要で、その後に患者さんが臨床研究中核病院を通じて国に書類を提出してから6週間程度の時間がかかります。患者さん本人(または法定代理人)からの申出と書類提出等が必要です。

地域における医療ニーズに応えて、 関東広域に附属病院を展開



多様性・国際性・人間性を備えた医師・看護師の育成

所在地 〒160-8402 東京都新宿区新宿6-1-1
TEL 03-3351-6141 FAX 03-3226-7030

交通 ● JR線、小田急線、京王線：「新宿駅」徒歩約20分
● 西武新宿線：「西武新宿駅」徒歩約20分
● 都営バス：新宿駅西口から練馬車庫前行
「新宿一丁目北(元厚生年金会館前)」徒歩約3分
● 東京メトロ丸ノ内線：「新宿御苑前駅」徒歩約7分
● 地下鉄都営新宿線：「新宿三丁目駅」徒歩約10分
● 東京メトロ副都心線：「新宿三丁目駅」徒歩約15分
● 地下鉄都営大江戸線：「東新宿駅」徒歩約15分
● 東京メトロ副都心線：「東新宿駅」徒歩約15分

URL <https://www.tokyo-med.ac.jp>



患者さんが満足できる特定機能病院を目指して

所在地 〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1
TEL 03-3342-6111 FAX 03-3345-1437

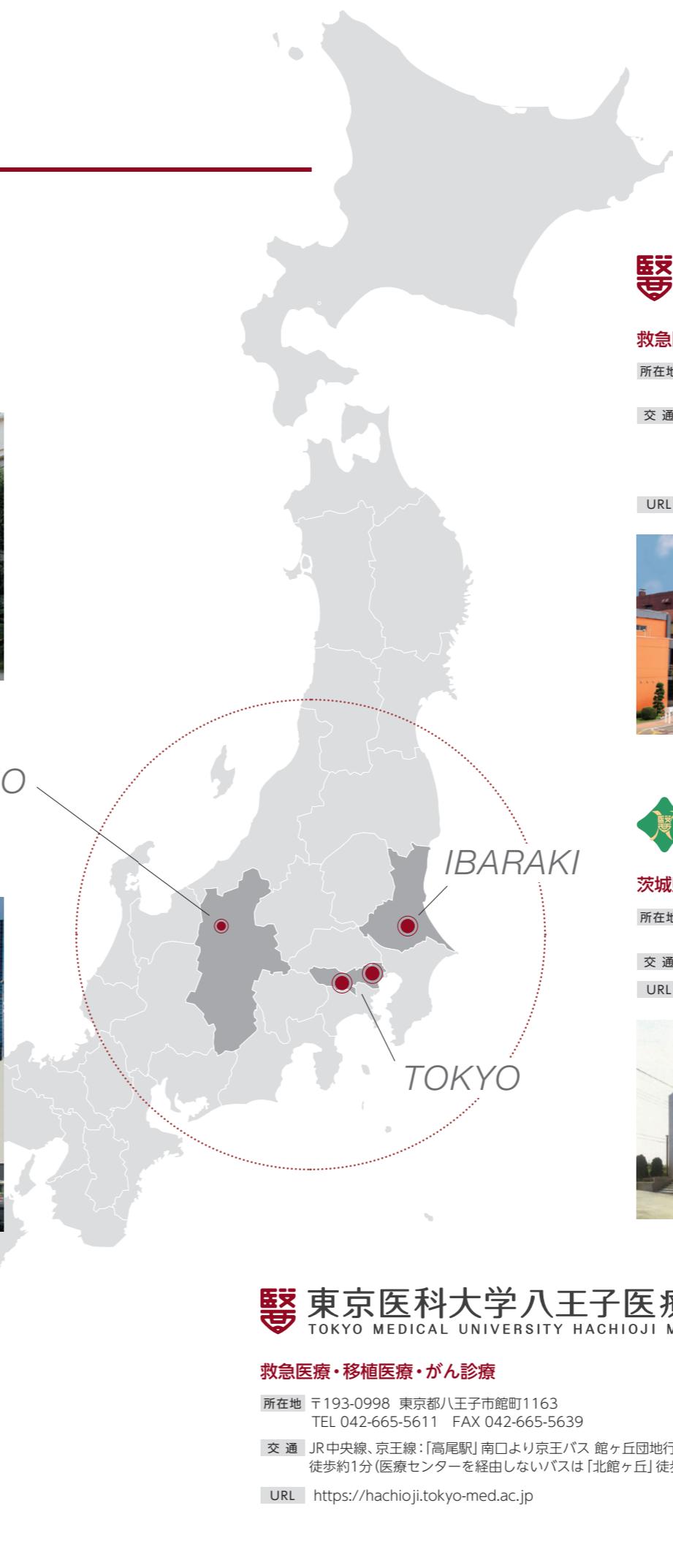
交通 ● JR線、小田急線、京王線：「新宿駅」西口 徒歩約10分
● 西武新宿線：「西武新宿駅」徒歩約14分
● 東京メトロ丸ノ内線：「西新宿駅(東京医大病院前)」徒歩約1分
● 地下鉄都営大江戸線：「都庁前駅」徒歩約7分

URL <https://hospinfo.tokyo-med.ac.jp>



所在地 〒390-1516 長野県松本市安曇上高地
TEL 0263-95-2935 FAX 0263-95-2558

開院期間 4月27日～11月15日
※上高地の開山から閉山まで
※前後することがあります



救急医療・がん診療・高齢者医療

所在地 〒300-0395 茨城県稻敷郡阿見町中央3-20-1
TEL 029-887-1161 FAX 029-887-6266

交通 ● JR常磐線「土浦駅」より関東鉄道バス 阿見中央公民館行で
「東京医科大学病院」もしくは「東京医大病院前」徒歩約1分
● JR常磐線「荒川沖駅東口」より関東鉄道バス 県立医療大学行で
「東京医大病院前」徒歩約1分

URL <https://ksm.tokyo-med.ac.jp>



茨城県の地域医療を支える看護師の育成

所在地 〒300-0332 茨城県稻敷郡阿見町中央3-18-3
TEL 029-887-6141 FAX 029-888-0305

交通 茨城医療センター参照

URL <https://www.tokyo-med.ac.jp/kns/>



救急医療・移植医療・がん診療

所在地 〒193-0998 東京都八王子市館町1163
TEL 042-665-5611 FAX 042-665-5639

交通 JR中央線、京王線：「高尾駅」南口より京王バス 館ヶ丘団地行で「医療センター」
徒歩約1分(医療センターを経由しないバスは「北館ヶ丘」徒歩約3分)

URL <https://hachioji.tokyo-med.ac.jp>





- 東京メトロ丸ノ内線 西新宿駅(東京医大病院前) 出口 2
- 都営大江戸線 都庁前駅 出口 E5
徒歩約7分
- JR線ほか各線 新宿駅
タクシー約5分 / 西口から徒歩約10分
- 西武線 西武新宿駅 徒歩約14分

【新宿駅 西口から】

● 都営バス

- ⑧番のりば「王子駅行」
⑨番のりば「新代田駅行」
⑩番のりば「杉並車庫前行」

東京医大病院前 下車

● 西武バス

- ⑦番のりば「西武百貨店前行」 — 東京医大病院前 下車

● 京王バス

- ⑯番のりば「渋谷駅行」
⑰番のりば「永福町行」「校成会聖堂前行」

新宿住友ビル 下車



● 駐車場台数 約400台(有料)

- 駐車場料金 外来患者さんおよび付き添いの方
30分200円(割引適用後の金額)
一般利用の方、お見舞いの方 30分400円

